

岡山県学校図書館研究集録

第 60 号

令和5年

——2023——

岡山県小学校教育研究会情報教育部会学校図書館部
岡山県中学校教育研究会学校図書館部会
岡山県高等学校教育研究会学校図書館部会
岡山県学校図書館協議会

発刊によせて

岡山県学校図書館協議会
会長 藤井省吾

各学校におかれましては、学校図書館の魅力増進や児童・生徒の読書指導の推進等にご尽力いただくとともに、本協議会の取組へのご支援、ご協力を賜り心より感謝申し上げます。本年度は5月に新型コロナウイルス感染症が感染法上2類から5類へ移行し、ほぼ通常通りの学校生活が送れる状況となりました。そのことを受け、協議会の活動も、安全面に配慮しながら、参集や対面での事業が出来ることとなりました。8月には高梁市において第55回岡山県学校図書館研究大会（高梁・新見大会）が開催されました。県内各地から多くの方々に参加していただき、講演および分科会も大変有意義なものとなりました。また、10月には島根県益田市において中国大会が開催され、岡山県からの発表もありました。参加者から多くの質問が出るなど、発表内容への関心も高いものでした。このように様々な活動が順調に再開できましたのも皆様方のご理解、ご協力のおかげです。ありがとうございました。

さてこの度、その活動記録として、「岡山県学校図書館集録60号」を発刊する運びとなりました。平成26年度までは、印刷製本してまとめていましたが、より多くの方に読んでいただくために、平成27年からはホームページに掲載し、公開させていただいております。

本年度制定から70周年を迎えた学校図書館法の第一条に、「この法律は、学校図書館が、学校教育において欠くことのできない基礎的な設備であることにかんがみ、その健全な発達を図り、もって学校教育を充実することを目的とする」とあります。このように、学校図書館は教育環境において重要な役割を果たしています。豊富な情報源を提供し、生徒たちの学習や研究を支援をする場であると同時に、生徒たちの読書文化を促進し、言語能力や表現力の向上に繋げるとともに、批判的思考力や創造性を育む場ともなっています。豊かな読書体験は、個人の知的、感情的、社会的な発達に寄与し、生徒たちの健全な成長に欠かせないものです。このような理由から、今後も学校図書館の充実を図っていく必要があると考えています。引き続き学校図書館の充実に、ご理解・ご協力をいただけますと幸いです。

最後になりましたが、この研究集録を発刊するにあたり、多大なご尽力・ご協力をいただきました関係各位に厚く感謝申し上げます、巻頭のあいさつとします。

目 次

発刊によせて

第55回岡山県学校図書館研究大会（高梁・新見大会）……………1-1～1-35

令和5年度岡山県学校司書研修会（玉野大会）……………2-1～2-14

第69回青少年読書感想文岡山県コンクール……………3-1～3-2

第35回読書感想画岡山県コンクール……………4-1～4-5

絵本研究部会……………5-1～5-3

優良図書研究部会……………6-1～6-9

指定図書選定委員会……………7-1

司書部会……………8-1～8-2

その他

- 1 令和5年度 岡山県学校図書館協議会 事業報告……………9-1
- 2 令和5年度 岡山県学校図書館協議会 支部協議会事業報告……………9-2-1～9-2-7
- 3 岡山県学校図書館協議会組織図……………9-3
- 4 岡山県学校図書館協議会規約……………9-4-1～9-4-2
- 5 岡山県学校図書館協議会司書部会会則……………9-5
- 6 岡山県学校図書館協議会73年の歩み（略年表）……………9-6-1～9-6-6

第55回

岡山県学校図書館研究大会

高梁・新見大会

大会テーマ

豊かな心と主体的に学びに向かう力を育てる学校図書館



雲海の松山城

令和5年8月18日（金）

高梁総合文化会館

高梁市文化交流館

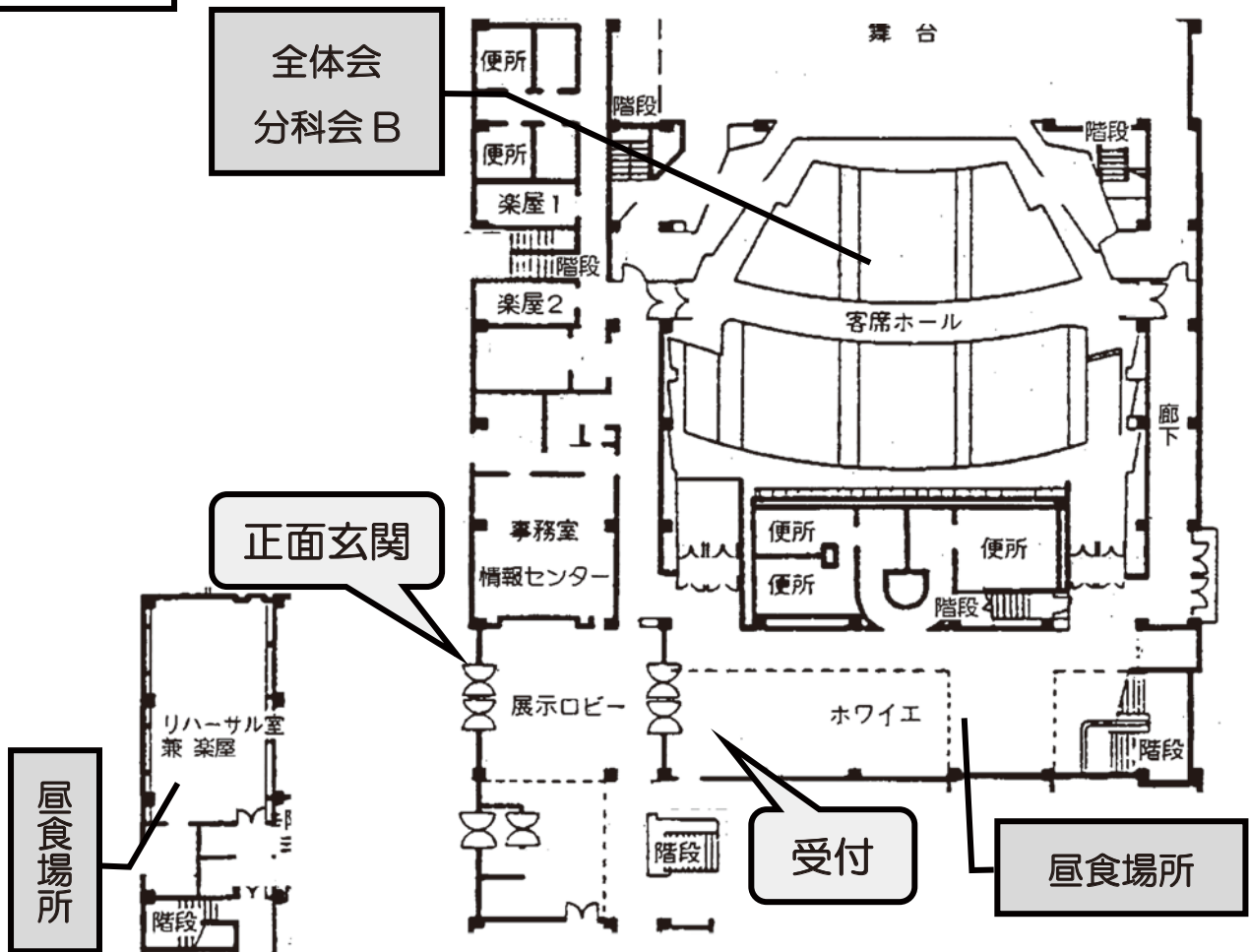
岡山県学校図書館協議会

目 次

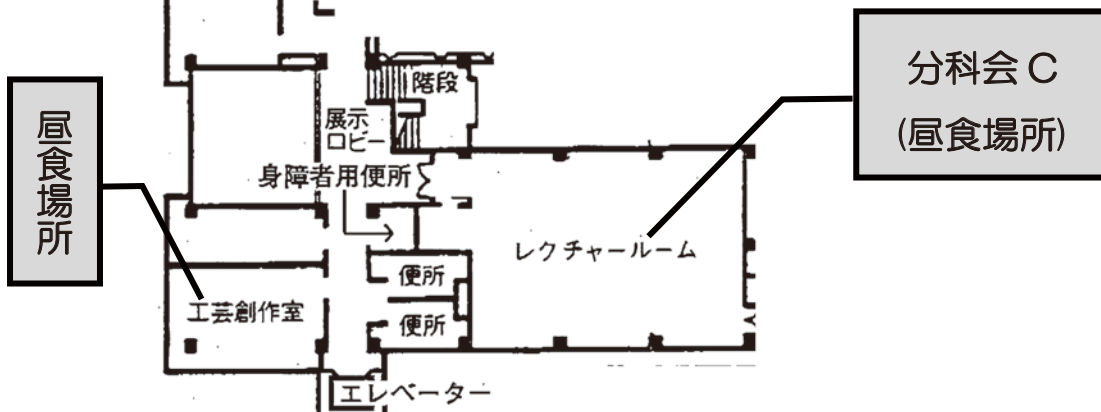
会場案内	1
ごあいさつ	3
開催要項	4
講 演	5
分科会一覧	6
分科会発表一覧	
【分科会A】	7
【分科会B】	17
【分科会C】	25
【分科会D】	31
大会役員 大会実行委員	33

会場図

【高梁総合文化会館】 1階



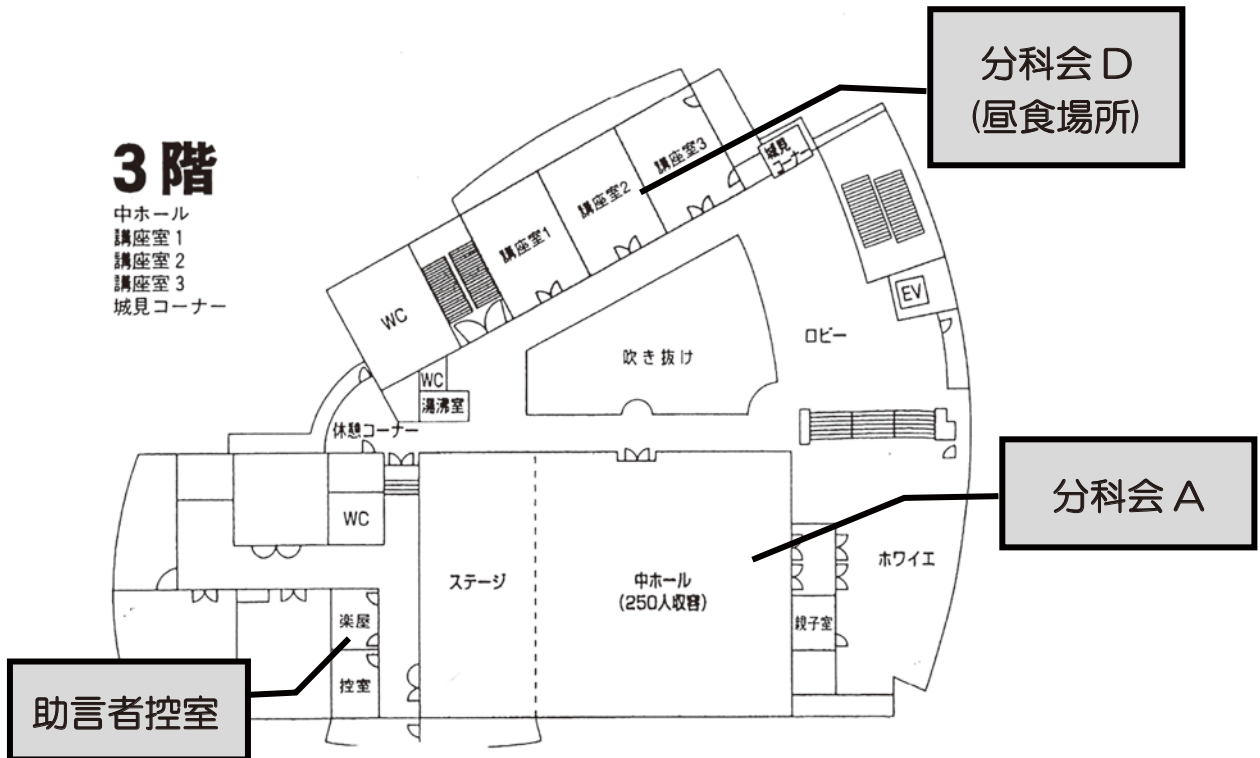
【高梁総合文化会館】 2階



【高梁市文化交流館】

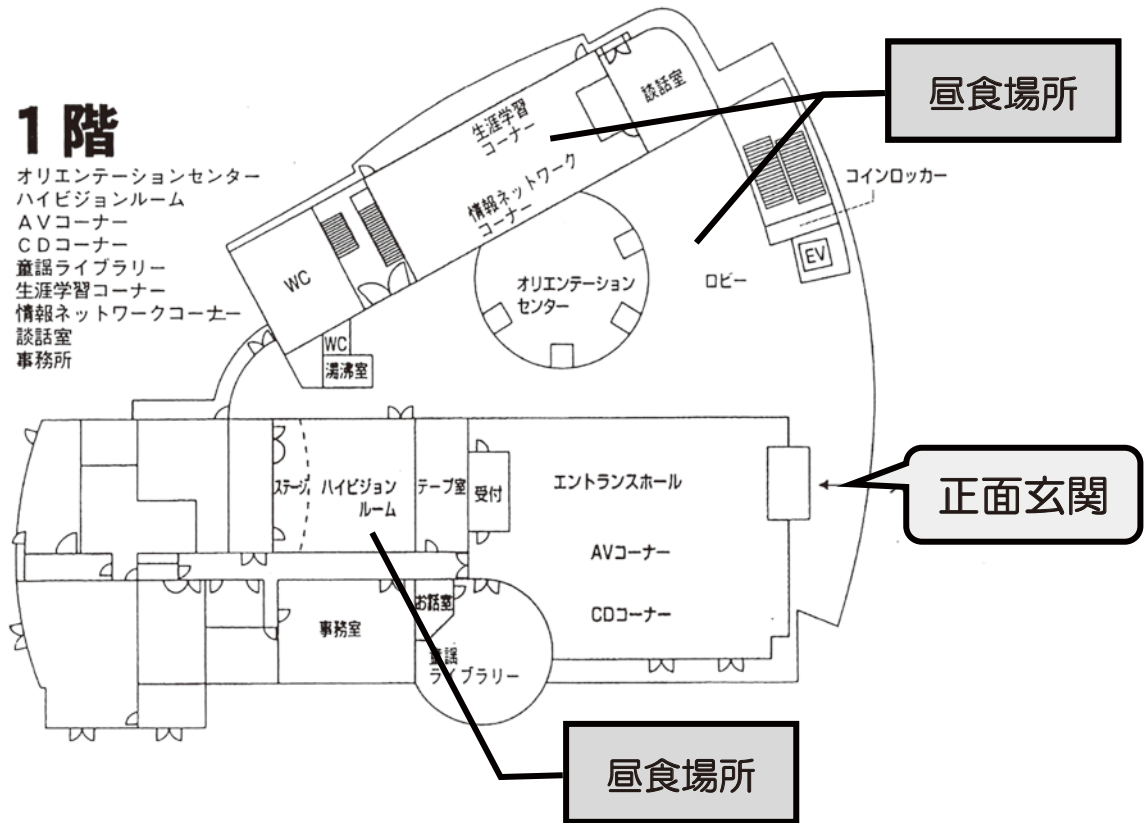
3階

中ホール
講座室1
講座室2
講座室3
城見コーナー



1階

オリエンテーションセンター
ハイビジョンルーム
AVコーナー
CDコーナー
童謡ライブラリー
生涯学習コーナー
情報ネットワークコーナー
談話室
事務所



ごあいさつ

岡山県学校図書館協議会

会長 藤井省吾

大会テーマ「豊かな心と主体的に学びに向かう力を育てる学校図書館」のもと第 55 回岡山県学校図書館研究大会（高梁・新見大会）を開催できますことを、大変嬉しく思っております。皆様方におかれましては、平素より学校図書館の魅力増進や児童・生徒の読書活動にご尽力いただき感謝申し上げます。

前回大会の第 54 回大会は、開催に向け準備を進めておりましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、誌上開催となりました。この 3 年間、本大会だけでなく、様々な行事が中止もしくは縮小を余儀なくされたところですが、本年度は、5 月に感染症 5 類へ移行されたことに伴い、このように参集する形式で実施することができました。前回大会が誌上開催になったことで、本大会の準備の方も例年になく大変であったと思います。あらためて、準備・運営にあられた関係者の皆様のご苦勞に感謝申し上げます。

さて、豊かな心、つまり他人を思いやる心、生命や人権を尊重する心、自然や美しいものに感動する心などの育成には体験的な学習が必要となります。読書は体験であるとも言われています。実際、読書で登場人物に感情移入しているときの脳は、体験しているときの脳と近い動きをしているという話もあるようです。また、主体的な学びにおいては PBL、いわゆる課題解決型学習の有用性が言われており、課題研究や探求的な学習において学校図書館の役割はますます大きくなってきております。

また、現在、岡山県では 2019 年から概ね 5 年間とされる「第 4 次岡山県子ども読書活動推進計画」が進行中です。重点的な取組として、児童生徒の自主的な活動の充実（学校図書館の計画的な利活用）があげられています。

このように学校図書館の求められる役割が大きくなる中で本研究大会を開催する意義は誠に大きいものがあります。益井博史先生のご講演、そして 4 つの分科会の協議を通じて小中高の情報共有や相互の連携体制がより進展することを期待しているところで

最後になりましたが、岡山県教育委員会をはじめ、ご支援とご協力を賜りました多くの皆様に厚く御礼を申し上げましてごあいさつとさせていただきます。

開催要項

- 1 期 日 令和5年8月18日(金)
- 2 会 場 高梁総合文化会館
〒716-0043 高梁市原田北町1212 TEL:0866-22-1040
高梁市文化交流館
〒716-0043 高梁市原田北町1203 TEL:0866-22-0180
- 3 主 催 岡山県学校図書館協議会
- 4 共 催 岡山県小学校教育研究会 岡山県中学校教育研究会
岡山県高等学校教育研究会
岡山教育事務所管内図書館協議会 備中地区高等学校図書館協議会
- 5 後 援 岡山県教育委員会 高梁市教育委員会
新見市教育委員会 岡山県市町村教育委員会連絡協議会
岡山県読書推進運動協議会 全国学校図書館協議会
- 6 大会テーマ 「豊かな心と主体的に学びに向かう力を育てる学校図書館」
- 7 趣 旨

新学習指導要領にも示されているように、生きて働く「知識・技能」、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」を3本柱に学校現場で育成すべき力は多岐にわたっている。自己の感情や行動を統制する力や自らの思考の過程等を客観的に捉える力、多様性を尊重する態度と互いのよさを生かして協働する力など、多くの力を育成する必要がある。そのために、学校の「知の拠点」である学校図書館が果たす役割は大きく、家庭・地域との連携、ICTの活用、司書教諭と学校司書の協働した学校図書館運営の充実とともに、教科と連携した学校図書館の幅広い資料、情報、蔵書を活用した多様な学びが必要である。また、国においては第5次「学校図書館図書整備等5か年計画」が策定され、新学習指導要領が求めている主体的・対話的で深い学びの実践の場として、学校図書館が期待されている。

これまで教育現場では、時代と共に求められる本が変化してきた。受け継がれていくべき本や、今必要とされている本について更新や廃棄を正しく見極め、カリキュラムに沿って必要な本をそろえることが求められる。超スマート社会に向けて、今後はデジタル資料も取り入れていく必要があり、同時にアナログ資料も有効活用できる環境を整えることも大切である。また、さまざまなメディアがある中で、メディアに対応した読む力(読み方のリテラシー)も重要になってくる。

このように時代は予測不能な速さで変化しているが、子ども達に有益な図書や学校図書館の存在が、幼児・児童・生徒の心を育むこと、これからの時代に求められる主体的な学びを支えることに大きく貢献すること、すなわち子ども達も未来を切り拓き、生きる力を身につけていく上で重要な役割と位置を占めていることは、今までもこれからも変わることはない。

本大会では、こうした学校図書館がもつ役割や使命を再確認し、幼児・児童・生徒の豊かな感性や情操を育む学校図書館の在り方、自ら課題を見つけ、主体的に探究し、学びを深めていく「主体的・対話的で深い学び」を支える学校図書館の在り方等について、4つの分科会で発表される研究発表を通して研修を深め、学校図書館のさらなる充実を目指していきたい。

8 日 程

9:30	10:00	10:40	12:10	13:00	15:40
受付	開会行事	講 演	昼食・移動	分科会	

- 9 講 演 演 題 『ビブリオバトルが拓く読書とコミュニケーションの可能性』
講 師 一般社団法人ビブリオバトル協会
ビブリオバトル普及委員会理事 兼 関西・中国地区代表
益井 博史 先生

講演

演題 『ビブリオバトルが拓く読書とコミュニケーションの可能性』

講師 一般財団ビブリオバトル協会

ビブリオバトル普及委員会理事 兼 関西・中国地区代表

益井 博史 先生

第55回岡山県学校図書館研究大会 高梁・新見大会 分科会一覧

分科会	A	B	C	D
テーマ	「学校図書館の運営・連携」	「豊かな心を育み、読書の楽しさを味わわせる学校図書館」	「主体的に学ぶ力を育てる学校図書館」	「心をつなぐ絵本」
小学校	<p>豊かなつながりを大切にして 学びを創る子どもの育成 ～学校図書館の機能を活かした 知的創造の場をめざして～</p> <p>【発表者】共同発表 岡山市立西小学校 教諭 大田 真衣 岡山市立芳泉中学校 学校司書 大橋 昭子</p> <p>子どもの知的創造をひろげる 学校図書館をめざして ～図書館と連携した授業づくり～</p> <p>岡山市立御南小学校 教諭 久富明日香 教諭 石井希久代</p> <p>児童の思いや願いをかなえる 学校図書館</p> <p>【発表者】 玉野市立後閑小学校 教諭 郁田 真三</p>	<p>子どもを本に近づける 手立ての工夫</p> <p>【発表者】 真庭市立北房小学校 教諭 安田 京幸</p>	<p>主体的な学びを生み出す 授業をめざして ～「知りたい」「読みたい」 「伝えたい」を引き出すために～</p> <p>【発表者】 倉敷市立老松小学校 教諭 松本 啓子</p>	<p>心をつなぐ絵本 ～SDGsとつながる絵本～</p> <p>【発表者】 倉敷市立福田南中学校 教諭 山田 宏美</p> <p>図書館活動及び絵本の紹介</p> <p>【発表者】 高梁市図書館 副館長 有富 哲矢 新見市立中央図書館 館長補佐兼係長 西村 康子</p>
中学校	<p>読書活動推進に向けて ～連携の取組から～</p> <p>【発表者】 笠岡市立笠岡西中学校 教諭 笠原由利子</p>	<p>読書の輪を広げるために ～図書委員会・国語科の取組～</p> <p>【発表者】 岡山市立御南中学校 教諭 太田理恵子 わくわくする学校図書館を めざして ～本に親しむ生徒の育成～</p> <p>【発表者】 赤磐市立高陽中学校 教諭 遠藤真理枝 学校司書 吉次真由美</p>	<p>図書委員会と連携した 読書推進活動</p> <p>【発表者】 鏡野町立鏡野中学校 教諭 山崎亜紀子 学校司書 妹脊多郁子</p>	
高等学校	<p>津山モデルを活用した 学校図書館運営 ～美作支部の取組から～</p> <p>【発表者】 岡山県立津山工業高等学校 学校司書 竹内英里香</p>	<p>確かな論理的思考力と 豊かな情操を育む読書指導 ～中高6学年を通じた 帯活動の実践～</p> <p>【発表者】 ノートルダム清心学園 清心中学校 清心女子高等学校 教諭 太田菜津子 司書 野崎 敦子</p>	<p>生徒の主体的な活動による 図書館利用の推進</p> <p>【発表者】 岡山県立津山高等学校 教諭 立山千亜紀</p>	
助指 言者導	高梁市教育委員会 こども教育課係長 平松 敬子	新見市教育委員会 学校教育課指導係主査 津島 左知	倉敷市教育委員会 学校教育部指導課指導主任 野口 泰紀	新見市立中央図書館 館長 藤森 貴広
司会者	笠岡市立新吉中学校 教諭 三宅 直子	赤磐市立赤坂中学校 主幹教諭 金谷 優子	倉敷市立老松小学校 教諭 平松 芙美	新見市立神代小学校 教諭 宮長 和未
記録者	高梁市立高梁小学校 教諭 河本 有彩	新見市立新見第一中学校 教諭 西村 展子	倉敷市立柏島小学校 教諭 寺岡美紗子	新見市立野馳小学校 教諭 石本 倫子
運営 責任者	高梁市立高梁東中学校 教諭 上原 和賀	新見市立新砥小学校 教頭 光島 知里	倉敷市立琴浦中学校 教諭 吉川 里美	新見市立神代小学校 教諭 宮長 和未

豊かなつながりを大切にして学びを創る子どもの育成
～学校図書館の機能を活かし知的創造の場をめざして～

岡山市立西小学校 教諭 大田 真衣
岡山市立芳泉中学校 学校司書 大橋 昭子

1 はじめに

本校は、児童数 1200 名を超える県内でも有数の大規模小学校。3 年生以上は 1 時間に 2 クラスずつ利用するなど工夫しながら年間約 900 時間の図書館利用がある。一人当たり年間貸出し冊数は 80 冊強。各学年とも様々な学習で図書資料を活用している。

このような図書館利用の背景には、学校図書館の機能を活かすためのさまざまな“つながり”（連携）がある。学校図書館の働きの根幹となる「資料提供」を、子どもたちに・教職員間にもどのように“つなげる”取組（運営）をしてきたか、実践を紹介する。

2 具体的な取組

（1）授業との連携の場面で

各学年の学習活動とともに、様々な形態で授業との連携が行われている。

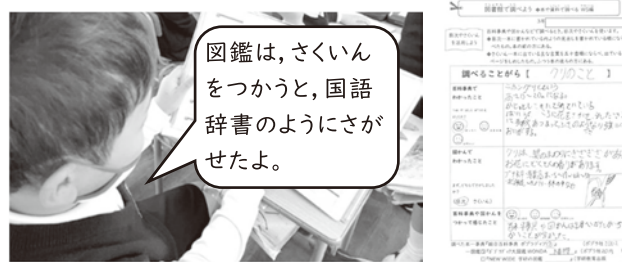
① 3 年生の事例から

□国語科「目次やさくいんを活用しよう」

図鑑と百科事典を利用して引き比べを行った。子どもは二人一組になり、図鑑と百科事典のセットを用いて「ライオン」や「コスモス」など、同じ見出し語について調べる。図鑑では「つめ」や「はしら」を、図鑑では「目次」や「索引」を用いて調べて、分かったことをワークシートにまとめ、引き比べた感想を書くという活動である。

事前に学習内容を学校司書に相談し、調べる見出し語を指定した図鑑と百科事典とをセットにした図書資料の提供を受けた。子どもは相手と協力しながら見出し語について調べ、途中から図鑑と百科事典を交換して読み比べる。図書資料の準備だけでなく、説明用のプレゼンテーションやワークシート等も準備したことで、子どもたちは学習の流れをつかみ

やすく、調べたことがらをまとめる活動を通じて、「図鑑は絵が多かったな。」「同じことを調べても、書かれている内容は違うんだな。」等に気付くことができた。



□総合的な学習の時間「ヤゴ救出大作戦」

学校のプールから救出したヤゴを飼育する活動のために、グループごとに「ヤゴの飼い方」や「ヤゴの種類」、「ヤゴのひみつ」等、調べる題材を設定し、図書資料を用いて調べた。調べて分かったことを、「紙芝居」や「観察日記」、「図鑑」、「新聞」、「模型」等に表示し、クラス内で発表をしたり、2 年生へ紹介したりした。いずれの場合も学習前に学校司書と相談や打ち合わせを行い、授業後には提供された図書資料が適切であったかを振り返った。

□他にも様々な教科や単元で図書資料の提供が行われた。図書資料だけでなく、雑誌や新聞の切り抜き資料、動画へアクセスできる QR コードなど、それぞれの学習の内容に合った様々な情報媒体の提供を受けた。

② 連携を支える資料提供

資料提供時には学習の導入に活用できる図書資料に加え、必要に応じて百科事典も学年貸出したり掲示資料を学年の教室の近くにある掲示板など図書館外にも貼ったりするなど、学習環境整備の一助となるよう工夫している。また、小学生新聞の特集記事や地方新聞で紹介される地元ならではの情報切り抜き資料も作成・提供している。

(2) 司書教諭と学校司書との連携

① 運営

各学年から出される図書資料活用の情報を共有。図書館からの広報紙に、図書館資料を活用した学習の様子・作品の紹介記事を積極掲載するなど、図書館の機能を家庭に発信することを相談しながら行っている。

② 蔵書構築

自校の長期・中期の図書整備計画に基づき蔵書を整備している。令和2年度から岡山市では国語の採択教科書会社に変更されたことに伴い、資料整備計画にも大きな変更が生じた。その際には、司書教諭と学校司書で各校に回覧された教科書の実物を一緒に見ながら、現在の蔵書で活用できるもの・新たに整備をしていくものを見通しをたてることができた。

③ 学期ごとの活動報告

学校図書館の活動について学期ごとに総括し、司書教諭・学校司書それぞれの視点から報告している。司書教諭からは、学習活動に関わる実践や委員会活動を中心に、学校司書からは利用状況や資料整備状況、日々の子どもの様子などを報告し、学校全体での図書館活動の共有化を図っている。

(3) 中学校区の研究テーマとの連携

① 週替わりのテーマ展示・資料紹介を継続することで、子どもたち自身がさまざまな角度から人・自然・社会に関心をもち、主体的にかかわるきっかけ作りをしている。子どもたちの日常の読書や自主学習につながる場をたくさん見ることができている。

② コロナ禍であっても絵本を投影することで、密にならずにお話を“目で聴き”楽しんだ。図書館の機能を学ぶ単元「図書館へ行こう」の学習を教室でも行えるとともに、本の分類や図書館内の工夫を“目で聴く”ことができるよう、授業者と学校司書とで打ち合わせをしてプレゼンテーション資料を作成し活用した。

(4) 児童図書委員会活動との連携

おすすめの本紹介や資料活用の実際を知らせるなど図書委員会の活動も、子どもと資料をつなぐ大切な場である。

① 行事・季節に合わせた本の紹介

本のPOP作り・テーマに合わせたコーナー

作りなど、図書館という場で本の魅力を知らせる方法に加え、Chromebookのクラスルームの活用を始めた。投稿した本の紹介カード(POP)・本の紹介スライドなどを事前に各教室で見ってもらうことで、紹介された本について興味を持ち、目的をもって図書館利用をする姿が見られるようになった。

② 作品(情報カード)募集の事例

利用者から本の魅力を発信してもらう手段として、自由なテーマで本を使って調べ、わかったことを記入した情報カードを読書週間企画として募集し、作品を掲示・交流した。

(5) 「チーム西小学校」としての連携

① 教職員で協力し行う図書館行事

潜在的な資料要求を引き出したり、新たな体験を資料につなげたりできるような取組としての図書館行事は、主に夏休み開館日に各学年の図書館教育部員と共に計画・実施している。コロナ禍では、規模の縮小を余儀なくされたが、教職員によるお話コンサート・落語の会などを実施している。

② 読み聞かせボランティアの活動

朝読書の時間を活用し、定期的に読み聞かせボランティアが来校する。季節のおはなしや子どもの興味関心を呼び起こす本の読み聞かせを長年継続している。

(6) 学校司書部会研修との連携

月1回の学校司書部会研修での学校司書同士の研修も、自校の図書館活動に還元している。令和4年度は研修成果物『小学校 図書館情報活用シート』(情報の扱い方を場面ごと、学びのプロセスごとにまとめた資料)を調べ学習の際などに活用し、その実践例を学校司書部会研修で紹介したり、他校での活用例を自校で取り入れたりした。

3 おわりに

3年生のトンボ調べ発表を聞いた2年生がトンボの本を探しに來たり、4年生が福祉の学習で調べた作品『UD 図鑑』を関連資料と共に展示すると、その両方を手に取ったりする子どもたちがいた。使われた資料が、子どもの学びや作品を通じて、次の資料活用につながっていく。学校図書館が、様々な連携を通して知的創造の場になることを願っている。

子どもの知的創造をひろげる学校図書館をめざして ～図書館と連携した授業づくり～

岡山市立御南小学校 教諭 久富 明日香
教諭 石井 希久代

1 はじめに

本校では、学校目標「ともに支え合い、心豊かにたくましく生きる児童を育成する」をもとに、研究主題「豊かなつながりの中で、自分の考えを広げたり深めたりする子どもの育成」を目指して、様々な授業の実践に取り組んでいる。そこで、国語科においては、児童の知的創造を広げるために、図書資料を活用して、中心教材の授業でつけた力を第三次に深め、伝え合うことができるように、学校司書と連携をした授業づくりを行った。

2 具体的な取組

単元名 くらべてよもう

「子どもをまもるどうぶつたち」

(東京書籍 1年下)

(1) 単元について

本教材は、動物は子どもを守るためにどのような行動をとっているのかについて、オオアライクイとコチドリを例に説明した文章である。登場する動物の特徴や子どもを守るための知恵の使い方を教材文から読み取る中で、それぞれの動物が自身の特徴に合う知恵を用いていることを捉えることができるようにする。さらに、第三次では自分が調べたい動物が子供を守るためにどのような知恵を使うのかを図書資料から読み取り、クイズを作成する活動につなげていくことを目指した。

(2) 単元目標

- ・共通、相違、事柄の順序など情報との関係について理解することができる。

【知識及び技能】

- ・文章の中の重要な語や文を考えて選ぶことができる。

【思考力、判断力、表現力等】

- ・これまでの学習で気付いたことやできるようになったことを生かして見通しをも

ち、積極的に文章の中の重要な語や文を考えて選び出し、好きな動物をクイズで紹介しようとしている。

【学びに向かう力、人間性等】

(3) 実際の授業 (10 時間)

① 第一次 (2 時間)

- ・成島悦雄さんの紹介
- ・題名や扉の文、ライオンの本を読み、成島悦雄さんがどんなことについて書いた文章なのかを予想する。
- ・単元全体のめあて(「成島さんのように動物博士になって、友達に教えてあげよう。」)をつかむ。
- ・「はじめ」「中」「おわり」に区切って文章を読み、大きなめあてをつかむ。

② 第二次 (5 時間)

- ・ライオン・オオアライクイ・コチドリがどんな動物か、どんな知恵を使うのかを読み取る。
- ・今まで読んできたことを振り返り、まとめや題名から成島悦雄さんが伝えようとしていることを考え直す。

③ 第三次 (3 時間)

- ・動物博士になって、どの動物について調べるか決める。
- ・図書資料を読み、自分の選んだ動物の特徴や、どんな知恵を使うのかについて、情報を集め、まとめる。
- ・動物の知恵クイズをする。

(4) 授業を振り返って

第一次では、扉の文や写真で紹介されているライオンを例に動物について知っていることを話し合わせたり、『どうぶつのおかあさん』(小林厚 文・藪内正幸 絵・福音館書)の読み聞かせをしたりすることで、動物はどのように子どもを守っているのか興味をもった状態で、教科書の本文を読み始めることがで

きた。また、著者である成島悦雄さんについての紹介をしたことで、著者に対する関心も高まっていた。

第二次では、動物は子どもを守るためにどんなことに困っていて、それを解決するためにどんな知恵を使っているのかについて読み深めた。その際、動物の親と子どもの挿絵を動かしながら、動物の行動や知恵を確かめた。毎時の授業の要点を黒板横にまとめて掲示したことで、児童がその掲示を見ながらこれまでの学習を想起する姿が見られた。

第三次のはじめには、『動物のちえ③育てるちえ』（成島悦雄監修・偕成社）を途中まで紹介することで、児童は実際の本に触れ、教科書には載っていない子どもを守る知恵に興味をもつことができた。児童に提示した同書は本教材の著者である成島悦雄さんが監修した本であり、「そこで、ちえをしぼります。」などのように、教科書の本文と同様に知恵が書かれていることを示唆する表現があるため、文章中の重要な語を探す時の手掛かりにしている児童が多かった。また、動物には様々な知恵がある中で、この本は子どもを守るために使う知恵に絞って記されており、第二次までの学習内容の流れに沿っていて、1年生の思考の流れに沿いやすかったように思われる。今回の実践では、学級担任が本の紹介を行ったが、図書館で司書が本の紹介をした学級もあった。

また、グループで活動することで、動物がどんなことに困っていて、どんな知恵を使うのかを図書資料から読み取る際に困ったときは、近くの児童と相談しながら図書資料に触れることができた。32人中27人が、図書資料からワークシートに重要な語を含んだ文章を書くことができた。残りの5人も、次時に再度グループで相談し合うことで、重要な語



（グループ活動の様子）

を見つけることができた。

本単元の学習が終わった後には、司書から様々な動物の知恵についての本を多数紹介して

もらった。すると、興味をもった児童がそれらの本を進んで手に取る姿が見られた。



（司書が本を紹介する様子）



（児童が紹介された本を手に取る様子）

（5）司書の視点から

第三次の「自分の選んだ動物を調べる活動」で児童が使う資料について1年担任と検討していく中で、1年生でも分かりやすい文章の書籍を探すことが難しかった。低学年の資料活用については、リライトも含めた資料提供の工夫を考えていく必要があると感じた。

様々な単元に取り組む中で、関係資料を図書の時間で適宜紹介することによって、児童の学習への意欲が高まっていく様子が見られた。担任と連携し、図書の時間の活用をしていきたい。

3 おわりに

今回の実践を通して、第三次を意識してどのように中心教材を読み進めていくかを考えていくことの大切さを感じた。どのタイミングでどのような資料を児童に提供するか、司書と連携して授業づくりをすることで、学級担任だけでは考えることのできない児童の学習への深まりを感じた。今後も、司書と連携して図書館を活用した授業づくりに取り組んでいきたい。

児童の思いや願いをかなえる学校図書館

玉野市立後閑小学校 教諭

郁田 真三

1 はじめに

(1) 本校の紹介

本校は、玉野市の東部に位置し、山と海に囲まれた自然豊かな環境にある。複式学級3クラス、特別支援学級1クラスの計15名の小規模校である。保護者・地域の皆様も学校に協力的で、児童をあたたく見守って下さっている。

(2) 主題の設定について

GIGA スクール構想が進み、デジタル化の波が教育活動の様々な場面に及び、児童は多くの情報に触れている。そのような中であっても、学校図書館が学校教育において欠くことのできない大切な学びの場であることは変わらない。

「学習指導要領 総則編」において、学校図書館を「計画的に利用しその機能の活用を図り、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かす」ことが示されている。このことを受け、児童にとって主体的・対話的で深い学びを支える、充実した学校図書館の在り方を探ろうと、本主題を設定した。なお、本実践をまとめるにあたっては、玉野市内の14小学校から提供された取り組みを参考にしながら行った。

2 具体的な取組

(1) 「読書センター」としての機能

本校は、読書への関心が高い児童が多く、図書の時間を楽しみにしている様子が見られる。読書の幅を広げたり、読んだ本を友達との話題に出したりするなど、読書に前向きである。そのような、児童の読書に対する意欲を育む取り組みを具体的に述べる。

① 学校司書による、本の紹介

図書の時間の始めに、新刊の図書について実物を見せながら簡単に紹介したり、話題のシリーズ本を面陳列でレイアウトしたりし

て、児童の本との出会いを設定している。また、図書館入り口の見えやすいところに、季節や学校行事に関する本を並べ、児童が手に取りやすい環境づくりを心掛けている。さらに、学年に応じた必読図書を見えやすいところにレイアウトして、適宜紹介している。このような読書活動や読書指導の日頃からの積み重ねによって、学校図書館が、児童の豊かな心や人間性、教養、創造力等を育む自由な読書活動や読書指導の場として機能することになる。



② 読み聞かせ

月1回、朝の学習の時間に読書ボランティアの方による読み聞かせを全クラスで行っている。校長・教頭・事務職員など、担任以外による読み聞かせも行った。

また、校内読書週間には、縦割り班に分かれて、高学年の児童が低学年の児童に読み聞かせを行っている。児童は、異学年の友達とコミュニケーションをとりながら、充実した読書の時間を楽しんでいる。

さらに、読書ボランティアの読み聞かせでは、物語の中で繰り返される言葉をボランティアと同じように口に出してみたり、読み終えた後の感想を進んで交流したりなどの様子がよく見られ、児童は読み聞かせの日をとても楽しみにしている。読み聞かせしてもらった本と関連する本を、自分でも図書室で借りる児童も多い。このように、地域の方々と温かい触れ合いの中で、本の楽しさを味わうことができている。

このような取り組みを続け、児童の豊かな心や人間性、教養、創造力等を育むことが、児童の自主的、自発的な学習活動や読書活動につながる。



(2) 「学習センター」・「情報センター」としての機能

① パスファインダーの作成・活用

市内の大崎小学校では、総合的な学習の時間に、それぞれの学年のテーマに応じて調べ学習を行う際、複数の図書資料や関連資料、探し方などを一覧にした手引き「パスファインダー」を作成した。

4年生が、総合的な学習の時間に「水について考えよう」というテーマで学習を行った。単元の初めのうちは、自分が求めている情報にたどり着くことができずに困っている児童が多かった。そこで、学校司書の作成したパスファインダーを児童に見せたところ、それぞれの児童が必要な情報にたどり着きやすくなり、円滑に調べ学習を行うことができた。

作成したパスファインダーを次年度以降も閲覧可能としたり、近隣の学校で作成したものを交流し合ったりなど、今後も効果的に活用していくことで、多くの児童の自主的・自発的な学習活動を支援し、情報の収集・選択・活用能力を育成することに努めたい。

※ パスファインダーの一部

児島湖を調べる(歴史・生物・地理)

<本>【図書室にあり】(郷土資料 09)

- ・ **育てよう！美しい児島湖 (2021 発行)**
…児島湖のこと、よごれの原因、よごれの対策、児島湖の生き物 など。
- ・ **児島湖ハンドブック (2022 発行)**
…児島湖のこと、児島湖の地形、どこの川から水が流れてきているか、水質、よごれの原因、全国で何番目に汚いか など。
- ・ **児島湖グリーンガイド (2012 発行)**
…児島湖の生き物(植物、魚、鳥)
- ・ **児島湖なぜなに大辞典 (平成 15 年図書館入)**
…どんな湖なの？なぜ作ったの？なぜきたなくなつたの？など、みんなが疑問に思うことがのっている。データは古いので、児島湖ハンドブックを参考に。
- ・ **郷土につくした人々 ふるさと歴史新聞「児島湖かんたくと藤田伝三郎」**
…なぜ児島湖を作ったのか、歴史を知りたい人はこの新聞がおすすめ。
- ・ **岡山・玉野の 100 年 (2001 発行)**
…27 p に児島湖の昔の写真がある。
- ・ **百科事典 ポプラディア 6 (2021 発行)**
…児島湖のついでの説明がのっている。

② 学校司書と担任との連携

どの時期に、どの学年が、どんな図書資料を必要としているのかを教育課程にも明記し、学校司書があらかじめ本や資料を準備するようにしている。図書館が各教科の様々な授業で活用されることにより、児童の学習がより主体的なものになったり、内容をより豊かにしてその理解を深めたりすることができる。

3 おわりに

学校図書館を、「読書センター」「学習センター」「情報センター」の3つの機能を有する場所として計画的に利活用し、児童の自主的・自発的な学習活動や読書活動を充実するよう努めることが、今後も求められる。特に、司書教諭及び学校司書については、学校図書館がその機能を十分に発揮できるよう、各者がそれぞれの立場で求められている役割を果たした上で、互いに連携・協力し、組織的に取り組むよう努めることが大切である。

読書活動推進に向けて ～連携の取組から～

笠岡市立笠岡西中学校 教諭 笠原 由利子

1 はじめに

(1) 本校の紹介

本校は岡山県の南西部にある笠岡市の中心部にある。瀬戸内海に面し、南には広大な笠岡湾干拓地と大小三十余りの島々からなる笠岡諸島が広がる。交通の便が良く、広島県福山市と接しており、昔から文化的・経済的に深い結び付きを持つ。

かつては中規模校であった本校も急激な少子化により各学年2クラス、特別支援学級2クラスの計8クラスからなる全校生徒203名の小規模校である。

(2) 生徒の読書傾向と図書館利用について

今年度の全国学力・学習状況調査より「普段1日あたりどのくらいの時間、読書をしますか」という質問に対して10分以下の生徒が46.5%、新聞をほとんど読まない生徒94.9%、「家に本がある」という質問で25冊以下が48.3%という結果がでた。

また、家庭で全く本を読まない生徒が年々増えている中で読書量がある生徒達も本の内容は偏りがあり、アニメ化作品のノベライズやライトノベルを読んでいる生徒が全体の半数以上という実態がわかった。

ただ、「読書は好きですか」という質問に対して好きと答えた生徒が約71%いることから、読書をする環境が整っていないことが推察された。

そこで、図書館を利用・工夫することで生徒達の読書環境を整えていく実践に取り組むこととした。

2 具体的な取組

(1) 県・市との連携

① 「おもしろe読書事典」の活用

本校では、毎朝8分間の朝読書を行って

いる。本は各自で用意するが、図書室から毎月10冊の本を図書委員が選択し、学級文庫として教室に置いてある。忘れた生徒はそれを活用する。令和4年度から、3年生にタブレット端末より「おもしろe読書事典」の本を許可したところ、当初は2割程度の生徒が利用していた。自分の好きな本を直ぐに手に入れることができる、面白くないと思えば別の本を直ぐに準備できるというメリットがある。後半になると半分以上の生徒が利用するようになった。

② 「もっとおもしろ読書事典」図書活用

読書週間の企画として、貸借した図書セットの貸出しを実施した。本を2冊一組セットにし、見えないように包装、本の福袋と題して、外側に簡単なテーマ(内容)を記入した付箋を張り付けて貸出す。ただし、これにはルールが設定してある。

- ・家に帰ってから袋を開ける。
- ・興味がわかなくても読んでみる。
- ・返却期限を必ず守る。

福袋の中には当たりくじ(5冊貸出券)や一口感想メモを入れておき、図書委員の手作りのしおりやお守りなども景品にした。どんな本が入っているかわからないので、躊躇する生徒もいたが、当たりくじや司書の勧めに惹かれて早い段階で貸出が完了した。一口感想メモには、「今までに読んだことがない本を読んだ。意外と面白かったので、また読みたい」「興味のない本だったので、最後まで読まなかった」というもの等があった。

③ ブックカバー講習会

笠岡市立図書館の司書を招いての講習会を企画した。夏休みの1日、生徒だけでなく保護者にも参加していただく。内容は、

- ・笠岡市立図書館の上手な使い方
- ・中学生にお勧めの本の紹介
- ・本のカバーかけ講習

の3本立てで、メインは各自が持参した本に、実際にカバーをかけることだったが、コロナ感染症のために未実施となった。

④ 調べ学習用図書への貸借

学校に必要な資料を、すぐに笠岡市立図書館から借りることができる。学校用の貸出カードから学校図書館司書が手配し、1か月間中学校内で閲覧できるシステムになっている。

(2) 地域との連携

- ・ボランティアによる読み聞かせ

各クラス月に1回、卒業生の保護者や地域のボランティアの方々による絵本の読み聞かせ活動を行っている。教材提示装置を使い、モニターに絵本を映し出しながら朗読をしてくださる。機器の設置などの準備と司会進行は図書委員が行っている。

(3) 小学校との連携

① 図書委員による読み聞かせ

人権週間の期間に、中学校の図書委員がオンラインによる読み聞かせを行った。本校の学校図書館司書が低・中・高学年用に3冊の絵本を選定し、それを図書委員が朗読した。放課後に練習を重ね、学区の3小学校に届けて、人権週間の取組の一つに組み込んでもらった。小学生からは感想やお礼のメッセージが届けられ、図書室や廊下に掲示した。

② 読書ビンゴ

「にこにこビンゴ」と名づけ、笠岡西学園（笠岡西中・笠岡小・今井小・大井小）の学校図書館で一年間を通して行った。ビンゴのマス目の中に「教科書に掲載されている本」「卒業生のおすすめ本」などの指定枠や「フリー」の枠があり、ビンゴすることで貸し出し冊数が増えていくというシステムになっている。図書委員がビンゴカードのクラスカラーを選んだり、ビンゴコーナーに本の設置をしたりして、準備を進めた。6割程度の生徒が参加した。

(4) 国語科との連携

① ICT機器を活用した読書記録

令和4年度より本格始動となったAIドリ

ルの意見共有ソフトを使い、読書の記録をつけさせた。一枚目に本のタイトルと作者、二枚目に本の写真、三枚目に本の感想を書かせる。AIドリルを使うことで、興味を持った本を画像で確認することができ、夏休み明けに、読書記録をクラス内で交流する活動を行った。意見共有ソフトを使ってクラスで公開し、メッセージを送る機能を利用して交流した。他の生徒が本どんなを読んだのかを確認するとともに、自分の読んだ本を友人に勧める活動につなげることができた。

② 給食時間の全校放送

コロナ感染症予防の観点から、給食時は前を向いての黙食が基本である。この時間の毎週火曜・木曜の二日間を「朗読の時間」と名づけて、詩や小説、随筆などを紹介する全校放送を行った。国語科教員が、5分程度の朗読をするというもので、長い話は小分けにして実施した。

3 おわりに

岡山県の「おもしろe読書事典」を活用するに当たっては、図書館の本の貸出率が低下するのではという危惧があった。しかし、生徒からは、紙の本が読みやすいという声も多く、杞憂に終わった。「もっとおもしろ読書事典」図書セットの活用では、普段手に取らない本、読まなかったジャンルの本に触れることができ、新たな読書活動に発展した生徒がいたことは大きな成果だと言える。

ビンゴリストにある、卒業生が選書した本は、先輩から後輩への贈り物である。準備中リスト本をブックトラックに置いていたら、「この本めっちゃ感動したやつ」「これ、初めて本を読んで泣いた本」等、様々な声を聞くことができた。素敵な読書体験をしている先輩からの贈り物が、後輩に受け継がれていくことに感動を覚えた。

AIドリルによる活動も生徒の読書意識に変化をもたらすことができた。読書について改めて興味を持つ良い機会であったと思う。

単発的でなく継続した取組を行うことが課題である。

津山モデルを活用した学校図書館運営 ～美作支部の取組から～

岡山県立津山工業高等学校 学校司書 竹内 英里香

1 はじめに

美作支部は、岡山県北の津山市・美作市・勝田郡の地域からなり、司書配置のある高校は現在9校となっている。中でも津山市内の5校は津山市立図書館と「津山モデル」という相互協力協定を締結している。ここでは、その津山モデルを活用した学校図書館運営における取組を報告する。

「津山モデル」とは、津山市独自の図書館相互協力制度システムの通称である。設置主体の異なる図書館が協定に基づいた連携を行うことで、津山市全体の読書・学習環境の拡充と、利用者の利便性の向上を目的としている。

この連携は2007年5月に「津山市立図書館と美作大学附属図書館との相互協力に関する協定」として始まり、翌年4月に津山工業高等専門学校が、10月に市内6高校（現在5校）が協定に加わった。

津山市立図書館が毎日搬送便を運行しており、協定参加館はお互いの図書館を地区館のように利用することができる。

2 具体的な取組

(1) 授業支援

協定に参加している津山市内の高校では、図書館を運営する上で日常的に津山モデルのシステムを活用している。ここでは、授業支援に関する事例を紹介する。

① 情報デザイン（津山工業高等学校）

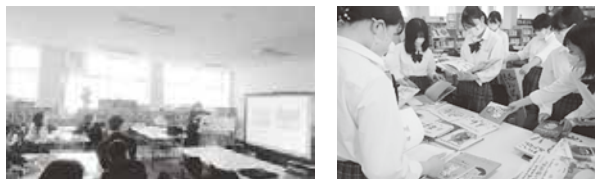
1例目は、津山工業高校のデザイン科2年生の例を紹介する。課題として統計グラフを作成するにあたり、テーマ調べのために図書館を利用したいと依頼を受けた。事前授業で生徒が挙げたテーマ候補を聞き取り、それぞれの内容ごとに参考になりそうな本を市立図書館から相互貸借した。

相互貸借にあたっては、美作大学が管理する、美作地区の横断検索システムを利用する。市立図書館からの相互貸借は、通常利用者と同じく、Web上で検索・予約を行うことができ、在庫資料に関しては当日中の配送も可能となっている。また返却の際も、協定参加館のメーリングリストで返却本の回収を依頼すると、市立図書館の搬送便に立ち寄ってもらえる。返却の際に煩雑な手続きを必要としないところも、事務室との兼務が多い美作地区の学校司書にとってはありがたい点である。

② 絵本製作実習（津山工業高等学校）

続けて、同じく津山工業高校デザイン科の例を紹介する。3年生徒が課題として絵本を作成するにあたり、絵本の特徴等を解説してほしいという依頼を受けた。

1例目同様、美作地区の横断検索システムを利用して本を検索し、津山市立図書館より資料の相互貸借を行った。大型絵本なども直接学校に届けてもらえるため、生徒の前で実際に読み聞かせの実演も行った。



また作成の参考に、絵本作品も数多く取り寄せた。高校図書館は絵本の所蔵数が少なく、自館だけで参考となる資料を揃えることは難しいが、津山モデルを活用することでより充実した授業支援を行うことができたといえる。

③ 国語表現（津山工業高等学校）

④ 国語（津山中等学校）

3例目と4例目は、同一テーマの類書を

まとめて相互貸借することにより授業支援を行った例を紹介する。まず津山工業高校では、生徒が一人一篇好きな詩を選んで鑑賞文を書く、という授業を行うにあたり、詩集の取り寄せの依頼を受けた。

取り寄せた詩集はブックトラックに設置し、生徒が自由に閲覧できるようにした。お気に入りの詩を選ぶ、という授業の性格上、人数分+ α の冊数を選定する必要があったが、フリーワード検索で分類番号を指定することが可能な美作地区横断検索機能を活用することで、効率よく選定することができた。



津山中学校では、論語に関する調べ学習を行うにあたり、60冊ほどの資料を市立図書館より取り寄せた。また学校図書館に所蔵があるものに関しても、複本として同じ本を依頼するなど、生徒がより多くの選択肢の中から選定できるよう工夫した。

いずれの授業も、担当教員から依頼を受けてから授業日までが間もなかったため、県立図書館の学校図書館授業支援のひとつである学校セット等で対応しようとすると、準備が間に合わなかった可能性が高い。即応性の高さが特徴の津山モデルを活用することで、急な依頼でも柔軟に対応することが可能となった。

(2) 図書委員会交流会

美作地区の司書部会では、毎年図書委員会交流会を開催している。内容は年によってさまざまだが、近年は津山モデルにより確立された市立図書館・高校図書館間の結びつきを盛り込んだ内容となっている。

令和3年度には、津山市立図書館を会場とし、図書委員生徒が来館者対象に豆本やブックカバー作成のワークショップ等を行った。令和4年度は、津山工業高校図書館を会場とし、POPの作成を行った。交流会前の準備段階として、まず司書が津山市立図書館職員よりPOP作成の講義を受けた。交流会当日には、

その内容をもとに津山高校司書がワークシートを作成し、生徒にレクチャーを行った。



交流会の参加者からは、「POPの作り方を学べてよかった。楽しかった(生徒)」「POP作りは日頃の図書委員会活動に直結する実践的な内容でとても役立った(教員)」といった感想が寄せられた。日頃からPOP作成の業務を行っている市立図書館職員からレクチャーを受けられたことで、生徒たちにもより実践的な指導を行うことができた。



交流会当日に生徒が作成したPOPは、秋の読書週間に合わせて市立図書館で展示した。

3 おわりに

学校図書館にとって、授業支援を行う意義は大きい。実際に教員がどのような資料を必要としているのか、どのような資料が生徒にとって使いやすいのか、またそうでないのか、直接知ることのできる機会は貴重である。津山モデルの大きな特徴として、「搬送便が毎日運行している」という点がある。日々業務に追われる教員から「明日までに」「今週中に」といった急な依頼を受けて、せめて1週間準備期間があれば、と思った経験のある学校司書は多いのではないだろうか。タイミング次第では即日対応も可能な津山モデルのスピード感は、授業支援の機会を損なわないためにも大変有意義に機能している。

図書館5原則に“図書館は進化する有機体である”という一節がある。自校の授業カリキュラムにおける図書資料の需要を把握することは、直接図書館の改善につながる。学校図書館を“進化する有機体”としてブラッシュアップさせていくためにも、今後も津山モデルを活用した取組を続けていきたい。

子どもを本に近づける手立ての工夫

真庭市立北房小学校 教諭 安田 京幸

1 はじめに

本校は、旧北房町内の小学校が一つに統合され開校6年目を迎える小学校で、現在児童数は214人である。木材を使ったきれいな校舎内の1階中央部分に、メディアセンターという名の図書コーナーが設置されている。教室のように仕切られておらず、誰でも自由に入り利用しやすく、学校中央部分の2階建て校舎の吹き抜けとなった開放感のある空間の中に8,487冊の本が整理され並んでいる。そのため、児童のメディアセンター利用率は高い。図書司書は、中学校との兼務のため、週に3日、本校の図書館経営に携わっている。

しかし、私は本校に赴任して3年目を迎えるが、担任する児童の実態として、自分から進んで読書をしようとする児童が年々少なくなっているように感じている。そこで、児童が本を身近に感じ、自分から本に近づく児童の育成を目指して、微力ながら取り組んでいる。

2 具体的な取組

(1) 学級内での取組

まず、本に近づけるために学級の中で行った手立てを紹介する。

① 環境づくり

ア 学級文庫

子どもを本に近づけるためには、メディアセンターのみではなく、教室の中でも常に本を身近に感じ、気軽に手に取ることが大切だと考え、教室内の棚には、常時、我が子が子どもの時に読んでいた本などを置き、隙間時間に児童が本を手に取りやすいようにした。低学年の場合は絵本を中心に置き、高学年では学年相当の本や学習に関連した本、さらに低学年向けの本や絵本を置くこととした。これには、一定の効果があり、低学年の児童は

メディアセンターに足を運ばなくても、隙間時間には本を手にするようになり、高学年の読書があまり好きではない児童にも、気楽に本を手取るきっかけ作りになった。



←絵本を中心とした1年生教室

イ 学校図書館・公立図書館を利用して学習に関係した本も手に取る機会を作りたいと考え、図書司書を通じて公立図書館よりクラスの児童が1人1冊は手に取ることができる冊数を借りた。ロッカーの上や棚の上に、ブックスタンドを用いて紹介し、手取りやすい環境を作った。

例) 1年 乗り物の本・動物の本など

6年 修学旅行で行く山陰に関する本・宮沢賢治の本など

これは、すぐにインターネット等で調べようとする子どもが多い中、一部の児童に効果があった。

② 読書紹介の取組

週末の宿題として読書を出し、週明けにクラスみんなに紹介する取組を紹介する。

ア 低学年での取組

1年生の場合、文章に書いて読書紹介する活動は難しいため、月曜日の国語科の時間に、毎回、週末に借りた本を持ち、好きなページを開いてどこが良かったのかを紹介する活動を取り入れた。低学年の場合、実際のページを見せて伝えると、「読んでみたい。」と感じる児童が多く、次にメディアセンターへ借りに行くときには、絵を手掛かりに友だちが紹介した本を借りようとする児童が大勢いた。

イ 高学年での取組

高学年になると、文章に書いての紹介ができるようになり、週末の宿題で読書をして紹介文を書く取組をした。しかし、書くことが苦手な児童もいることから、後半はタブレットを用いて、本の画像や主人公の絵を入れつつ作成するように工夫した。このことにより、徐々に紹介のポイントやレイアウトを考えた紹介文が書けるようになり、国語科や調べ学習のまとめ方にも効果があった。また、図書委員会の児童が、図書司書に教えてもらった「簡単POP作成くん」を使ってのPOP作りを紹介することで、自力では紹介文を作成しにくい児童も作成でき、クラス全員で取り組むことができた。

低学年・高学年共に、紹介で作った文は、クリアファイルにはさみ、本のようにして教室に掲示することで、子どもたちの意欲付けに効果があった。

(2) 司書と連携した取組

① 空想科学教室

昨年、図書司書が「STEAM 空想科学教室」に申し込み、空想科学読本の著者である柳田理科雄氏を招いて、空想科学教室を行う機会を持つことができた。2学年授業をしていただく中で、子ども達は空想科学に興味を持つと共に「空想科学読本」の本にも興味を示すようになった。メディアセンターにある「空想科学読本」には、一部熱心な愛読者がいたが、教室に置いていた17冊の「空想科学読本」の本に対しては、手に取ることがほぼなかったが、興味を持って手に取るようになった。自分が本を書いた人に実際に会って学んだことと、本の内容に興味を持ったことが合わさってのきっかけを作ることで、今まで興味を持たなかったジャンルの本にも関心を持ち、自然と手に取ることができるようになることを実感した。

② レオ・レオニのうさぎを作ろう

レオ・レオニの絵本に出てくるようなうさぎ作りを、いろいろな用紙を使って作る活動を行った。これは、低学年中心の活動となったが、作成することを楽しみレオ・レオニの本にも興味を持つきっかけとなった。

③ 給食とのコラボ

図書司書が朝読書の時間等を活用して対決物の絵本の紹介をした後、それぞれの食べ物に関する投票を行い、一番人気の物が給食にでるという取組を2年間行った。一昨年は「にく」昨年は「麺」についての総選挙を行ったが、図書司書による絵本の読み聞かせを体験した上での活動は、全校の児童が興味・関心を持つことができた一大イベントとなった。

(3) 学校での取組

① 地域ボランティアの方との取組

昨年度まで、毎週金曜日の朝学習の時間に、低・中・高学年のどこかの学年に、地域のボランティアの方による読み聞かせを実施してきた。コロナ禍で来ていただけない時は、学校の職員の中でくじを引き、当たった学年へ行行って読み聞かせを行った。低学年は、読み聞かせが大好きで楽しんで参加できていた。一方高学年は、アンケート結果から、読み聞かせを楽しむよりは、自分の選んだ本を自分のペースで読みたい児童が高学年全体の8割を超えていた。そこで本年度は、地域ボランティアの方には低学年を、高学年には回数を減らして職員が読み聞かせを実施している。

② 週末読書の取組

本校の教育課程の保護者アンケートでは、毎年、読書に対する項目の値が低くなっている。そこで、家庭を巻き込んだ読書時間が増えるように、週末には全校読書の宿題を行うようにしている。習慣化しつつあるが、未だ本は借りるが読まない児童がいるため、今後の課題となっている。

3 おわりに

昨今のネット環境の普及等で読書の必要性を感じない児童にとっては、ただ読書を勧めるだけでは、子どもを本に近づける効果がないように感じる。読書に目的を持たせることで、読書の習慣化につながり、好きな本が一冊でも見つかると、今後も取組を続けていきたい。

読書の輪を広げるために
～図書委員会・国語科の取組～

岡山市立御南中学校 教諭 太田理恵子
教諭 三宅 実咲
学校司書 春田 辰美

1 はじめに

本校は、岡山市の中心部から南西に約 5.5 km の笹ヶ瀬川の東岸に位置している。全校生徒は 834 名、1 年生 9 学級、2 年生 7 学級、3 年生 8 学級、特別支援学級 5 学級の大規模校である。

令和 4 年度、図書館教育に関して、課題に挙げたのは以下の二点である。

- ・本校の図書館は各学年の教室から離れた場所に位置しており、貸出等の利用がしにくい環境にある。
- ・メディア時間の増加により、読書時間が減少している。

上記二点の改善に向け、図書委員会・1 年国語科・2 年国語科で取り組んだ内容を紹介する。

2 具体的な取組

(1) 図書委員会の取組

① 朝読書の推進

本校では、毎日 8 時 25 分～8 時 35 分の 10 分間、朝読書の時間を設けている。図書委員は、読書の始めと終わりの号令をかける。

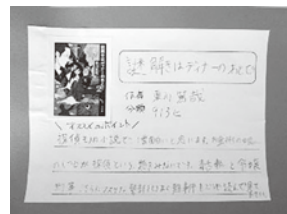
それだけでなく、読書に取り組むことのできていない生徒がいないか教室を回って確認し、声掛けを行っていたクラスでは、自然と朝読書を行う静かな雰囲気を作ることができるようになっていった。このことを委員会内で共有し、学校全体が朝読書に前向きに取り組めるように図書委員が働きかけるようにした。

② おすすめの本の紹介

1 学期には先生のおすすめの本、2 学期には図書委員のおすすめの本に関するポスターを作成し、図書館前に掲示した。

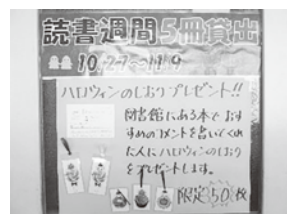
先生のおすすめの本に関しては、各学年団の先生にインタビューを行ったため、どの学年の生徒も興味を持っていた。

図書委員のおすすめの本に関しては、図書委員自身も自分の読書生活を振り返る良い機会となっていた。



③ 読書週間の設定

7 月・10 月・12 月にそれぞれ 10 日ほど読書週間の期間を設定した。貸出冊数を通常の 3 冊から 5 冊に増やしたり、生徒からイラストを募集したしおりや雑誌の付録をプレゼントする企画を行ったりすることで、利用者の増加につなげることができた。



④ クラス対抗ジグソーパズルの実施

毎日図書館で本を借りた生徒の人数に応じた枚数のパズルのピースを貼り、パズル完成までの期間を競う企画を行った。クラスで表彰を目指し図書委員が呼びかけを行うことで、普段図書館に通うことのない生徒が図書館に足を運ぶきっかけになっていた。



⑤ 健康と食に関する本のコーナー設置

12 月に保健委員会が健康と食をテーマにした全校集会を行ったことに合わせ、「野菜」「ウイルス」「ヘルシーレシピ」「生活習慣」

に関する本を図書委員が選び、展示を行った。該当の本に興味を持ち、借りる生徒が多く見られた。



(2) 1年国語科の取組 (ビブリオバトル)

夏休み前の読書指導として、国語の授業内で「ビブリオバトル」を1年担当学級で行った。まず、実際のビブリオバトルの様子を映像で確認してから、自らが読んで印象に残った本を持ち寄り3分間で発表をした。その後、ディスカッションの時間を2分設け、質疑応答や読んでみたい本の選出にあたった。

実際に本を持ち、興味関心を引きつけながら、内容を紹介し、生徒たちにとって読書活動へのよい動機付けになったと感じている。

図書館司書と連携を取り、チャンプ本(一番読みたいと思われた本)を図書館に導入してもらうなどの手立ても有効である。

国語科教員を中心に、読書指導を推進することができた。生徒の事後アンケートで「ビブリオバトルをまたやってみたい」と回答した者がほとんどであった。今後も継続して行ったり、ブックトークを行ったりすることで、本への更なる興味喚起につながると考えられる。

(3) 2年国語科の取組 (本のポップ作り)

① 授業計画

第1時	ワークシートを用いて、ポップの構成を考える。
第2時 第3時	ポップ作りを行う。

ポップの構成としては、選んだ本のタイトル・著者名・出版社と本のあらすじや内容、本を手にとってもらうためのキャッチコピーを必ず盛り込むように指導した。本の出版社は奥付で確認するようにし、本の内容を引用する際に、出典を明らかにすることの重要性も併せて指導した。キャッチコピーを考える際には、印象に残っていることばや登場人物の台詞を引用することも有効であることを助

言した。用紙はA5サイズの白色の画用紙を用い、イラストを入れたり、画用紙を貼り合わせて立体的にしたりと、興味を持ち、本を手にとってもらうための工夫をすることができている生徒が多く見られた。

② 図書館との連携

生徒が作成したポップの中で、図書館の蔵書にあるものを図書館に展示した。他学年の生徒も積極的に手に取り、本の貸出につながっていた。

3 おわりに

(1) 各取組の振り返り

図書委員会としては、1年間の取組を通して、委員の生徒が図書館の円滑な運営のために自主的に動くことができるようになった。本の紹介やコーナー企画など、委員の生徒が情報を発信する活動は特に意欲的に取り組むことができていた。

1・2年生の国語科としては、読書の輪を広げるために、一つの単元の授業を行うことができたが、教科書に載っている教材の学習を深めるための図書館の活用を行うことができていないのが課題である。

(2) 令和4年度の成果と課題

一人当たり 貸出冊数	本校	市内平均
令和2年度	18.4冊	16.7冊
令和3年度	19.6冊	15.2冊
令和4年度	20.6冊	16.4冊

貸出冊数に関しては、上の表のとおり、過去3年間で増加し続けている。今後も図書委員会の取組を充実させ、全校生徒の図書館利用につなげていきたい。

読書時間の減少への対策としては、毎日の朝読書の取組を大切にしてきた。朝読書の時間が貴重な読書の機会になっている生徒も多いため、読書へ向かうきっかけとして、今後も全校で取り組んでいきたい。

また、Chromebookの導入により、他教科でも調べ学習等で図書館を活用する機会が大きく減少しているので、国語科を中心に、図書館と連携した授業を行っていきたい。

わくわくする学校図書館をめざして ～本に親しむ生徒の育成～

赤磐市立高陽中学校 教諭 遠藤真理枝
学校司書 吉次真由美

(研究同人) 和気町立和気中学校 教諭 片岡 由佳

1 はじめに

(1) 本校の紹介

本校は岡山県赤磐市の南西部に位置している。1, 2年生2クラス, 3年生3クラス, 特別支援学級3クラス, 計10クラスからなる全校生徒約250名の中規模校である。(令和4年度)

本校から近い距離に赤磐市立中央図書館があり, 本に親しむ環境が整っている。

(2) 本校の図書館

本校の図書館は, 蔵書が約12000冊と充実している。令和4年度の貸出冊数が約8200冊で, 一人当たり33冊と利用はかなり多い。一方で, 多くの生徒の利用の内訳が現代小説に偏っている現状がある。

そこで, ①本に親しむ生徒の育成の推進②生徒の読書のジャンルを広げること, 以上2点について重点的に取組を行った。

2 具体的な取組

(1) 学校全体の取組

① 朝読書の実施

本校の朝読書は, 8時30分から8時40分までの10分間である。原則, 毎朝行っており, 教員も一緒に読書を行う。朝読書で読む本を探しに図書館に向かう生徒の姿もしばしば見られる。学校全体で継続して行っている取組であり, 貸出冊数に大きく影響があると考えられる。

② 学校支援ボランティアによる読み聞かせ

年間5回, 朝読書の時間を活用して学校支援ボランティアによる読み聞かせを行った。ボランティアの方に各教室に出向いてもらい, 絵本や本の読み聞かせ, 民話の語りなどをしていただいている。読み聞かせ後, 生徒はすぐに感想を書き, お礼としてボランティアの

方に渡している。

(2) 学習図書委員会の取組

① ピックアップコーナー

ピックアップコーナーとは, 学習図書委員会の生徒による図書室の一角に作られた本の紹介コーナーのことである。毎月, 担当学年を変えて, 図書館にある本の中から一人一冊選び, 書いた紹介文を展示した。先輩や友達が勧めた本に興味をもつ生徒が多く, ピックアップコーナーに置いた本はよく手に取られたり, 貸し出されたりしていた。また, 日頃自分では選ばないようなジャンルの本も置いてあるので, 新たな分野の読書へチャレンジしやすかったようだ。



② 学級文庫

学級文庫は学習図書委員の生徒が管理している。月替えて選書して入れ替え, 各クラスに10冊ずつ置いている。

③ 読書週間

ア 先生方のお勧め本紹介

先生方のお勧め本と本の紹介を書いたカードを模造紙に貼り, 掲示した。その際, 可能な限りそのお勧め本を紹介カードとともに置いた。

イ 赤磐市立中央図書館の職員さんにインタビュー

学校図書館にとどまらず、利用の幅を広げたいとの思いから、赤磐市立中央図書館でインタビューを行った。よく貸し出されている本、最も利用している世代、人を集める工夫、中学生へのメッセージなどを職員の方に聞き、学習図書委員発行の配付物として、全校生徒に配った。手書きで温かみのある紙面になった。

ウ 学級文庫に入れて欲しい本のアンケート

学習図書委員が毎月10冊どのような本を教室に学級文庫として置いて欲しいか、学級でアンケートを行った。自分たちで集計し、それに基づいて選書を行った。

エ カタログコーナー

図書館に新しく入荷してほしい本をカタログの中から選び、リクエストすることができるコーナーを作った。

オ チャレンジザミッション&よみくじ

図書館や本に関するクイズ形式によるビンゴを達成するとごほうびに「よみくじ」が引けるといものである。「よみくじ」とは、あらかじめ図書館司書が分類番号ごとに選書しておき、引いた番号によってランダムに本が渡されるものである。普段なかなか読むことのないジャンルの本に手を伸ばす機会となった。また、ちょっとしたゲーム性もあり、生徒からは好評であった。

(3) 図書館としての取組

① 図書だよりの発行

新着図書の案内、利用の様子、呼びかけなどをまとめて月に1度の頻度で発行している。夏休みには「図書だよりの職員用」も発行している。内容は、利用の様子、課題、運営報告などで、先生方に図書館への興味を持っていただく目的である。

② 本の紹介・読書案内・環境整備

ア 展示・掲示

学校行事や年中行事に合わせた特集を組んだり、話題本や人気本からの関連する本をテーマに月替わりで展示したりした。

イ 日常的な読書案内

カウンターに一冊、作品・作者・ニュース

などの本を置いた。その際、手書きの簡単なコメントを添えた。また、返却期限票の空きスペースにプチ情報と関連本の紹介を掲載した。具体的には、ことわざ、難読漢字、数独(オリジナル)、名言や格言など、飽きないように数種類をこまめに更新した。

ウ 環境整備

生徒が自ら本を見つけられることも読書支援のひとつと捉え、分類別に0類から順に並ぶよう書架を移動した。長年に渡りスペースや棚のサイズに融通が利かず、本来の場所へ置けずにいた。いくら分類表を掲示していても生徒たちに分類の理解を求めるのは難しい状況であった書架を移動したことにより、分かりやすい配架順が実現し、分類法に基づく利用指導が日常的に行いやすくなった。

(4) 授業での取組

1年生の国語の授業において、ビブリオバトルに取り組んだ。1時間目に発表メモを作り、2時間目に班の中で発表した。緊張しつつも、お勧めの本の魅力を伝えようと必死に語る生徒の姿が見られた。以下は生徒の振り返りである。「自分は読まないような本を紹介されたが、発表を聞くうちに読みたくなった。」
「紹介するためにもう一度本を読んだら、別の面白いところを見つけた。」本を通して友達の新たな面を知ったり、友達を通して新しい読書分野を広げたりすることができたようだ。

3 おわりに

日頃から行っている読書指導に加えて、今年度は生徒主体の活動を増やしたことにより、本に親しむ生徒の育成の推進ができたのではないかと考える。特に、ビブリオバトルや本の紹介など、同年代の友人から本を勧められることで本に親しむ生徒の育成が推進されるということ強く実感した。

また、ピックアップコーナーや「よみくじ」などの取組によって、「文学」のみならず他のジャンルに手を伸ばす生徒が増えたと感じている。

今後も、生徒が読書の楽しみを味わい、豊かな心を育むきっかけとなるような学校図書館の在り方を模索し続けたい。

確かな論理的思考力と豊かな情操を育む読書指導 ～中高6学年を通じた帯活動の実践～

ノートルダム清心学園 清心中学校・清心女子高等学校 教諭 太田 菜津子
学校司書 野崎 敦子

1 はじめに

本校はカトリックのミッションスクールであり、「心を清くし 愛の人であれ」を校訓とする県内唯一の女子校である。

本校の教育理念のひとつである「冴えた理性と豊かな情操を兼ね備え、あわせて確固たる人生観、道義に満ちた社会観を持つ人間を育成する」を大きな目的とし、2019年度より確かな論理的思考力と豊かな情操を育むための言語活動を「言葉のちから」という名称で実施している。

全校生徒を対象に、毎朝20分間のモジュール活動を行う中で、「論理」と「情操」という2つの面からの言語能力の育成を目指している。

また、この活動では、言語能力育成のひとつとして読書活動の充実を目的とし、図書館との積極的な連携を図っている。

2 具体的な取り組み

「言葉のちから」は、主に「黙想」「読書」「読解」の3つの活動を柱としている。今回は特に「読書」における取り組みについて紹介したい。

(1) 課題読書について

① 採択の基準

読書の活動においては、生徒が自分の好きな本を読む「自由読書」と、学年ごとに指定された図書を読む「課題読書」の時間をそれぞれ設定した。

課題読書では、学年ごとに課題図書を設定している。基本的には学年始めの4月から1学期間に読む本を各学年1冊設定し、他にもそれぞれの学校行事に関わるような内容の本を設定することがある。課題図書の選定基準は、中学生は「生徒たちが読書を通じて共感を覚えやすいような、身近な年代の少女を主人公とした作品」や「生徒に読書の喜びや楽

しさを伝え、読書の習慣化につながる作品」とした。高校生は「教科書に採択されていて、高校卒業までに通読してほしい作品」や「自身の進路を考えるきっかけになる書籍」とした。

以下、2022年度に採択した課題図書である。

- ・中1…ミヒヤエル・エンデ『モモ』
- ・中2…モンゴメリ『赤毛のアン』
- ・中3…L.M. オールコット『若草物語』
- ・高1…池上彰『なんのために学ぶのか』
- ・高2…キム・ジヘ著（尹 怡景訳）『差別はたいてい悪意のない人がする』
- ・高3…池上彰『なんのために学ぶのか』
ヴィクトール・E・フランクル著
（池田 香代子訳）：『夜と霧』
末永幸歩『13歳からのアート思考』

② 日々の読書記録

特に課題読書の活動において、日々の読書記録を書くようにした。20分間の中で自身が読み進めたページ数と心に残った一節を書き留め、感想を書くという形式にした。読書記録を書くことで本からの学びを振り返ることができるとともに、特に高校3年生にとっては大学入試の面接などで自身の読書体験を語る上で重要な資料となっている。



(2) 図書館との連携

本校図書館は中・高共用で、各クラス2名の図書委員を中心に図書館利用者や貸出冊数

を増やそうと活動している。

「言葉のちから」の時間の設定にともない、次のような取り組みを行っている。

① 利用時間の延長

「言葉のちから」の実施に合わせて開館を早め、登校してすぐに図書館を利用できるようにした。図書委員も朝当番を決め、鍵の開閉やカウンター業務、朝刊の差し替えなどを行った。

② 学級文庫の充実

「言葉のちから」により校内での読書時間が増加したことから、学級文庫を定期的に設置している。クラスにすぐに手に取れる本があるという環境は、生徒たちの充実した読書習慣を促すものになっている。

また、図書委員にとって自分のクラスの学級文庫を選定するという機会は、自身の読書に対する興味・関心の幅を広げることにつながると期待できる。



③ 本の魅力発信

校内の読書活動の推進を目的とし、本の魅力を伝えるイベントを行った。校内放送で本の一部を朗読し、その関連本のテーマ展示を図書館で開催するなど、図書の貸出増加に向けた取り組みにもつながった。「同じ部活動の先輩がおすすめしていたから」という理由でいつもは読まないジャンルの本を選ぶなど、生徒にとって新たな読書体験のきっかけになっていたようだ。



3 おわりに

(1) 成果

「言葉のちから」の実施の主な効果として、まずは読書量の増加が挙げられる。年度末に全校生徒へのアンケートを行い、「言葉のちから」実施前後での一か月の読書量を比較した。実施前、一か月間全く本を読まなかった生徒は43%だったが、「言葉のちから」実施後の同じアンケートでは0冊が6%と大きく減少し、1冊が48%、2～3冊が37%と読書量が大幅に増加していることが分かる。この結果から、「言葉のちから」の実施により、毎朝20分間、確実に読書をする時間を確保することができていると言える。

次に、確かな論理的思考力と豊かな情操の育成に向け、この豊富な読書活動が生徒にどのような効果をもたらしているのかを検討したい。

まず、語彙力や文章理解力の育成があげられる。単純に言葉にふれる機会が増えるだけでなく、より豊かで洗練された言葉に出会うことができる。

また、普段の読書において小説に偏りがちな生徒が多い中、評論やエッセイを課題図書として設定することで、ひとつの話題について論理的に記述された文章を読む時間を設定することができる点が挙げられる。これにより、文学的文章を読むことによって期待される情操面での育成だけでなく、論理的な思考の育成に向けたインプットの機会を得ることができる。つまり、「言葉のちから」が目的とする「情操」と「論理」の両面をバランスよく育むことができると考えられる。

(2) 課題

日々の学校生活の中で、毎日確実に本に触れる時間があるという環境は、生徒にとって大変有意義なものである。そして、その機会をより充実したものにするためには、図書館の活用が不可欠である。授業などで一時的に利用するのではなく、生徒たちが日々の生活で自然に活用できる図書館にするために、今後さらに学校全体での連携と意識の涵養を目指していく必要がある。

主体的な学びを生み出す授業をめざして ～「知りたい」「読みたい」「伝えたい」を引き出すために～

倉敷市立老松小学校 教諭 松本 啓子
学校司書 岡本 佳也子

1 はじめに

本校は、倉敷駅南西徒歩15分に位置し、倉敷市街地の中心部近くにあり、学級数34学級、児童数888人（令和5年5月1日現在）の学校である。すべての学年において、年間図書貸出冊数が市の平均を上回っていて、朝読書の時間（毎週金曜朝学習15分間）や図書の時間には、黙々と読書を楽しむ姿が見られている。校内読書週間には、様々な活動に意欲的に参加する児童が多い。よい環境の下、学校図書館を最大限活用し、教室での授業と図書館での学習を日常的に結び付けていきたいと考え、2学年において「読むこと」に関する授業を提案することとした。

2 具体的な取組

(1) 4年生の授業の実際（全12時）

中心教材「ごんぎつね（光村図書4年下）」
第3次 12時 目標「新美南吉の他の作品を読み比べ、自分なりの考えをまとめることができる。」

① 課題を自分事としてとらえさせるために（導入）

- ・新美南吉の紹介を作品とともにすることにより、作品に関心をもちやすくするとともに、本時のめあてにつなげることができるようにする。
- ・「手ぶくろを買いに」を読み聞かせし、ブックトークの方法を知らせることで、本時の活動が具体的に理解できるようにする。

② 考えを広げ、深めさせるために（展開）

- ・クラウド型授業支援アプリを利用することで、教師の準備した作品の中から興味のある本を自分で選択して、自分のペースで読むことができるようにする。
- ・ブックトークでは、「気持ちの変化」「情

景」「感想」の3つの観点で自分の考えをまとめることで、友達との共通点や違いに気づきやすくする。

- ・ペアや近くの友達、同じ作品を選択した友達とブックトークをして感想を伝え合うことで、自分の考えを友達に伝えたり、友達の意見から考えを広げたりすることができるようにする。

③ 課題解決の過程を振り返らせるために（終末）

- ・ブックトークで感想を伝え合い、友達との感じ方や考え方の違いがあったことを確認することで、物語に対する考えを深めることができたことを認識できるようにする。

(2) 2年生の授業の実際（全13時）

中心教材「お手紙（光村図書2年下）」
第3次 13時 目標「『ふたりは…』シリーズの作品を楽しんで読み、感じたことや分かったことを友達と共有することができる。」

① 課題を自分事としてとらえさせるために（導入）

- ・「お手紙」は「ふたりはともだち」の中の1つのお話であり、がまくんとかえるくんのお話が他にもあることを伝えることで、読むことへの関心をもつことができるようにする。

- ・「なくしたボタン」を読み聞かせした後に、「お手紙」の挿絵でかえるくんの上着にボタンがたくさんついていることに気付かせることで、この2冊の共通点を確認する。さらに、他にも共通点があるのかと問うことで、本時のめあてにつなげることができるようにする。

② 考えを広げ、深めさせるために（展開）

- ・クラウド型授業支援アプリを利用するこ

とで、教師の準備した18作品の中から興味のある本を自分で選択して、自分のペースで読むことができるようにする。

- ・読んで気付いたことや感想を「しょうがいカード」に書き、ペアや近くの友達、同じ作品を選択した友達と、カードを読み合ったり感想を伝え合ったりすることで、自分の考えを友達に伝えたり、友達の意見から考えを広げたりすることができるようにする。

③ 課題解決の過程を振り返らせるために
(終末)

- ・シリーズ本を読み、読後の思いを簡単に振り返られるワークシートを用意することで、更なる読書意欲をもつことができるようにする。

(3) 授業を終えて

2学年において「読むこと」に関する授業を提案した。4年生では、「新美南吉記念館」のサイトで物語の情景理解をしやすくしたり、新美南吉が短命の中で多くの作品を残している生い立ちを紹介したりすることで、「ごんぎつね」の作品をもっと深く、また、新美南吉の作品をもっと多く「知りたい」という思いをもつことができたと考える。家庭学習で取り組んでいる音読頑張りカードには、ほとんどの児童が目安としている3行以上の感想や考えたことを書き、それが次時の学習の導入につながることもあった。2年生では、「なくしたボタン」の読み聞かせ後、既習の「お手紙」の挿絵と比較することで、挿絵から児童が新たな発見をし、他の作品はどうなっているのか気にしている様子が見られた。

また、クラウド型授業支援アプリを活用することで、用意したアーノルド＝ローベルのシリーズ本や新美南吉の作品をいつでもどこでも読みたいときに読みたい本が選べるように工夫を行い、児童の「読みたい」という思いをすぐに実現できるようにした。図書の間や朝読書の時間、休み時間にも意欲をもって継続して読書をすることができていた。どちらの学年でも行った読み聞かせでは、どの児童も興味をもって真剣に聞いている姿が見られ、本との出会いの工夫も大切だと感じた。

友達に紹介したい内容や気に入った表現、読み取った心情の変化などに線を引ながら読むことができるタブレットというメリットを取り入れながら読み進める児童の姿が多く見られ、それにより、より一層「伝えたい」という思いを引き出すこともできたと考える。

さらに、2年生には同主人公のシリーズ本を一覧にし、読み進めることができるワークシートを活用したことで、さらなる読書意欲をもつことが可能となった。授業から1か月後に行われた校内読書週間の取組の一つであった「おすすめの本カード」には、「伝えたい」という思いをもち、多くの児童が参加していた。また、掲示されたカードを熱心に読み、貸出予約をしたり、学校司書に本の在りかを尋ねたりする姿も見られた。友達の「伝えたい」という思いを受け取り、自分の読書活動に生かそうとしている姿も見ることができた。児童の発達段階に合わせた本への出合わせ方や読書意欲の継続の仕方は、今後も工夫していきたいと感じた。



3 おわりに

今回の実践を通して、該当学年の児童に合った本をいかに授業の中で取り入れるかを工夫することが大切であると感じた。「読むこと」に関する授業づくりの体制を整えることへの必要性を感じたので、学校司書と協力し、国語科だけでなく他教科の年間指導計画に合わせて学校図書館活用指導計画を作成した。また、国語科教科書で紹介されている本(「この本、読もう」「本のせかいを広げよう」)を図書館カウンター前に並べ、すぐに手に取ることができるように整備した。図書の時間に紹介される機会も増え、児童の読書意欲へのつながりも感じた。

今後も児童が目を輝かせながら本に向かう姿を目指して、学校図書館を学習に効果的に活用できるように、学校司書と連携を深めていきたい。

図書委員会と連携した読書推進活動

鏡野町立鏡野中学校 教諭 山崎 亜紀子
学校司書 妹脊 多郁子

1 はじめに

本校は岡山県北部に位置し、5小学校からなる岡山県下で一番広い学区をもつ。最北端は鳥取県との県境に接している。学級数15学級、生徒数323名である。「知・徳・体の調和のとれた生徒を育成する」という学校目標のもと、研究主題を「対話的学びによる学び合いの授業研究」と設定し、学習形態ではタテ持ち指導・TT指導・少人数指導・グループ学習を取り入れ、自律(自立)した生徒の育成を目指す。「自分でものごとを考える力」「他者と対話をする力」「継続する力」の3つの柱となる力の育成に取り組んでいる。

落ち着いた学習環境のもと、明るく素直で活動的な生徒が多く、主体的に行事に取り組むことができる。

本校では常駐の学校司書が配置されて2年目になる。本の整備、図書館の環境が整いつつある。生徒が朝読書を行う時間の前に本を準備できるように開館時間を8時に令和4年度より変更した。貸出数の半分が朝の時間を占めている。生徒は朝読書前の時間、昼休み、授業間の休み時間、放課後に図書館を利用している。昨年度の貸出数は5148冊で今年は7071冊に増加している。1年間を通して1冊以上借りた生徒が84.8%を占めている。全体的に読書意欲が高い生徒が多い。

2 具体的な取組

学期ごとに図書館運営促進に向け、図書委員会でイベントを企画した。

- 1学期…本のポップ作成、図書委員おすすめの本棚の設置
- 2学期…読書インタビュー、読書アンケート、生徒集会での結果発表
- 3学期…クラス対抗 しおり作成大会！

日常活動として「学級文庫」の本の選定と管理、図書館のカウンター当番がある。

(1) 「本のポップ作成」と「図書委員おすすめの本棚の設置」

「本のポップ作成」では図書委員が紹介したい本を図書館から1冊選び、ポップを作成した。出来上がった作品は図書館の本とともに展示を行った。また、おすすめの本を図書委員が一人1冊選び「図書委員おすすめの本棚」の設置をした。



(2) 読書インタビュー企画

図書委員の生徒が教員を対象に本に関するインタビューを実施した。各学年で誰にインタビューを行っていくか、どのようなことを質問するかについても生徒が考えた。そのインタビューの様子を録画して生徒集会で全校に紹介した。1年生は国語科の教員、2年生は数学科の教員、3年生は校長にインタビューを行った。インタビュー内容については以下のようなものである。

- ・中学生の時に読んだ本
- ・感動したシーン
- ・おすすめの本について
- ・好きな作者
- ・今までで一番本を読んだ時はいつか
- ・本を読んでよかったと思ったことは
- ・本を読むとはどういうことか

(3) 図書の購入希望・読書アンケートの実施

全校生徒に図書委員から各クラスに図書館で購入して欲しい本のジャンル、具体的な書

名についてアンケートをとった。そのアンケートを図書委員会で集計し、学校司書に相談して本の購入を行った。

「読書アンケート」では1日の読書時間について、どこの本を手にとって読んでいるかを調べた。

図書委員会でアンケート集計を行い、結果を生徒集会で発表した。

(4) クラス対抗 しおり作成大会

各クラスで、しおりを作成して、図書館の壁面に掲示を行った。

(5) 学級文庫の本の選定と管理、図書館のカウンター当番

本校では朝の8:25~8:35の10分間、朝読書に取り組んでいる。教室には学級文庫を10冊常備している。また毎月、本の入れ替えを図書委員が行った。本の選定も図書委員が行い、学級での管理を行った。

(6) 図書委員会の開催場所

本年度から月に1回行われる図書委員会を図書館で行った。学校司書も参加する中で取組に助言しながら委員会活動を進めることができた。

3 おわりに

図書委員会の生徒が主体的に様々な取り組みを考えることによって、より本への親しみが湧き、生徒自身の視点で全体に発信することができた。また、図書館で図書委員会を行うことで学校司書から直接助言をすることができ、取組をより充実したものとすることができた。日常活動であるカウンター当番では生徒と学校司書が自然と交流することができ、読書の話題につなげることができた。

読書インタビューでは生徒が実際に誰にインタビューするかを決定し、「この質問をしてみたい」と意欲をもって、活動することができた。また、先生方から紹介された本を読みたいという好奇心につながり、購入して図書館に置くことにつながった。

読書アンケートでは生徒の読書時間やどこの本を主に読んでいるかについて知ることができた。読書時間が15分以上であるという生徒が62%という結果より、学業や部活動等のすき間の時間をみつけて読書をしていることが分かる。

また、どこの本を手にとって読んでいるかについては本屋で購入している生徒が33%、図書館で借りている生徒が28%で同等である。この結果から、図書館の本を身近に感じ利用できていることが分かる。本のジャンルや最新刊の充実も図書館利用につながっているという実態をつかむことができた。そして、アンケートを基に生徒が読みたい本を学校司書と協働で購入することができた。

展示ではポップをつけて本を紹介したことによって、生徒の視点で本の面白さやおすすめ場面などを示すことができ、展示されている本を手にする生徒の姿も多く見られた。

朝読書については図書委員が主体となり生徒が選定した本を定期的に入れ替えることで、積極的に手に取り読む生徒の姿が見られた。

常駐で学校司書が配置されてから、2年目で図書館の環境は整いつつある。今後も本について生徒自身が対話を通して、主体的に学ぶことができる取組を進めていきたい。そして短期的な活動だけでなく企画、準備、実行、発信ができるような広がりのある活動を増やしていきたい。また、今年度限りの活動にするのではなく、次年度も継続していくことで生徒の主体性がより育つと感じている。

近年一人一台端末になりICT活用も重要になっている。本の紹介の様子を撮影し、全体に発信するなど、委員会活動の中で効果的にICTを活用していきたい。しかし、本校の図書館にはWi-Fi環境が整っていない。図書館に端末を用いることができれば、生徒が主体的に活動するための一助となり、活動の幅を広げることができると考える。

生徒の主体的な活動による図書館利用の推進

岡山県立津山高等学校 教諭 立山 千亜紀
(研究同人) 岡山県立津山東高等学校 教諭 篠埜 順子

1 はじめに

本校は、岡山県北にある1学年普通科5クラス、理数科1クラスの高校である。生徒のほとんどが大学への進学を希望しており、真面目で学習意欲が高い。その一方で、与えられた学習には地道に取り組むが、主体的に考え、行動する姿勢は不十分であると思われる生徒も少なくなかった。そこで学校をあげて「VGR」V (Vision = 将来を見通す力), G (Grit = 最後までやり抜く力), R (Researchmind = 探究し、解き明かす力) の育成に取り組むことで、思考力・発信力を最大限に伸ばし、主体性を身に付けて積極的にチャレンジする精神を高めていくことを目指している。

2 具体的な取組

(1) 読書活動を促す試み

① 朝読書

本校では平成27年度より、朝のSHRの時間を活用し10分間「朝読書」を実施している。この時間は広く教養をつけるための読書の時間とし、特定の教科に限らない思考力や物事を多面的にとらえる力を養うことを目的として始められた。原則的に各自が用意した本を読む時間であり、教師も教室で読むようにしている。ジャンルは自由であるが、年次が上がるにつれて、関心がある分野の新書や研究書、学術論文を読み進めるようになることを期待している。高校に入学後、勉強や部活動で忙しくて本が読めなくなったという生徒にとって、貴重な読書時間となっている。教室には図書館から貸し出された1クラス20冊の学級文庫が置かれており、生徒が身近に図書館の本を利用できるようになった。

② ブックレポート (令和3年度入学生)

関心の強いジャンルだけでなく、今まで触れたことのない多様なジャンルの中からも本を選ぶ機会を提供することにより、図書館利用の促進につなげるとともに自身の進路実現に向けて自己理解や見識を深められるように

することを目的として行っている。朝読書で読む本は自分の好きなジャンルに偏りがちになるため、他の生徒がどのような本を読んでいるかを知り、視野を広げていくことを期待している。また、自分自身の読書体験をレポートにしてまとめることで、知識の蓄積を図ることもできる。方法としては、朝読書によって継続的に読書をするとともに、読んだ本についてブックレポートを作成し、月に1回の提出日に担任に提出する。担任が全体に紹介したい生徒のブックレポートを1枚選んでPDF保存し、係が生徒ブックレポートを集約し印刷して全生徒に配付する。生徒は返却されたブックレポートを手帳に貼付してストックし、変容の記録とする。

(2) 主体的な学びのための図書館利用

① 図書館リニューアル

本校の図書館は令和元年度にリニューアルを行った。図書館が対話的で主体的な学びの場になるように個々の机にキャスターがついており、自由な配置にできるようにしている。このような形態にすることにより、授業や課題研究などにおいて、グループ学習や話し合いをする場面でも有効に活用されている。

② 授業での図書館利用

保健体育の授業では、2年次に自分の調べたいテーマに従って、レポートを作成し、発表することになっている。レポートを完成させるまでのほとんどの授業が図書館を利用して行われた。教師や生徒が研究のために必要だと考える本が図書館にない場合は、岡山県立図書館から学校セットを一定期間取り寄せるなどして、自分の研究テーマに対する深い学びにつなげるように努めた。また、学校設定科目ソーシャルサイエンスや現代文の授業などで図書館の資料を用いて調べたり、グループで研究を行ったりするなど、必要な場面では図書館を有効に活用している。

③ 十六夜プロジェクト・サイエンス探究

本校では総合的な探究の時間を、普通科は

十六夜プロジェクト（iP），理数科はサイエンス探究（S探）と呼んでいる。iPでは，1年次にはミニ課題研究等の活動を通じて，論理的思考・論理的表現などの研究基礎力を育成し，2年次には自らの興味・関心・進路と関連する分野から課題を設定して，仮説・検証・発表を行うことで将来への研究目標を深め，問題解決力を育成することを目的としている。また理数科のS探では，3年間を通して自然科学に関する課題を設定し，研究を行うことで科学的思考力や課題解決に対する主体的創造的態度を育成することを目指している。いずれも確かな文献に基づく研究が必要であり，図書館はその研究材料を提供する重要な場となっている。研究が進行する2年次は自主的に図書館を利用することが増えてきた。令和3年度から導入されたchromebookで図書館の蔵書検索ができるようになり，調べ学習をする際に，対象の書籍が図書館に置かれているかどうかを確認して来館できるようになったことで，利便性も向上した。

（3）生徒の主体的活動

① 文化委員会の活動

本校では，文化委員が中心となって，図書館業務や読書を促すための広報活動，読書会の運営などを行っている。10月～11月に行われる本校の読書会は，企画から運営まで全て文化委員が主体となって実施する。令和3年度の1年次生の読書会では，「私を揺さぶった言葉」というテーマで読書会版ブックレポートを書いて持ち寄り，自身の読書経験を発表し合った。文化委員は，活動の様子を写真と共にまとめ成果物を作成した。2年次生の読書会では，本に関するクイズを実施したが，準備の段階でクイズスライドの作成やタイムキープも含めたりハーサルをこなし，当日は解説と豆知識の紹介もしながら，読書会をスムーズに進行した。

令和4年度の1年次生は，「読者の想像力でストーリーを完成させよう」というテーマに基づき，文化委員が選んだ本をもとに準備した文章を生徒が読み，その続き（または途中）をその場で創作（表現）し，創作部分とともに創作の意図や根拠を発表し合う読書会を行った。同年度の2年次生読書会では，前年度同様本に関するクイズを行ったが，各教科の学びに関連する形で図書館の書籍が紹介されたという点において，前年度にはない工夫が見られた。

毎年準備段階から生徒による創意工夫が見られ，活動の最後には文化委員自身によって図書館利用を促す声かけが行われる良い活動となっている。令和4年度2年次文化委員の振り返りとしては，生徒の興味関心を視野に入れた活動内容を企画した2年次の読書会の方が，1年次の時の読書会よりも盛り上がり，紹介した書籍に関して個人がさらに調べたりするなどの姿が見受けられたという。

② 保健委員会の活動

保健委員会では，毎年薬物使用防止キャンペーンの期間中に図書館と連携し，薬物に関する書籍を図書館に展示している。委員自身が読んだ本の中からお勧めの本をコメントを添えて紹介し，全校生徒に薬物使用の恐ろしさを伝える活動を行っている。

③ 図書部による活動

本校の図書部は，文化祭では展示や古本市を行い，生徒への図書館利用を呼び掛けている。また，ブックハンティングで購入した本を展示したり，季節ごとに図書部員が推薦する本を選んで展示コーナーを設けたりするなど，図書館の展示を部員が自主的に行っている。また毎年，新任の先生の推薦図書を紹介する広報誌「ライブラリ」を発行するなど，広報活動も積極的に行っている。

3 おわりに

朝読書やブックレポートによって，生徒の多様な読書経験を促す意味では，一定の効果があつた。文化委員も，文化祭展示や読書会の開催などにおいて，企画から運営まで自分たちで行い，図書館の魅力をアピールしている。また，2年次以降課題研究やiPなどを通して，自分の研究テーマに沿った本を借りることも増えてきた。しかし，研究活動のために図書館を利用することはあっても，図書館の利用者数が大幅に増えることはなかった。本を読むことが好きで，読みたいと思っている生徒は多いが，時間的な制約もあり，図書館に足を運ぶことができないという現状もあると考えられる。

心をつなぐ絵本 ～SDGsとつながる絵本～

倉敷市立福田南中学校 教諭 山田 宏美

1 はじめに

岡山県学校図書館協議会絵本研究部会では、「心をつなぐ絵本」という研究テーマのもと2021年度より「SDGsとつながる絵本」をサブテーマとして研究と実践をおこなってきた。

2015年国連サミットで採択された持続可能な開発目標は、2030年までに17のゴールが設定されている。現在、日本でも多くの企業がSDGsを意識した取り組みを実施されているが、目標達成をするためには、すべての人の行動が求められている。未来を担う子どもたちが、世界にはどんな問題があるのか、問題を解決していくためにはどんな取り組みをする必要があるのか、ということに意識を持つためには、何らかの形で触れさせていく必要がある。

一人ひとりにできることをしっかりと考え、行動するために、絵本を通してSDGsについて学んでほしいと思う。

2 絵本の紹介

「SDGs」をテーマとしたブックトークに選んだ絵本（『読み聞かせたい絵本』掲載本を目標別に並べている）

◎ つくる責任つかう責任

『いのちのたべもの』

出版社：おむすび舎
文・中川ひろたか
絵・加藤休ミ

今日の夕ご飯は寄せ鍋。お母さんとスーパーへお買い物。はくさい、とりにく、はまぐりにがんもどき。たくさんある食べ物は海の食べ物と陸の食べ物とに分けられる。「人のからだは食べ物でできているの。」お母さんが話してくれた食べ物の話。読むと今日のご飯がおいしく感じられそうな食育にもぴったりの絵本だ。

『たべる たべる たべること』

出版社：おむすび舎
作・くすのきしげのり
絵・小淵もも

一人の女の子の成長を見つめながら、たくさんの「たべること」を通して、大切にしたいこと、伝えたいことが、幅広い世代に向けて丁寧に描かれている。「たべる たべる たべること」のフレーズが繰り返される、あたたかなリズム感も素敵だ。

『life (ライフ)』

出版社：瑞雲舎
作・くすのきしげのり
絵・松本春野

町の外れにある「life」という小さなお店。訪れた人たちが、今は必要ないけれど捨てられないものを持ち寄って、気に入ったものを持って帰るリユースのお店。最愛のおじいさんを亡くして悲しみに沈むおばあさんの心に、あたたかな明るい風を吹かせたのは…心温まる作品である。

◎ 海の豊かさを守ろう

『プラスチックのうみ』

出版社：小学館
作・ミシェル・ロード
絵・ジュリア・ブラットマン
訳・川上拓土

人間が出したプラスチックごみが、海に暮らす生き物を傷つけたり命を奪ったりしている現実を、美しいイラストでリアルに描写している。きれいな海を取り戻すにはどうしたらいいか、読み聞かせの後みんなで話し合ってみよう。岡山在住の小学生の男の子が、韻を踏んだ素晴らしい翻訳をしている。

◎ 陸の豊かさも守ろう

『めぐりめぐる』

出版社：ポリフォニープレス

作・ジーニー・ベイカー

訳・わだすなお

長い長い距離、北極圏から南半球まで1万キロ以上も移動していく渡り鳥。しかし地球環境の変化で、羽を休める干潟はどんどん減って……。自然への畏敬、生命の尊厳を深く考えさせられる。構図のすばらしさ、緻密なコラージュにも見入ってしまう美しい絵本である。

『森のおはなし』

出版社：六耀社

作・マーク・マーティン

訳・おびただす

むかしむかし、あるところに林があった。その林は深く生い茂った森になった。その森の木を人間たちが切り始め、森はビルや工場に、そして都市にと姿を変えていく。そうして残ったのは1本の木。1本の木から始まる自然のお話。自然の力を考えることができる一冊。

◎ 平和と公正をすべての人に

『へいわってすてきだね』

出版社：ブロンズ新社

詩・安里有生

画・長谷川義史

小学1年生の男の子が書いた平和への思い。純粋で、素直で、力強いまっすぐな願いを、今の日本に、そして世界の人々にひとりでも多く伝えたいと、長谷川義史さんが絵を描いている。「へいわって なにかな。ぼくはかんがえたよ。」で始まる、平和へのメッセージがかかれた作品である。

『もっとおおきなたいほうを』

出版社：福音館書店

作・絵・二見正直

王様は先祖代々伝わる大砲を撃ててみたくてしかたがなかったが、戦争がないため撃つことができなかつた。そんなある日、ひよんなことから川の向こう岸のきつねを追っ払うために、大砲を撃つことになった。逃げていったと思ったきつねは、もっと大きな大砲を持って現れる。それに負けじと王様も……。ページをめくるたびに驚きや

笑いが起こる一冊。そして何より平和が一番と思わせてくれる絵本である。

『せかいでいちばんつよい国』

出版社：光村教育図書

作・デビッド・マッキー

訳・なかがわちひろ

ある大きな国の人々は、自分たちの暮らしほど素敵なものはないと信じていた。その大きな国の大統領も、また同じように考えていた。国をもっと大きくして「世界中の人々を幸せにするため」に始まった戦争。最後に残ったのは、小さな国だった。そんな小さな国が教えてくれた平和の大切さ。戦争と平和について考える絵本である。

◎ パートナーシップで目標を達成しよう

『おじいちゃんがのこしたものは・・・』

出版社：評論社

作・マイケル・モーパーゴ

絵・ジム・フィールド

訳・佐藤見果夢

おじいちゃんが残した、孫娘のミアに宛てられた手紙。ミアは母親になった今も、クリスマスになると家族と一緒にその手紙を読み返す。地球に生きるすべてのものが幸せに暮らすための願いがぎっしり詰まったおじいちゃんの手紙。SDGsについて考えるきっかけにもなる、心に響く一冊である。

3 おわりに

世の中にはSDGsについて触れている書物や商品、取り組みが溢れているが、SDGsにあまり関心のない生徒や、よくわかっていない生徒はたくさんいる。少しでも多くの生徒に関心を持ってもらうための働きかけとして、絵本の優しやわかりさやすさを使って生徒に関心を持ってもらえるように活用していきたい。

子どもたちが絵本をきっかけに、自発的・主体的な学習活動を支援するとともに、問題意識をもって学習に取り組む姿が見られることを願って、紹介していきたい。

大会役員

会 長	倉敷天城高等学校	校長	藤井 省吾	県SLA 会長	高教研学校図書館部会 会長
副 会 長	高島小学校	校長	藤原 陽子	県SLA 副会長	小教研情報教育部会 学校図書館部 会長
	光南台中学校	校長	川原 悦子	県SLA 副会長	中教研学校図書館部会 会長
代表理事	水島工業高等学校	校長	森 尚貴	県SLA 倉敷ブロック 代表理事	高教研学校図書館部会 備中地区 会長
	総社高等学校	学校司書	大西 結美	県SLA司書部会 会長	

大会実行委員会

委員長	水島工業高等学校	校長	森 尚貴	県SLA 倉敷ブロック 代表理事	高教研学校図書館部会 備中地区 会長
副委員長	琴浦中学校	校長	中川 博之	中教研学校図書館部会 倉敷支部 会長	
	里庄東小学校	校長	土屋新太郎	浅口支部 会長	
	陶山小学校	校長	荒川 光平	笠岡支部 会長	
	山田小学校	校長	平田日出子	小田支部 会長	
	荏原小学校	校長	斎藤 正幸	井原支部 会長	
	維新小学校	校長	風早 千帆	総社支部 会長	
	成羽小学校	校長	日名 進	高梁支部 会長	
神郷北小学校	校長	棟森久寿美	新見支部 会長		
総務部	琴浦中学校	校長	中川 博之	倉敷支部 副会長	
	中島小学校	校長	濱口 隆生	県SLA倉敷ブロック代表理事	
	山田小学校	校長	平田日出子	小田支部 会長	
	柏島小学校	校長	三宅 貴恵	倉敷支部 副会長	
	柳井原小学校	校長	平尾 嘉克	倉敷支部 副会長	
	高梁北中学校	校長	武田 浩充	高梁支部 副会長	
	成羽小学校	教頭	高野 松美	高梁支部 事務局長	
	哲西中学校	校長	藤野 哲久	新見支部 副会長	
研 究 部	万寿東小学校	校長	佐野 薫	倉敷支部 副会長	
	老松小学校	校長	横溝 敬司	倉敷支部 副会長	
	琴浦西小学校	校長	高橋 宏徳	倉敷支部 副会長	
	里庄東小学校	校長	土屋新太郎	浅口支部 会長	
	陶山小学校	校長	荒川 光平	笠岡支部 会長	
	荏原小学校	校長	斎藤 正幸	井原支部 会長	
	維新小学校	校長	風早 千帆	総社支部 会長	
	高梁東中学校	教諭	上原 和賀	高梁支部 事務局次長	
	神郷北小学校	校長	棟森久寿美	新見支部 会長	
	刑部小学校	指導教諭	池田由加理	新見支部 事務局次長	
会 場	天城小学校	校長	高岡 誠治	倉敷支部 副会長	
	水島小学校	校長	水城 弘之	倉敷支部 副会長	
	成羽小学校	校長	日名 進	高梁支部 会長	
	哲多中学校	教諭	中尾 温子	新見支部 事務局長	

県SLA事務局

事 務 局	高島小学校	教諭	高角 彩歌	小教研 事務局長
	竜之口小学校	教諭	副島佳成子	小教研 事務局長
	竜操中学校	教諭	門田 琴音	中教研 事務局長
	高島中学校	教諭	田中 杏佳	中教研 事務局長補佐
	倉敷天城高等学校	教諭	坂井 昌子	県SLA 事務局長
	倉敷天城高等学校	教諭	小野 貴子	高教研 事務局長
	倉敷天城高等学校	学校司書	横山 雅子	県SLA 事務局員
	倉敷天城高等学校	主事	永山 友香	県SLA 事務局員

令和5年度岡山県学校司書研修会(玉野大会) 要項

主催 岡山県学校図書館協議会・岡山県学校図書館協議会司書部会

共催 玉野市学校図書館協議会

後援 岡山県教育委員会・玉野市教育委員会

1 日 時 令和5年7月26日(水) 13:00~16:00(受付 12:30~)

2 開催形式 web 会議システム(Zoom)によるオンライン開催

3 日 程

12:30 13:00 13:40 14:10 14:20 15:50 16:00

受付	開会行事・総会	質疑応答 (実践発表)	休憩	全体講座	閉会
----	---------	----------------	----	------	----

4 総会

- (1) 議長選出
- (2) 2022(R4)年度活動報告(理事会活動報告)
- (3) 2022(R4)年度決算報告
- (4) 2022(R4)年度監査報告
- (5) 質疑応答・承認
- (6) 2023(R5)年度役員選出(案)
- (7) 2023(R5)年度活動方針・事業計画(案)
- (8) 2023(R5)年度予算(案)
- (9) ローテーションについて(案)
- (10) 質疑応答・承認
- (11) 情勢報告(地区活動報告・実態調査報告)
- (12) 議長解任

5 実践発表 ※事前に動画配信

■ 学校司書の ICT 活用 ～ 一人一台端末を学校図書館の入口に ～

発表者 笠岡市立笠岡西中学校 吉田 薫

発表者 笠岡市立金浦小学校 柴田 博子

■ ICT を活用したブックリストの作成について ～子どもにつたえる読書のたのしさ～

発表者 井原市立井原中学校 津島 一視

発表者 井原市立木之子中学校 迫 純子

6 全体講座

■ 「未来」に生きる子どもたちのために「今」学校図書館ができること

講師 宮澤 優子 氏

(高森町立高森北小学校・高森町子ども読書支援センター)

【宮澤優子氏プロフィール】

高森町立高森北小学校・高森町子ども読書支援センター司書。

キャリアスタートは公共図書館、学校司書 16 年目。

Google 認定教育者 Lev1, 2、GEG Minami Shinshu 共同リーダー／日本デジタルシティズンシップ

教育研究会専門委員／「著作物の教育利用に関する関係者フォーラム」初中等ワーキンググループ

【実践発表】

発表者	吉田 薫	(笠岡市立笠岡西中学校学校司書)
	柴田 博子	(笠岡市立金浦中学校学校司書)
	津島 一視	(井原市立井原中学校司書)
	迫 純子	(井原市立木之子中学校司書)
指導講評	堀 陽子	(玉野市学校図書館協議会会長・玉野市立後閑小学校校長)
司会者	井上 美恵子	(津山市立北陵中学校学校司書)
記録者	齋藤 洋子	(笠岡市立中央小学校司書)
	藤井 綾	(井原市立美星中学校司書)

I 事例発表①

学校司書のICT活用

～ 一人一台端末を学校図書館の入口に ～

笠岡市立笠岡西中学校 吉田 薫
笠岡市立金浦中学校学校 柴田 博子

1 はじめに

笠岡市は岡山県の南西部に位置し、瀬戸内海に面しています。笠岡諸島は、大小三十数島からなり、その内の7島が有人島です。近年北木島を中心に、「悠久の時間が流れる石の島」が日本遺産に認定され、白石島の白石踊は、ユネスコ無形文化遺産に登録が決まりました。

笠岡市には現在休校中の4校をのぞく、22の小・中学校に9名の学校司書が配置されています。1名は専任で、8名は2～3校を兼務しています。残念ながら令和5年度より学校数の減少などを理由に1名減となりました。学校司書を取り巻く環境は厳しいですが、学校・教育委員会・市立図書館と協力して活動しています。

2 小中一貫教育と地域学

笠岡市の学校では小中一貫教育を推進しています。令和元年に小中一貫教育推進計画が始まり、3年間の試行と見直し期間を経て、今年度より完全実施となりました。

笠岡市を中学校区で指定した8つの学区に分け、それぞれの学区で目指す子供像を設定しました。そして、義務教育9年間を見通し、目標達成に向けて小・中学校が一体となって学校教育を推進しています。

私の属する笠岡西中学校学区（小学校2校、中学校1

校）の目指す子供像は「自立して、人とつながり、郷土笠岡を愛する子供」です。そこで「地域学」という教科を「総合的な学習の時間」に取り入れ、各学年に応じた学習テーマを決めています。

笠岡西中学校では、この「地域学」の授業に学校司書がどうかかわっていくかが課題でした。

勤務形態が兼務であるため、図書館での利用時間に学校司書がいないことが多く、ネットでの検索に偏りがちな生徒が、自ら図書館資料へとたどり着けるよう、ICTを活用した地域学を模索している中学校があったので参考にすることにしました。笠岡西中学校ブロックは市内の中心部に当たることから、他の中学校でも応用できると考え、全体で取り組むことにしました。

3 地域学サイト（大島中学校の取り組み）

先行の大島中学校の取り組みを紹介します。大島中学校でも、「地域学」は、「総合的な学習の時間」に行われ、学年ごとに大きなテーマがあります。しかし、具体的にイメージできていないためか、研究テーマがあいまいで図書館へ資料を探しに来る生徒は少数でした。また、前年度や小学校の頃と同じようなテーマを繰り返している傾向がみられました。

そこで、具体的にイメージを持ってもらうため、郷土資料をカテゴリ別に整理することから始めました。作成にあたり、生徒がタブレットで見ることに適した資料紹介の方法をICT支援員に相談すると、Google Workspaceの「サイト」を提案され、この「サイト」を使うことにしました。

「サイト」を作るにあたり、3点を意識して構成しました。①教室でタブレットを眺めているだけの生徒に向けて情報提供をする。②カテゴリごとに研究テーマを見つけられるような構成にする。③担当教諭、特に転任・新任者に、所蔵資料を見渡してもらって、地域学の可能性を探ってもらう。

また、サイト完成後、校内で起案をし、管理職の判断を仰ぎました。生徒は総合的な学習の時間に教室でサイトを閲覧し、来館。実際の資料を手に取り、調べることができました。

大島中学校で作成したサイトでは、トップページで著作権についてふれています。歴史、文化、偉人、笠岡で働く、福祉などのページがあり、調べたい項目をクリックしていくことで、資料詳細にたどりつけます。

この大島中学校の実践を参考に、司書部会で、笠岡西中学校ブロックサイトの作成に取り組みました。

4 著作権について

「地域学サイト」を作成する上で、最大の懸念は著作権でした。これについては、大島中学校での作成時に、「公益社団法人 著作権情報センター・著作権テレホンガイド」に問い合わせをしていました。問い合わせ内容は次の2点です。①サイトに資料の表紙や作品の内容の画像をあげて公開してよいのか。②動画や他サイトへのリンクを貼ることは権利侵害にならないのか、許諾が必要か。

①については、「著作権法 法令47条の2」により可能である。著作権法 法令47条の2とは、インターネット上の通信販売で商品紹介用の画像をウェブサイトに掲載することができるようにしたものです。また、「サイズ」に留意すること。この法令が定めるところによると、デジタル画像については3万2千4百画素以下でなければなりません。

②の動画や他サイトへのリンクを貼ることについては、リンクは「住所」なので、著作権とはかかわりない。との返答を得ました。

5 著作使用の許諾申請について

このように回答をいただきましたが、著作権法の解釈が立場によって幅があるため、慎重を期して出版社に「著作使用の申請」をおこないました。

申請方法は、お話しなどで使用する日本書籍出版協会の「著作物利用許可申請書」をもとにFAXにて申請しました。利用の形態・目的を「本校の地域学の学習において、図書館にある資料に生徒を導くため、校内のオンライン上に作成した「図書館・地域学」サイトに資料を掲載する、としました。

ほとんどの出版社から許諾をいただくことが出来ましたが、条件などが付くこともありました。実際に申請して分かった点や出版社の反応は次のとおりでした。

- ①表紙の画像利用については、問題なく許可いただいた。
- ②本文に関する画像の掲載については、実際にどのページを使用するのかを申請時に伝える必要があり、ページによっては許可がでない場合もある。
- ③「授業目的公衆送信補償金制度」に笠岡市が加入していることが確認できたため許可をいただいた出版社もある。
- ④一年ごとの使用申請を希望された出版社もある。

また、この度収集した資料が地域資料だったため、市の関連施設や個人の出版物も多くありました。これらは、実際に出向き、口頭で説明したうえで許諾を得ました。

6 サイトの作成

権利関係への不安が解決したことで、実際の「地域学サイト」の作成に移りました。ただし、昨今の安易な著作物利用を懸念して、トップ画面で、著作権法と施行規則に基づいて画像を提示していることに言及し、注意喚起としました。

まず、地域の関連施設やコミュニティなどを訪れ、地域資料を収集しました。

また、インターネット上に掲載されている資料や動画、デジタルアーカイブにもリンクが貼れるように収集しました。地域の「広報」も扱われている項目ごとに整理し、リンクを貼りました。

次に、収集した資料をテーマ別にまとめました。まず、笠岡市全体で利用できるように笠岡の中心部にある笠岡西中学校での昨年度までのテーマを元にカテゴリを構築していきました。カテゴリに合わせたキーワードをピックアップし、掲載資料を整理していきました。このキーワードは、サイト内で検索することができます。

実際のサイトを作成するにあたり、ICT支援員を講師に招き、Google Workspace の研修を行いました。研修では 実際にChromebook を使用して、サイトの作成方法を学びました。研修後、学校司書が分担してサイトを作成していきました。

作成したサイトは、キーワードを小分類とし、大分類、中分類、小分類に整理しました。整理した結果、分類6項目、中分類21項目となりました。大分類は歴史、島、まちづくりなどです。クリックすることで、次の階層に移ります。詳細ページには、資料名、著者名、出版社、資料紹介やキーワードを掲載しています。またユーチューブやホームページなど外部サイトへのリンクも載せています。検索の可能で、キーワードを入力すると欲しい資料をすぐに見つけることができます。

さらに、作成したサイトをスムーズに活用してもらえらる提供方法を考えました。私たちは兼務です。そのため調べ学習時に不在であっても、図書館の資料を活用して学習に取り組める様に、調べ方全般のガイドと、カテゴリごとのガイドを作成しました。

6 サイトへの生徒・先生の反応

- ・はっきりした目的はなくともクリックすると先のページに進むので、どのグループも、どんどん詳細ページに進んでいくのが見て取れた。
- ・例年は資料を並べていても手に取らなかった生徒が多かったのに対し、サイトの利用後に来館した生徒たちは、カテゴリごとに広げた資料に迷わず近付き、活用することができていた。
- ・コロナ前の様子がわからないので、比較しにくいですが、前年、前々年と比べてテーマが多岐にわたっていた。
- ・どの学年も、資料やインターネットなどの情報から地域の魅力や課題を見つけ、地元企業や団体にアポイントメントを取り、ミカン栽培のお手伝いや、海苔の製造、パン屋での新商品の開発、小学校へ出張防災教室など、多彩な体験をし、学習発表会では地域の方や保護者、在校生に向けて、パワーポイントで活動を報告する姿がみられた。

7 まとめ

今回、地域学サイトを作成するにあたり、各校の図書館に散在していた郷土資料の共有、分類、整理をし、これから必要となる資料の収集を行いました。今後は、サイトを精査し、「地域学サイト小学校版を作成する」「他

校にある郷土資料を共有し相互貸借できるようにする」など、児童生徒が必要な資料を検索し、たどり着けるよう改良していきます。また、定期的に資料の充実を図り、サイトを更新します。司書の異動も念頭に研修を続け、誰でもサイトを更新することができ、継続して運営できるように考えています。

地域学以外でも、学校図書館と子どもたちをつなぐツールとしてタブレットを積極的に活用していこうと、動きだしています。「地域学以外のコンテンツを増やす」「新刊案内や図書館行事など学校図書館や委員会から情報発信をする」など、各校で少しずつ活用の機会を増やしていています。

今回ICTの活用を研究しましたが、あくまでも本へ、学校図書館へと導く手段として考えています。ICTを活用することにより、いろんな入り口を用意して、いっそう本のすばらしさを子どもたちに伝え、資料の提示方法をこれからも探っていきたいと考えています。

II 質疑応答

Q：資料収集など、時間がかかると思うのですが、地域学サイトの完成までの期間はどのくらいですか。複数校を兼務しながら限られた時間の中で作業をするのは大変だったのではないのでしょうか。サイトの作成にはどのくらいの時間がかかりましたか。

A：笠岡市の学校司書は兼務をしている上、図書のデータベース化やコロナ禍とも重なりサイトの作成にかかる時間は限られていました。ただ、既に大島中学校の地域学サイトがありましたので、このサイトの利用できる所は再利用することで、約1年半で形にすることができました。

Q：地域学サイトには資料を何冊くらい掲載していますか？

A：約250冊です。シリーズや、類似冊子は一冊として数えているので、実際の資料はもう少しあります。

Q：郷土資料は一般向けで生徒には内容が難しいものもありますが、「図書館・地域学」サイトには、図書館所蔵資料をすべて掲載したのでしょうか。何か基準を設けて選択して掲載したのでしょうか。

A：学区に関する資料はほとんど掲載していますが、笠岡市史など生徒には難しいと思われる本は掲載していま

せん。また、掲載には特別に基準を設けてはいません。多くの資料を掲載し、より多くのキーワードに対応させることに重点を置きました。

また、内容が古くなった資料も掲載せず、できるだけ現在に即したものにしました。「著作物の利用申請」のため、市役所などに資料一覧を提出すると、古い資料には指摘が入り、新しい資料を頂くこともできました。

Q：広報誌にはどのような内容が掲載されていますか？

A：様々な広報誌が発行されていますが、笠岡市が発行している「広報かさおか」では、生活に密着した情報提供から、「かさおか歴史再発見」や、「地域おこし協力隊」の活動など、地域学で使える資料が多く掲載されています。

Q：「授業目的公衆送信補償金」について教えてください。

A：授業目的公衆送信補償金制度は、授業目的で著作物をオンライン配布する場合の課金型加盟制度で、2018年5月の法改正で創設されました。加盟すると、教育機関における授業等で、著作物を著作者の許諾なしに端末に送信したり、サーバにアップロードしたりできるようになります。利用にあたっては、制度を利用する教育機関の設置者が、補償金を支払う必要があります。詳しくはSARTRAS（サートラス）のホームページをご覧ください。

I 事例発表②

ICT を活用したブックリストの作成について

～子どもにつたえる読書のたのしさ～

井原市立井原中学校 津島 一視
井原市立木之子中学校 迫 純子

1. 学校の紹介

はじめに、井原市の概要と対象となる中学校についてですが、井原市は、岡山県西南部に位置し、西側は広島県福山市と隣接しています。人口は、令和5年5月末時点で、37,704人。市内には小学校が13校あり、児童は1,511人、中学校は5校で生徒は858人在籍しています。市内には、9人の学校司書がおり、1人は1校専任ではあるものの事務を兼務、8人は2～3校を兼務するといった勤務状況です。今回リストを作成した木之子中学校には、市内小学校のうち4校を卒業した生徒が通学しており、生徒数は174人で9学級あります。

2. 目的と経緯

次に、ブックリスト作成の目的と経緯などをお話します。ブックリストは、小学校版・中学校版があります。平成21年度に当時の校長会で「もっと国語に興味を持ってもらいたい」「本に親しんでもらいたい」「豊かな読書体験をしてほしい」「読書体験を共有してほしい」との要望があり、小中連携活動のひとつとして、ブックリストの作成を依頼されたのが始まりです。そして、当時の木之子中学校区の学校司書4人が作成にあたりました。

このブックリストは、当時使用していた教科書で紹介されている本が大半であったことや、絶版により買い替え困難な本が増えていたこともあり、継続が難しくなっていました。そこで、内容を見直す必要があるのではないかと、2年前（令和3年度）に井原市の学校司書研修会の議題に上がり、今回は市内の学校司書全員で再編成にあたることにしました。

まず、令和3年度に小学校版ブックリストを再編成したのですが、従来の対面方式ではなく、ICTを利用してブック

リストを作成するという方針へと転換しました。今回の発表では、令和3年度小学校版の再編成を下地として、令和4年度に行った中学校版ブックリスト作成の取り組みを取り上げます。

3. 取組事例紹介

中学生版では、『中学生が本に親しみをもつ』きっかけになるリストを目指しました。リストには、岡山にゆかりのある作家、名作を取り入れることを意識しました。また、マンガも内容を吟味して候補としました。掲載するリスト内容は、0～8分類と詩の本を各3冊ずつ、9分類（物語）を20冊の合計50冊としました。

今回使用したGoogleアプリは、主に2つです。リスト作成のための情報共有は、Google クラスルームを使用しました。クラスのメンバー間での情報共有が簡単にでき、個別にメールを送信しなくても、クラス内へ1度投稿することで連絡事項を周知できたり、文書を共有することができます。また、クラス内に文書を保存すれば、司書の異動があってもそこに残るというメリットもあります。

そして本の選定作業には、Google スプレッドシートを使用しました。共有設定したメンバー全員で同じデータを編集するため、従来のように誰かが代表して個別に送られてきたデータを一つにまとめるという作業がなくなりました。また、スプレッドシートには自動保存機能があるため、最新の情報を常に全員で共有することになります。完成後に最新版をメールで再送する必要がなくなりました。

具体的な取り組みの内容についてお話します。第1回の研修会では、基本的な流れを計画し、各役割分担を決定。また、ブックリストのテーマと候補本の構成を決めていきました。第2回・3回の研修会では、選定作業を行いました。

事前にそれぞれが候補本をスプレッドシートに入力し、前もって候補のタイトルがわかることで、研修会までに個々の司書がそれらの本を見ることができました。また、あらすじや分類等の情報を担当者が事前に準備できたことにより、当日の研修会では、候補本を実際に見ながら本の比較がしやすくなりました。第4回・5回の研修会では、リスト内容の最終確認とレイアウトについて話し合いました。情報公開されている全国の図書館のブックリスト等を参考に、見やすい配置を検討しました。また、フォントについても主にユニバーサルフォントから適した物を選びました。第6回の研修会では、ブックリストに掲載するあらすじについて話し合いました。これも各自事前にスプレッドシートに入力しており、文脈等に問題がないかを全員で確認しました。また後日、国語科教員へダブルチェックを依頼しました。第7回の研修会では、ブックリストのレイアウト最終確認を行いました。

完成した新しいブックリストは、この春に生徒全員へ紙媒体で配布しました。興味を持ってもらうための仕掛けとして、毎年生徒から表紙のイラストを募集する予定です。

中学校版では使用しませんでした。小学校版リスト作成時には Google Meet や Google チャットも使用しました。使用したのは、通常9人で行っている研修会を、最終的な確認のため木之子中学校区の司書4人で行った時です。このアプリを使用した理由は、コロナ禍のため現在より対面会議が難しかったこと、勤務校で会議に参加できることから、移動時間を考慮する必要がないため、会議時間まで通常業務ができるからです。

1回目は Google Meet を使用してビデオ会議をしました。クラスルームのメンバー同士であるため、より簡単に会議を開催することができました。2回目は、Google チャットを使用しました。1回目のように Meet を使用しなかったのは、午前午後とも夏休みの開館時間と重なり、空き時間がない司書がいたためです。チャットであれば、たとえ児童対応のためリアルタイムで話し合いに参加できなくても、会話記録がチャット画面上に残るので、自分のペースで内容を確認できます。働き方に合わせた適度な ICT の活用が、我々を助けてくれると感じました。

4.まとめ

1人一台端末の時代に、児童・生徒へ読書の楽しさを伝えるためにはどうすれば良いか、とても悩ましく感じています。このような状況下で何ができるか考えたときに、まず

は、学校図書館に来館するきっかけを作らなければいけないと思いました。そのためにも、ブックリストを使って学校図書館にある本の魅力を発信すること。そして、学校図書館の有用な情報を発信すること。とても基本的なことですが、それらをどのように伝えていくかが、これからの課題になっていくと思っています。

現段階ではブックリストを紙媒体で配布しているだけですが、例えば校内に限定した学校図書館のサイトを作成し、それぞれの学校で作られている校内サイトや Google クラスルームにリンクさせるなど、学校図書館の状況に応じてアナログとデジタルの良いところをうまく使い分けて、多方面からのアプローチができるのではないのでしょうか。

さらに、将来的には学校図書館のサイトにブックリストを紹介したページを作成したり、リストに掲載されている本のブックトレーラーを作成してサイトに掲載することで、このブックリストを盛り上げていくことができるのではないかと可能性を感じています。そしてブックトレーラーについては学校司書全体で共有することで今回取り組んだ中学校に限らず同じ本を所蔵する他の学校でも観てもらうことができます。このように ICT を利用することで、市内全ての学校の児童生徒に読書のたのしさを伝えられる仕組みができるのではないかと考えています。

コロナ禍で、なかなか研修会を開催することが難しい中、ICT をうまく活用することで細々したやり取りがスムーズにできたこと。また、兼務体制による時間の拘束が少しでも緩和できることはとても魅力的でした。これからも ICT スキルアップのために、情報担当教諭、ICT 支援員と連携し、課題に取り組んでいきたいと思っています。

II 質疑応答

1. ブックリストの選書について

選書で気をつけたことについてですが、テーマとして掲げている「中学生が本に親しみをもつきっかけ」となるよう、多くの作者やジャンルを含めることで、生徒の多様な興味関心に少しでもフィットするように配慮しました。また、出版年に関する質問があったのですが、出版年に対しては制限を設けず、購入可能かどうかを確認して選書しました。

選書で困ったことについてですが、分類によっては、候補本の偏りがあったため、再度話し合う必要がありました。

どのようなマンガや名作をリストアップしたかについてですが、漫画は、大今良時(おおいまよしとき)／著『聲の形』 名作は、アガサ・クリスティー／著『そして誰もいなくなった』、ミヒャエル・エンデ／作『モモ』、筒井康隆／著『時をかける少女』をリストアップしました。

もともと何冊の本を候補として準備したかについてですが、各学校司書が1～8類、詩を1冊ずつ、9類の読み物を3冊ずつ提案し、約120冊準備した中から50冊を選びました。

2. ブックリストの活用方法と生徒の反応について

ブックリストの活用方法についてですが、配布日に、ブックガイドの最初に載っている生徒へのメッセージを、給食の全校放送のときに放送委員に読み上げてもらいました。学校図書館では、生徒の目に触れやすいようにブックガイドのコーナーを作り、別置しています。そのコーナーを見て、興味を示し手に取る生徒もいました。

表紙の募集以外の読ませる工夫についてですが、ブックガイドに「自分らしさ」「部活」などのキーワードを載せることによって、本を選びやすくしました。また、読み終わった本が分かるように、色が塗れるキノコのイラストを載せています。今後文芸委員を通じて、掲載されている本の魅力を発信していきたいと思っています。

3. Google アプリの活用について

アプリを使用する中で躓いたこと、気をつけたほうが良いことについてですが、配布資料でも簡単に説明していますが、Google アプリにはみなさんが普段お使いのワードやエクセルに似た機能を持つものもあるので、まず使ってみていただけたらと思います。たしかにワードやエクセルとは、ボタンの位置や機能に若干の違いがあります。最初は戸惑いましたが、使っていくうちに慣れていきました。また、気をつけた方がよいことは、常に最新情報に更新されることを念頭に置いておくことだと思います。ワードやエクセルとは大きく異なる点ではないでしょうか。

クラスルームとチャットの違い、使い分けについてですが、クラスルームは、メンバー内のお知らせをする掲示板のようなもので、チャットは音声なしで会話

ができるグループLINEに近い使い方ができます。私たちは、メンバー内の報告や研修会の記録文書などをクラスルームで連絡し、簡単な会議をするときはチャットをするように使い分けました。最後に制限についての質問があったのですが、特に制限はないように思われます。

Ⅲ 指導講評

笠岡、井原の両支部の実践を見させていただきました。参考になった点、それから県内のみなさんと共有していきたいと思った点を中心に、感想も含めましてお話をさせていただきたくします。

まずは笠岡支部、井原支部の実践を紹介してくださいました。二つの実践を拝見しまして、率直に感じた最初の感想は、両支部とも一校の専任ではなく複数校を兼務するという勤務体系のとても制約のある中でその弱点を強みに変えるという素晴らしい取り組みをしてくださいました。笠岡支部の方が仰っていました「学校司書を取り巻く環境は大変厳しいが、少しでも好転できるよう、学校、教育委員会、市立図書館と協力して活動している」という前向きな気持ちに大変心を撃たれました。

今朝のニュースでも「日本の人口、14年連続減少。初めて47都道府県全てで減る。」というショッキングな報道がありました。このところ人口減少への対応ということがあらゆる分野で言われてきており、ニーズに対する人手不足ということもありますが、もっとこの先を考えた場合に少ない人数でいろいろなことに対応していく方法を考えていくことはとても重要なことだと思います。そういった点からも今回の二つの実践は学校司書としての専門的な業務内容の紹介だけではなく、少ないメンバーでも工夫して取り組むことで図書館の利用促進に繋げる素晴らしい実践だったと思います。

それでは少しここからは具体的な内容に触れていきます。

まず、笠岡支部の実践についてです。学校司書として総合的学習の地域学へどのように関わっていくかという視点で取り組まれていました。「チーム学校」という言葉があるように、学校司書の方も学校のチームの一員です。今回の場合、笠岡市全体として、小中一貫教育ということを取り組まれておられ、市全体として「どのような子どもを育てていくか」そして、今回は笠岡西中学校区として9年間を通してどのような子どもたちを育てていくかという目指す子ども像を学校司書もきちんと理解して、その上で何ができるかを考えられていることが素晴らしいと思いました。また、

井原支部とも同じですが、兼務という時間制約がある中、1校の図書館に関われる時間が少ない実態の中で、ICT機器を効果的に活用して子どもたちのために何ができるかという視点を大切にされていました。今、図書館に限らずICT機器を便利なものとして、どの様に効果的に活用していくのかということがGIGAスクール構想が始まって以来、継続した課題となっています。

また、地域学という大きなテーマを扱うとなりますと扱う資料も大変、膨大なものだと思います。その中で、今回、ICT支援員の力を得ながら活動を進めてこられたことも、一つのポイントだったと思います。つまり「連携する」ということです。この「連携」につきまちは、ICT支援員だけでなく、教科指導教員も関わっていただいたということで、さらに活用が優れたものになったと思います。さらに、情報収集・資料収集のところで、実際に色々な地域の図書館や関連施設、コミュニティーなどを訪れて使用許可許諾や資料を集めた点についても素晴らしいと思いました。

あと、もう一つは著作権についてです。図書館資料を扱う上では、この著作権というものは切り離せないものだと思います。この点についても、丁寧にかつ慎重に確認されている点は、素晴らしい参考になる例だと思いました。今回の発表では、28番目のシートに著作使用の許諾申請について、出版社の反応についてまとめられていることがとても参考になりました。これを参考に、それぞれの地域で取り組みをされる場合には、きちんと確認をして進めていくことがこれからも必要だと感じております。今回の発表の中でも触れられていた市内の取り組み等が、システム的にもとても整っていますが、これをさらに更新しながら継続されることを望んでおります。

井原支部の発表についてです。こちらも笠岡市と同じように兼務の方が大変多いという中で時間的制約の中でできることを一生懸命取り組んでおられるなというのをひしひしと感じました。

今回のブックリストの作成ということの発端となったことが、お話の中にありましたように平成21年度の校長会からの要請がスタートだったということで、かなり歴史的に積み上げられてこられた実践だと

感じました。こちらでもやはり「連携」ということが大切なポイントになっていると思います。発表の中で「小学校と中学校の連携活動の一つとして取り組みをしてきた」という風なお話があったと思います。このように、やはりいろんな立場の職員が学校の中にはいると思いますが、それぞれの専門性を生かしながらチームとしていろいろな取り組みを進めていくということが必要な視点だと改めて感じたところです。

また、この歴史あるブックリストの編集ということですが、やはり長い間経つてくると、時間が経つにつれて中々更新も難しくなってくるというのは今回の作業に限ったことではないと思います。学校の中を考えてみても、いろいろ良いと思って始めたことも時間が経つにつれ中々継続・更新が難しい、そういう状況になってきますが、今回それを一大決心されて、また子どもたちのために再編しようというエネルギーを出してくださったことについて、とてもありがたいなと思いました。

そして、そう思ったもののコロナでなかなか進み難い状況、そこをICTを上手く活用してしっかりと取り組みを進めてこられました。今回の質問の中でもありましたけれども、やはりこのICTというものはとても便利ですが、それだけに頼るのではなくて井原市の方ではきちんと、オンライン等のICT機器を使うこと、そして対面できちっと集まって確認・話し合うこと、そして個人で作業を進めていくこと、こういうことを上手く使い分けておられたことが素晴らしい実践に繋がったと思いました。

また、発表の中で触れておられましたけれども、画像に出てくる文字についてもユニバーサルデザインの中のフォントから選択するというインクルーシブの視点とか、それから笠岡と同じように国語の教員の方の意見をもらうというような連携する視点も大切にしておられました。こういう風にしみなさんの力を結集しながら作成していくという良い素晴らしい実践だったと思います。

最後にこの「ブックトレーラー」というお話もありましたけれども、これは私も大変興味深く聞かせていただきました。今子どもたちは、小学生でもそうですけれども「動画サイトを見る」ということが凄く近い存在になっています。上手くこの実態を捉えてこのような「ブックトレーラー」というものができて、しっ

かりたくさんの子に見てもらえるようになると更に子どもたちも読書に興味を持つかなという風に期待をしております。作成にあたっては、今回実践にもありましたように著作権のこともあると思いますので、お互いの実践を参考にしながら、しっかりと確認しながら良いものに更に更新していただけたらと思っております。

本当にこの二つの実践は完成品としても素晴らしいと思いますが、更にこれをこの仕組みをきっちりと確立されたということが素晴らしいと思います。仕組みがあることでこの出来上がったものが更にこれから今後継続・更新していくことが期待されると思います。いろいろな実践を各地区で取り組みをされると思いますが、生まれたものが大切に育てていかれるようにということも今後も願っているところでございます。短い時間ではございましたけれども、中々思いは伝わらなかったかもしれませんが、本当に両支部の方については、県内のいろいろ図書館教育に役立つ情報を提供していただいてありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

【全体講座】

講師 宮澤 優子（長野県高森町立高森北小学校・高森町子ども読書センター 司書）
司会者 其輪 純子（岡山市立陵南小学校 司書）
記録者 八谷 彩子（岡山市立山南学園 司書）

「未来」に生きる子どもたちのために

「今」学校図書館ができること～GIGA スクール時代の学校図書館～

長野県高森町立高森北小学校・高森町子ども読書センター 司書 宮澤優子氏

1 学校図書館の現状の共有

まず、学校図書館の現状を共有したい。「物が無い」「人がいない」「場がない」のである。この状態で学校図書館は図書館といえるのか、その問いをみなさんに投げかけながら今日は話をしたい。

2 高森町子ども読書支援センターが稼働しました

「物」「人」「場」これらを確保するために、高森町は公共図書館と学校図書館が協働して、効率的で効果的な図書館サービスの実現を目指した。まず、町内の「図書館的資源」を最大限活用することを考えた。学校司書だけではなく、チームで仕事ができるようにし、イージーオーダーと物流を整え、南信州図書館ネットワークの120万の蔵書を学校でもスムーズに使えるようにした。さらにその「図書館的資源」をさらに加増させるための活動もしている。読書センターのイメージしかない学校図書館の学習センター、情報センターのための予算獲得のためには社会認知を変える必要がある。そのためには図書館のことを知ってもらうことが重要なのだ。

3 学校図書館の機能とGIGA スクール

①学校図書館の機能 ②新・学校図書館「像」

学校図書館には読書センターと学習センターと情報センターの三つの機能がある。読書センターの機能とは、本を選んで読む経験や読書に親しむきっかけを与えるというもの。学習センター・情報センターの機能とは、授業への学習資料の提供などにより教育課程の展開に寄与することや、情報活用能力の育成。これらが機能することが本来の学校図書館であることに加えて、これからは、本にとらわれない

学校図書館を構築していかなければならない。学校図書館は、社会に存在する情報や技術に、いつでも自由にアクセスできる場所だと私は思っている。

ICT活用が進むと、子どもたちと「つながり」「つなぎ方」が変わる。例えば、今までは紙の書籍しか提供できなかったが、電子書籍の提供ができるようになった。オンライン会議システムを使えば、遠くのコミュニティや遠くの人とつながることもできるし、子どもたちとデジタルコンテンツをつなぐこともできる。つなぎ方でいうと、子どもたちは端末を使用するので、OPACを利用したり、ネット書店や書評サイトを使ったりすることもできる。フィルタリングなどで学校で使えなくても、こういった情報を子どもたちにきちんと提示しておくべきである。

③各機能とGIGAスクール 読書センター編

図書館を読書センターとして機能させるために「読書」の捉え直しと「本を読み、豊かな心を育む子どもたちの姿」の分析を行った。また読書センターに必要な観点を、読書をするための子どもたちの十分なスキルと図書館が準備する十分な環境と考えている。

読書支援は読書案内、読書指導を切り分けている。読書案内とは利用者が必要とする資料を選択、入手する際に図書館員が支援すること。これには接触型のアプローチと非接触型のアプローチがあり、接触型とは直接コミュニケーションをとりながら本の紹介をするもの、非接触型とは掲示やテーマ展示などを媒介させるものであるが、これらをバランスよく選択していくことが必要である。読書指導とは、読書に関する能力を身につけさせること。シリーズものは1巻から借りる、好きな作家で作品を追うなど、当たり前

知っているようなスキルがないことも多い。他にも、本の福袋やおでかけ図書館、レファレンスの可視化など様々な読書案内、読書指導を行うことで、子どもたちは彼らにとっての「よい読書体験」を積むことができる。これらの活動の継続が、子どもたちの選書力をつけ、本のスペックを判断するという高度な読書スキルの獲得につながり、彼らにとって「つまらない読書体験」を積ませないことにつながる。

少し視点を変えて、読書のハードルについて話したい。読書をするには読むものを手元に準備し、時間、場所、心理的安全性を確保する必要がある。これらも読書のハードルである。読書バリアフリー法と紐付けて視覚的なハードルに注目すると、提供できるものとしてLLブック、マルチメディアエイジー、電子書籍、リーディングトラッカーをはじめとする読書補助器具の提供があり、提供できるサービスとしては対面朗読や、サピエ図書館との接続などがある。これらを提供したり準備したりするだけでなく、こういった手立ての存在を子どもたちに知らせておくことが非常に大切と考えている。

GIGAスクール時代の読書センターについて考える。長野県はデジとしょ信州という電子書籍図書館が稼働しており、高森北小学校では3年生以上が全員デジとしょ信州のアカウントをもち、日常的に使っている。電子書籍はすでに日常の読書の対象である。また手元の端末で公共図書館の蔵書検索や予約ができ、読みたいと思った本は学校図書館でも手配することができる。こういった環境を整えることが必要である。

④各機能とGIGAスクール 学習センター編

学習センターの役割とは、迅速で確実な内容で、十分な量の学習資料を提供すること。そのために、学校図書館は公共図書館と必要な資料、情報の「情報」を共有することが重要である。高森町では、公共図書館からの資料の取り寄せスピードを上げるために、イージーオーダーと物流を確立させた。これに加えて、有効なサイト、データベースなどのデジタルコンテンツの提供を行い、紙とデジタルを併用して学習活動を進めている。資料の中には、アナログデータをデジタル化したものもある。例えば国立文化財機構奈良文化財研究所の全国遺跡報告総覧はPDFで発掘調査報告書の全文が読める。これを活用すれば郷土資料を一人一冊手元にあるのと同じ状況が作れる。デジタルデータがネット上に存在しないものは、きちんと知らせ見せるためにセンターを中心に自作している。例えば、町の古墳の石室を3Dデー

タ化し、VRゴーグルで観察できるようにしたものを資料館のHPに掲載したり、町で出土した富本銭の情報をWikipediaに加筆したり、ということを行った。作成したデジタル資料はきちんと広報して、提案して活用されるところまで図書館がサポートしている。

GIGAスクールがやってきて、学習資料や情報とつながりもやつなぎ方が変わってくるという話をしたが、その一例をお話したい。小学4年生の社会科で雪害について学習した時は、北海道の雪の学会に所属していらっしゃる方とオンラインシステムで繋いで学習を進めた。中学校の図書委員会は、生徒たちが話を聞いてみたい職業の人たちにオンライン会議システムでインタビューし、キャリア教育のデジタル展示を行った。アナログもデジタルも、リアルもバーチャルも、どちらも使えるようになったのだ。

⑤各機能とGIGAスクール 情報センター編

情報センターの役割は、子ども達が知りたいと思い、調べようと思って行動して調べたら、本当に調べられて知ることができ、知ったことを活用するという。アナログでもデジタルでも基本的な調査スキルは共通している。様々な情報を有効に使えるように、高森町では小1から中3までの情報活用能力年間指導計画と、指導項目一つにつき1本の指導用教材を作成し、情報活用能力を積み上げている。GIGAスクール時代にはGIGA端末の操作、タイピングスキル、デジタルシティズンシップ教育、インターネットでの情報検索スキルなど新たなスキルが必要になってくる。

また、知りたいと思う、調べようと思うという内発的な動機の発露のために、さまざまな仕掛けが必要である。

⑥GIGAスクール時代の学校図書館の課題

GIGAスクール時代の学校図書館は、提供できるものや使えるものが増えたが、新しい課題もたくさんある。子どもたちはデジタルシティズンシップ、著作権、肖像権、ファクトチェック、ファクターバブルやエコーチェンバーなどの対処など、さまざまな知識やスキルが必要になった。これは大人にも欠如しており、さらに大人はこれらを指導するというスキルも必要であるので、学校図書館としてもきちんと情報提供しなければならない。また、授業に準拠したデジタル資料の情報提供や気軽に活用してもらうための準備など、学校図書館としてやらなければならないことは山積みである。

4 新・学校図書館考

学校図書館は読むところで、調べるところで、知るところで、楽しむところ、そして、考えるところで、くつろぐところで、実は何もしなくてもいいところ、こういう話を1年生の時からすることで子どもたちの図書館像が「本を読むだけ、借りるだけ」の場所ではなくなる。我々が理想とする図書館像をもった子どもたちを育てれば、おそらく図書館の社会認知も変わってくるのではないか。教科にとらわれない多様な学びのための情報を提供、展開する場としての、また、学びの情報と生活の情報を媒介させるための能力を育成する場としての可能性が図書館にはあると考えている。

終わりに、子どもたちに何を提供できるか、何を提供したいか、これがすべての原動力だと思う。現場の皆さんも、何を提供できるか、何を提供したいか考えて、ぜひそれを実行してほしい。

【質疑応答】

Q 勤務している小学校は放課後の図書室が閉まっている。開放したいという希望をもっているが、安全面から反対されている。どう交渉したらよいかアドバイスしてほしい。

A まずなぜ放課後の図書館開放をしたいのか、周囲にご理解いただく必要がある。例えば開放を希望する子どもを数字で示す、開放を前提にどんなトラブルが起こるのか一緒に考え対処方法を検討する、試験的に開放してみる、など具体的に提案してみてもどうだろうか。また、放課後に本当に開館しなければならないのか、再考することも必要ではないかと思う。図書館の専門職は学校内に我々しかいない。専門職としてきちんとした根拠を持って、声かけをしてほしい。

Q 高森町子ども読書支援センターの「読書」の捉えの図にあった娯楽的読書について、説明してほしい。

A そもそも読書で豊かな心を育むということがどういうことなのか、センターとしてもまだつかみきれていない。

「娯楽的読書」という言葉がその本質を捉えているかもまだ考える必要がある。ただ、様々な読書があるけれど、学校現場においても社会の認知としても、読書＝9類の本を読むというような偏りがあり、読書とはこれだけを指すのではないだろうという説明からはじめています。読書に起因する心の豊かさとはどういった

ものなのか？読書全体を捉え直し、考えていかななくてはならないと思っている。

第 69 回読書感想文岡山県コンクール

I 日 程

- 6月15日(木) 応募要項配布
第1回支部事務局長会議
- 9月27日(水) 応募締め切り(必着)
応募先・事務局
*小・中・・・岡山市立竜操中学校
門田 琴音
*高校・・・岡山県立倉敷南高等学校
平松 玲子
- 10月 5日(木) 第1回合同審査会
～
《審査期間》
- 10月24日(木) 第2回審査会(最終審査)
〈小学校・中学校・高等学校 校種別〉
- 12月26日(火) 表彰式

- 浦上 恵理 倉敷市立連島東小学校
岩崎あゆみ 倉敷市立琴浦西小学校
大西 花奈 倉敷市立上成小学校
生宗 瑞姫 倉敷市立岡田小学校
杉本 純子 総社市立総社小学校
高本 環 総社市立総社小学校
垣内 美和 矢掛町立山田小学校
森本美友紀 高梁市立松原小学校
山崎 賢治 新見市立神郷北小学校
山崎 舞菜 津山市立成名小学校
舟越 秀文 勝央町立勝央北小学校
高橋 圭司 美咲町立美咲中央小学校
武村 健吾 美作市立美作北小学校
藤田 雪絵 岡山市立灘崎小学校
吉藤 亨希 岡山大学教育学部附属中学校
吉川 恵 山陽学園中学校
大場日菜乃 高梁市立成羽中学校
奥埜 陽子 美咲町立中央中学校
藤本 久美 倉敷市立南中学校
四十塚 都 瀬戸内市立邑久中学校
福圓 岬 玉野市立宇野中学校
門田 琴音 岡山市立竜操中学校
田中 杏佳 岡山市立高島中学校
平野 優 岡山県立備前緑陽高等学校
藤本 健一 岡山県立瀬戸高等学校
浮田 亮子 明誠学院高等学校
原 彩乃 創志学園高等学校
前田 理絵 鳥城高等学校
大嶋 弓枝 岡山県立玉島商業高等学校
岡本 吉史 岡山県立笠岡高等学校
平松 歩 おかやま山陽高等学校
加治木良郎 岡山龍谷高等学校

II 県審査委員

審査委員長 (SLA 会長)

藤井 省吾 岡山県立倉敷天城高等学校

審査副委員長 (SLA 副会長)

相原 洋 毎日新聞社岡山支局長

藤原 陽子 岡山市立高島小学校

川原 悦子 岡山市立光南台中学校

審査委員

原田 美沙 岡山市立鹿田小学校

眞嶋 彩乃 岡山市立吉備小学校

東 智子 岡山市立三勲小学校

石野百合絵 岡山市立幡多小学校

柊中ひなの 岡山市立開成小学校

藤原 彩乃 岡山市立芳泉小学校

大智比抄子 赤磐市立仁美小学校

倉元 圭子 瀬戸内市立牛窓北小学校

藤原 朋妙 瀬戸内市立国府小学校

竹内 充子 吉備中央町立御北小学校

北川 有加 吉備中央町立吉備高原小学校

古市 桂太 倉敷市立帯江小学校

永田久美子 倉敷市立旭丘小学校

Ⅲ 岡山県指定図書

学年向	書名（シリーズ） 著者名	発行所
小 (低)	「はやく」と「ゆっくり」 張 輝誠	光村教育 図書
	たんじょうびはジェット コースター こすぎさなえ	PHP 研究所
	なかよくなれるかな 今井 福子	文研出版
小 (中)	ハッピークローバー 高田由紀子	あかね 書房
	本おじさんのまちかど図書 館 ウマ・クリシュナズワミー	ものがたりの庭 フレーベル館
	そだててみたら・・・ スギヤマカナヨ	赤ちゃん とママ社
小 (高)	星空の約束 三輪 裕子	あかね 書房
	明日の国 パム・ムニョス・ライアン	静山社
	だれよりも速く走る義足の 研究 遠藤 謙	借成社
中 学 校	笹森くんのスカート 神戸 遥真	講談社
	長い長い夜 ルリ作 カン・バンファ訳	小学館
	コレラを防いだ男 関寛斎 柳原 三佳	講談社

Ⅳ 結果

1) 応募作品数・応募校数

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度
小学校低学年	5,381 編	4,970 編	4,226 編
小学校中学年	8,478 編	7,997 編	7,057 編
小学校高学年	9,150 編	8,453 編	7,398 編
中学校	21,107 編	19,933 編	18,391 編
高等学校	11,367 編	11,051 編	9,593 編
計	55,483 編	52,404 編	46,665 編
応募校数	593 校	594 校	554 校

2) 特別賞受賞者（最優秀賞受賞者）

岡山県知事賞

岡山市立旭竜小学校 三谷 爽佑

岡山県議会議長賞

玉野市立荘内中学校 三宅 遼果

岡山県教育委員会教育長賞

岡山県立岡山操山高等学校 蓮池日茉莉

岡山商工会議所会頭賞

岡山市立妹尾小学校 服部 笑愛

岡山市長賞

倉敷市立茶屋町小学校 藤村 栞帆

岡山県読書推進運動協議会会長賞

瀬戸内市立牛窓西小学校 平松 朔

岡山市立吉備小学校 兒玉 亜子

岡山県立岡山大安寺中等教育学校 斎藤 有翔

毎日新聞社岡山支局長賞

赤磐市立磐梨小学校 内田 陽葵

岡山市立東疇小学校 黒木 詩

岡山県立岡山操山高等学校 柿原 美空

岡山県学校図書館協議会会長賞

津江市立高野小学校 森安 奏恵

高梁市立高梁小学校 佐野 有咲

岡山県立岡山大安寺中等教育学校 森山 尊央

3) 全国コンクール入賞者

全国学校図書館協議会長賞

岡山県立岡山大安寺中等教育学校

森山 尊央

第35回読書感想画岡山県コンクール

I 日 程

- 6月15日(木) 応募要項配布
第1回支部事務局長会議
- 12月15日(金) 応募締め切り(小学校・中学校)
- 1月5日(金) 応募締め切り(高校)

応募先・事務局

- *小学校・・・岡山市立幡多小学校
平坂多恵子
- *中学校・・・倉敷市立南中学校
藤本 久美
- *高校・・・岡山県立倉敷南高等学校
小林 雅子

- 1月5日(金) 小学校の部審査
(岡山市立幡多小学校)
- 1月9日(火) 中学校の部審査
(倉敷市立南中学校)
- 1月9日(火) 高等学校の部審査
(岡山県立倉敷南高等学校)

II 県審査員

審査委員長 (SLA 会長)

藤井 省吾 岡山県立倉敷天城高等学校

審査副委員長 (SLA 副会長)

藤原 陽子 岡山市立高島小学校

川原 悦子 岡山市立光南台中学校

審査委員

山崎 博之 岡山市立浮田小学校

眞賀 典子 岡山市立横井小学校

田村 敬子 岡山市立灘崎小学校

古谷 浩子 岡山市立平井小学校

上森 麻衣 岡山市立東疇小学校

難波伊津美 岡山市立福島小学校

佐藤 泰之 岡山市立第一藤田小学校

- 宮本 真也 岡山市立千種小学校
- 湊本 枝里 岡山市立幡多小学校
- 今中 由子 岡山市立幡多小学校
- 高角 彩歌 岡山市立高島小学校
- 谷岡 智行 岡山市立高島小学校
- 平坂多恵子 岡山市立幡多小学校
- 西 健悟 岡山市立竜操中学校
- 相川 美穂 岡山市立芳田中学校
- 藤岡 昌子 倉敷市立東中学校
- 渡邊 枝里 倉敷市立南中学校
- 藤本 淳平 岡山市立高島中学校
- 森崎 理絵 岡山市立桑田中学校
- 松永美紀子 倉敷市立北中学校
- 藤本 久美 倉敷市立南中学校
- 藤原 光 岡山県立備前緑陽高等学校
- 高取 亨一 岡山県立瀬戸高等学校
- 神坂友梨奈 岡山県立総社高等学校
- 宮添栄美子 倉敷市立精思高等学校
- 小林 雅子 岡山県立倉敷南高等学校

III 結 果

1) 応募作品数・応募学校数

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度
小学校	1755点/16校	591点/15校	214点/8校
中学校	64点/10校	67点/6校	81点/8校
高等学校	28点/10校	30点/9校	29点/7校
計	847点/36校	688点/30校	324点/23校

2) 最優秀賞受賞者

小学校低学年の部・指定

岡山市立南輝小学校 3年 森山 結月

岡山市立南輝小学校 3年 榎本 梨希

小学校高学年の部・自由

岡山市立福田小学校 6年 堀 桜輔

中学校の部・自由

倉敷市立北中学校 1年 津森 椿

倉敷市立北中学校	3年	岡本	愛結
中学校の部・指定			
倉敷市立北中学校	2年	藤田	明希
倉敷市立南中学校	2年	黒木	らん
高等学校の部・自由			
岡山操山高等学校	1年	横山	心優
岡山操山高等学校	1年	渡邊	真桜
高等学校の部・指定			
総社高等学校	2年	貝阿彌	結名
総社高等学校	3年	中久保	誠基

3) 全国コンクール入賞者
該当なし

IV 審査報告

【小学校の部】

岡山市立幡多小学校 平坂 多恵子

○審査事務の流れ

第35回読書感想画岡山県コンクールへの応募校は、8校と前年度より減少、応募作品総数も昨年度より減少し、214点であった。そのうち、応募要項にもとづいて各校の校内審査を経た作品17点が県コンクールに出品された。（高学年指定図書の応募は、0点でした。）

審査会は、1月5日（金）に岡山市立幡多小学校で行われた。図画工作・国語等に造詣の深い12名の先生方にお集まりいただき、厳正かつ慎重に審査をしていただいた。

司書の尽力により、感想画の図書が校外の図書館からも集められ、参考図書が傍らにあることで、内容や挿絵の模写などの確認がスムーズであった。応募の規定に関する違反が数校で見られたので、指導者や担当者が、指導の段階から応募の決まりや趣旨などをしっかりと把握しておく必要があると感じた。

3学期開始を間近に控えたご多用の中、ご協力くださった審査員の先生方に心より感謝申し上げる。

	自由図書	指定図書
最優秀	低0点 高1点	低2点 高0点
優 秀	低2点 高2点	低0点 高0点
入 選	低4点 高1点	低2点 高0点

【最優秀作品】

自由読書・低学年

「該当なし」

指定読書・低学年



自由読書・高学年



指定読書・高学年

「該当なし」

○審査概評・今後の課題等（※審査員の声を総括）

- ・描画材料を丁寧に扱い、絵を大切に仕上げている過程が目に見えるような作品が多かった。

- ・色の感覚や、絵をしっかりと描き上げていく力も大切だと思いますが、読書感想画なので、本をしっかりと読んで考えたり想像したりする力も必要なのだと思った。

- ・今年は作品数が少なかったのですが、本を読んだ感動を豊かな発想でかいていて、見応えがあった。

- ・指定図書は、話自体がとてもおもしろく、子どもの想像が広がると絵がいきいきしてくるのだろうと思った。絵本は、絵に表しやすい反面、挿絵に引き寄せられやすいとも思った。

- ・年々作品数が減っている中、今年度はさらに減少していた。国語と図工の合科として取り組むことが可能ならば、出品数が増えないだろうか。



読書感想画に取り組むには、伝え合う力、想像力、表現力、読書に親しむ態度などが求められる。本コンクールの趣旨やよさを啓発し、子どもが作品に表現することで様々な能力や態度の育成につながることを期待している。

【中学校の部】倉敷市南中学校 藤本久美

募集要項に基づき、本年度は、参加校8校、全応募作品集81点、県コンクールには、38点の作品が応募されました。審査会は1月9日（火）14時30分から、倉敷市立南中学校図書館にて行われました。県内の国語科、美術科担当の8名の先生方にお願ひし、厳正な審査の結果、最優秀作品4点を中央コンクールへ出品しました。3学期の始業式の日午後という多忙な時期にも関わらず、審査を担当して下さった先生方には、大変お世話になりました。ありがとうございました。

指定図書部門に応募された作品については、今年度も出品数が少なかったのですが、物語の内容を表現するために、構図や筆のタッチなどの工夫を凝らした作品が集まりました。どの場面をどう切り取るかなど、よく考えて捉えられており、色使い、描き方、道具などを使い分けられている作品も多くあり、感心させられました。また、見る人に、そのイメージを伝える”説得力”を持たせている作品も多かったです。



自由図書部門に応募された作品については、細部まで丁寧に描き込み、主人公の心の動きや変化を表現しようとする作品が多く見られました。名作を読んでチャレンジしたものも複数あり、中学生でその感想を絵にまとめる力量に感動しました。そして、アニメ的なものがあふれる今日の世情で、中学生の心情やあこがれを素朴に、また、苦しみつつ作画に向かった跡が感じられました。しかし、未完成の作品や、もう少し書き込んでいけば、と思う作品も出品されていたので、各校で出品の基準について検討がしていただく必要があると思われました。



感想文については、主題やそれに関する表現の工夫について、書かれているものもありましたが、あらすじがほとんどだったり、短かったりし、絵と文章の両方のバランスがとれているものが少なかったように思われました。本来は、絵だけでは分からない作者の思いが、感想文を読むことでより深く見えてくるためのものであるため、もう少し感想文にも力を入れてほしいです。

年々、出品作品が減っていましたが、指定図書の公示が遅く、制作時間がとりにくいという理由と、中学校では、学校図書館協議会からの募集広報が美術科の先生に伝わりにくく、開催内容や時期などが衆知されにくいということも理由としてあるように思われました。自分の心象をストレートに表出する描画活動の数少ない機会であり、本にじっくり向かい合う体験は、中学生にとって大変貴重な時間だと思うので、本コンクールをきっかけとして、しっかりと腰を据えて本と自分に向き合ってもらいたいという声が、審査員から挙がりました。

今年度も、本コンクールに応募・参加して下さった多くの学校の先生方にお礼申し上げます。



指定図書最優秀作品



自由図書最優秀作品

IV 審査の結果

【高等学校の部】

岡山県立倉敷南高等学校 小林 雅子

○審査事務の流れ

読書感想画岡山県コンクールは、2004年度から小学校・中学校・高等学校の部に分かれて事務局を置き、県SLA事務局と連携して審査事務を行っている。今年は20年目の節目の年となった。

本年度も支部事務局長会議で岡山県コンクールの募集要項を配付し、支部内の各校への要項配付と説明を支部事務局に依頼した。9月末には中央コンクールの募集要項が配付され、指定図書が発表された。『手で見るとの世界は』（樫崎茜 著）、『母の国、父の国』（小手鞠るい 著）、『シタマチ・レイクサイド・ロード』（濱野京子 著）、『パップという名の犬』（ジル・ルイス作、さくまゆみこ訳）、『ラスト・チェリー・ブロッサム：わたしのヒロシマ』（キャサリン、バーキンショー・作、吉井知代子・訳）の5冊が今年度の中学校・高等学校の部の指定図書であった。

1月5日（金）に締め切られた県コンクールへの応募数は以下の通りである。

〈コンクール応募総数〉

応募校数	自由読書	指定読書	作品合計
7校	23点	6点	29点

岡山県コンクール審査会は、1月9日（火）、倉敷南高等学校の小会議室で行われた。国語・美術の担当教諭で、特に学校図書館に造詣の深い4名（備前支部2名、備中支部2名）に審査をお願いした。

事務局から応募点数・審査基準などの説明・確認をした後、指定読書・自由読書の順に審査を行った。応募作品の対象図書を手に用意し、作品と参照しながら対象図書の表紙や挿絵の引き写しなどがいないか、対象図書が「募集要項」に適合しているかなどを確認し、厳正かつ慎重に審査を行った。

その結果、自由読書2点、指定読書2点、計4点の最優秀作品を決定し、中央コンクールに出品することができた。

〈受賞作品数〉

	自由読書	指定読書
最優秀	2点	2点
優 秀	2点	2点
入 選	10点	2点

○審査概評・今後の課題

審査の先生方から以下の講評をいただいた。

- ・製作に多くの時間を費したであろう力作ぞろいだった。
- ・作品の語っているものを描きつつ、独創的で個性的な世界観も表現するのは難しいだろうが、「読書感想画」なので、作品世界からあまりに乖離してしまうのはどうかと思うような作品もあった。明治、昭和の文学作品を選んでいるものが多くあった印象だった。
- ・参加校が少ない（7校）のが残念だ。また、指定図書部門の応募も6作品ということで、もう少し応募があって良いと思う。長期的に見るとレベルは上がっている（コンクールの趣旨に合う作品が増えていく）と思われる
- ・審査的には、決め手に欠ける作品が多く悩んだ。描写の優れた作品、構図や構成に感心する作品、評価の決め手は様々であったように思う。
- ・指定図書部門の出品が少ないので、図書館と協力して指定図書を購入してもらえると参加校が増えて良いと思う。今の高校生は読書する習慣がなく、参加校の減少に繋がっていると感じる。

指定読書部門 最優秀賞



「ゴー・ビヨンド」



「挑戦」

自由読書部門 最優秀賞



「金木犀が見せた人」



「撫でたくなる」

絵 本 研 究 部 会

1. 令和5年度の活動状況

本年度は22年度から続けている「心をつなぐ絵本」というテーマのもと、サブテーマを「SDGsとつながる絵本」とし、研究を進めました。

毎年発行している「読み聞かせたい絵本」はNo40を発行・配布しました。

2. 研究部会絵本研究部会設置要綱

(1) 設置について

岡山県学校図書館協議会規約第4条2項により、絵本研究部会を設置する。

(2) 目的

この部会は、絵本の指導のあり方を研究し、児童・生徒・父母の読書活動を促進する。

(3) 活動

①毎月に関く部会で、研究する内容

- ア. 絵本の見せ方・選び方
- イ. 絵本の読ませ方・読み聞かせのあり方
- ウ. 絵本作りのあり方
- エ. その他 絵本研究のための必要な活動

②研究成果の発表

- ア. 各郡市地区事務局を通じての内容紹介
- イ. 研究収録への収録
- ウ. 研究大会での発表
- エ. その他 絵本実践を推進するための発表

(4) 構成

① (部員の委嘱)

部員は、地区組織を通して募集し、会長が委嘱する。

② (部員数)

部員の人数は約10名とし、幼稚園・小学校・中学校・高等学校の教諭・司書を含める。

3. 令和5年度絵本研究部会委員

(敬称略 順不同)

部会長	藤原 陽子	岡山市立高島小学校長
事務局長	副島 佳成子	岡山市立竜之口小学校教諭
研究部員	宮野 敬子	〃
	〃 川原 あみ	〃
	〃 西垣 淳司	岡山市陵南認定こども園教諭
	〃 山田 宏美	倉敷市立福田南中学校教諭
	〃 山本 泉	岡山県立西大寺高等学校教諭

4. 今年取り組み

今年度は引き続き、「心をつなぐ絵本」というテーマのもと、サブテーマを「SDGsとつながる絵本」とし、実践を重ねていきました。SDGsについては、ずいぶん幅広く知られるようになってきていることもあり、様々な項目のものを選定するようにしました。また、コロナや戦争、自然災害など暗い話題が続く中でも絵本を通して温かい気持ちになれたり、笑顔になれたりして欲しいとの願いから「なつかしい気持ちになる本」と「思わず笑ってしまう絵本」を選定しました。子どもたちがよりよい絵本と出会えるよう、得られた情報をより多くの教育現場で実践にかけていただくために、今後も紹介文研究も引き続き進めていきます。

岡山県学校図書館協議会絵本研究部会

岡山県学校図書館協議会絵本研究部会では、「心をつなぐ絵本」という研究テーマのもと今年度も「SDGs とつながる絵本」をサブテーマとし、研究と実践を続けてきました。研究を通して確認された絵本と新しく出会った絵本の中から、読み聞かせたい絵本をお知らせします。

書 名
著 者

出版社 税込価格 出版年 実践学年

SDGs とつながる絵本



1まいのがようし

長坂 真護 作

あかね書房 ¥1,650 2022 小～高

アフリカのガーナのスラム村では、お父さんの仕事を1日手伝うと約20円もらえます。その20円で大きくておいしいキャンディーが1つ買えるのです。ある日、絵かきの男が20円で画用紙を1まい買えば、絵の描き方を教えようと提案してきます。1まいの画用紙から広がるお話にワクワクする1冊です。



プラスチックマン

きよた けいこ 作 みらいパブリッシング

¥1,499 2022 幼～高

プラスチックは捨ててはいけないことは知っているけれど、捨てると一体どうなるのでしょうか？プラスチックごみからできたプラスチックマンが分かりやすく教えてくれます。子どもから大人まで楽しみながら考えることができるSDGsの本です。



ピンクマ ピンクになったシロクマのはなし

柏原 佳世子 作 KADOKAWA

¥1,650 2023 小～高

シロクマがピンク色に！？暑さにたえられなくなったシロクマが、便利さや快適さを求めた生活を送った結果、ピンク色になってしまう……。ピンクマはシロクマに戻ることができるのか。自然環境について考えさせられる絵本です。

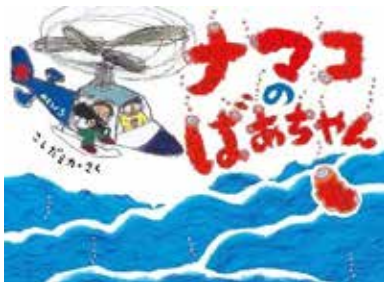


もうじきたべられるぼく

はせがわ ゆうじ 作 中央公論新社

¥1,540 2022 幼～高

「ぼくはうしだから、もうじきたべられるのだそうだ。」という衝撃の1文から始まるお話。運命を受け入れた牛が向かった先は？胸がぎゅっと締め付けられるような結末に、命の大切さを感じさせてくれる絵本です。



ナマコのばあちゃん

こしだ ミカ 作

偕成社 ¥1,540 2022 幼～中

余計なものをもたず、シンプルに生きるナマコのばあちゃん。身のまわりにある砂を食べ、砂についての栄養分だけを取ってきれいになった砂をはき出して生活していましたが、ある日、とてつもないことが起きてしまいます。

なつかしい気持ちになる絵本



なつやすみ

麻生 知子 作

福音館書店 ¥1,650 2023 小～高

こうたくんの家のとある夏休みの一日をえがいた絵本です。上からの構図で、みんなでそうめんを食べたり、神社のお祭りで金魚すくいをしたりと、夏休みがくるのが待ち遠しくなる作品です。

思わず笑ってしまう絵本



たべて うんこして ねる

はらぺこめがね 文・絵 岩崎書店 ¥1,650 2023 幼～高

「たべて うんこして ねる」人だけでなく生き物は全てそのくり返しの中で生活しています。そんな当たり前の日常を切り取った1冊です。生き生きとしたイラストとともにくり返される「たべて うんこして ねる」がクセになります。

優良図書研究部会

1 活動内容

当部会では、5月、6月、7月、8月、9月、11月、1月、2月の年8回、県立図書館の御協力において、新刊図書の中から、小学校・中学校の児童・生徒のための「おすすめの本」を選定しています。

研究員は、小学校（低学年・中学年・高学年）と中学校の4グループに分かれ、下記の選定基準に沿って、また、過去の傾向や、価格面、ページ数、字の大きさなど、いろいろと配慮しながら、それぞれのグループで意見交換した上で選定作業（書評の記入等）をすすめています。

ただ、インターネットの利用拡大に伴い、本の現物が少なくなっている現状もあります。そのため、選定月により新刊本の出版数に多い少ないがあり、また、学年によっては、分類が偏る傾向があるなど、年間を見通した選定も必要となります。

長期休業中を利用して、児童・生徒に「こんな本を読んではどうですか」と、お勧めの本も紹介しています。このお勧めの本は、読書感想文のための本とは限らず、各学年に応じて、読んでおいてもらいたいなという本の最新刊をそれぞれ選定しています。

これは、それまでの各月の選定図書の中から選ばれ、夏休みと冬休み前に、県下の小・中学校に「みなさんにすすめたい本」として、本の書評をつけて、配布しています。（カラー版ではないのが残念ですが・・・）

これらの本は、岡山県青少年保護育成条例に基づく推薦図書の中にも入れられ、「岡山県公報」に載せられて広く紹介されています。

岡山県青少年読書感想文コンクールでは、岡山県独自のものとして、昭和55年から指定図書を設けていますが、ここでも、当部会の選定図書をもとに、毎年3月、岡山県指定図書選定委員会が県立図書館にて開かれ、優良図書として選定された本の中から、小学校低・中・高学年・中学校向けに、3冊ずつを選んでいきます。

この研究部会の活動が、県下の小・中学校の児童・生徒の読書、先生や保護者の方々の読書指導の道標として、今後も、より効果的に機能するように活動していきたいものです。

2 選定基準

1 内容事項

- (1) 教育課程によく合っていて、その内容を豊かにするものであるかどうか。
- (2) 子どもたちが、興味をもって読め、小（低）、小（中）小（高）、中学生の発達段階に合ったものであるかどうか。
- (3) 分かりやすく、正確で、現代の進歩に合っているかどうか。

イ) 統計は正確で、調査年度、出典が正確であるかどうか。

ロ) より新しい知識であり、新研究であるか、新しい方法であるかどうか。

ハ) 事実の叙述は、科学的に正確で、実際的であるかどうか。

ニ) 引用文、挿し絵、写真、図表などは、正確、鮮明、適切であるかどうか。

ホ) 翻訳は原意を伝え、分かりやすく、原著者、年代、原著書が明記されているかどうか。

ヘ) 断片的な知識でなく、体系的にまとまりのあるものであるかどうか。

(4) 主題を単に解説したものはとりあげない。

2 編集・出版事項

(1) 短編集は採用しない。

(2) 多くの合さんのものは採用しない。

(3) 新刊書であること。

(4) 辞典、事典類は採用しない。

(5) シリーズ全巻を対象としない。

3 図書群の構成事項

(1) 特選図書全体を通して、ある分類ばかりに偏り過ぎない。できるだけ広い分野で考慮する。

(2) 小（低）、小（中）、小（高）、中学生向けのバランスを考慮する。

4 装丁・体裁事項

(1) 製本、外観、大きさが適切で、書誌的体裁が整っているか。

(2) 用紙は上質、印刷は鮮明、色彩は美しく、字の大きさ及び行間の余白が適切であるか。

3 優良図書研究会部員

部会長 藤原 陽子 岡山市立高島小学校長

事務局長 副島佳成子 岡山市立竜之口小学校教諭

研究部員

〈小学校の部〉

木下由布子 岡山市立陵南小学校教諭

片山のぞみ 岡山市立岡南小学校司書

高橋 香耶 岡山県立図書館司書

黒石 浩史 岡山市立興除小学校教諭

宮野 敬子 岡山市立竜之口小学校教諭

川原 あみ //

〈中学校の部〉

藤本 久美 倉敷市立南中学校教諭

森 由美子 岡山市立石井中学校司書

みなさんにすすめたい本

岡山県学校図書館協議会

もうすぐ楽しい夏休みがやってきます。みなさんにおすすめしたい本を学校図書館協議会の先生方を選んでもらいました。これらの本の中から一冊でも多く読んで、楽しい時間を過ごしてください。

〈おうちのかたがたへ〉

保護者が子どもに本を読むことは、読書に親しむ基礎づくりになります。また、読書をすすめることにより、心が通じ合い、対話がよりいっそうふえることになります。

しょうがっこうていがかねんむ

小学校 低学年向き

分類	著者名	書名	発行所	ページ 価格(税込)
E	杉原やす/作・絵	わごむ いえです	ひかりのくに	32ページ 1,485円

どこかにとんでいっても、いつも放^{ほう}っておかれているわごむたち。とうとう家をとび出して、あたらしいおうちをさがします。きけんがいっぱいの町の中、わごむたちのおうちは見つかるのでしょうか？ わごむを見る目が変わるかも!?



913	おくやまゆか作	もじゃもじゃドライブ	福音館書店	56ページ 1,100円
-----	---------	------------	-------	-----------------



お父さんが中古で買ってきた銀色のじどう車。かぞくでドライブしていたら、あれれ!? ハンドルもブレーキもきかなくなり、車から茶色い毛がもじゃもじゃはえてきた!! 山奥で止まった車のまえにあらわれたのは・・・? ちょっとふしぎで、心あたたまる物語。

E	ほそかわてんてん作・絵	こころってなんだろう	講談社	36ページ 1,595円
---	-------------	------------	-----	-----------------

「こころ」っていったいなんだろう? さいしょからあるのかな? どうやってうまれるのかな? どんなことでかわって行くのかな? 自分の「こころ」とのつきあいかたをわかりやすくおしえてくれます。



小学校中学年向き

分類	著者名	書名	発行所	ページ 価格 (税込)
558	山本省三 作	海を科学するマシンたち しんかい6500 深海のひみつをさぐれ!	くもん出版	40ページ 1,650円

深い海中や海底をさぐり、いろいろななぞをとき明かすためにつくられた世界トップクラスの有人せん水調査船「しんかい6500」。まん丸のそうじゅう室。サンプルをとるためのロボット。深海にもぐるためのちえがいっぱいつまっています。



913	新井けいこ 作	リレー選手になりたい	文研出版	104ページ 1,430円
-----	---------	------------	------	------------------



学年で1番足が速く、毎年リレー選手に選ばれていた勇斗。走る練習を地道に続け、初めてリレー選手に選ばれた流星。二人の目線からリレー選手への思いがかかれています。きっとだれもが共感することのできる一冊です。

E	アリシア・アコスタ ルイス・アマヴィスカ/文	色とりどりぼくのつめ	光村教育図書	29ページ 1,650円
---	---------------------------	------------	--------	-----------------

ぼくはマニキュアに夢中。なぜかって？色とりどりになったつめが好きだから。でも、学校に行くと「そんなの女の子がするものだ。」とからかわれる。ぼくは、学校にマニキュアをしていかなくなった。そんな傷ついた心のままむかえたたん生日。その日が忘れられない最高の一日に！！心あたたまる本です。



小学校高学年向き

分類	著者名	書名	発行所	ページ 価格(税込)
913	作/高田由紀子	金色の羽でとべ	小学館	272ページ 1,540円

『金色の羽』を持ったバレーボールのアタッカー。あんな風に飛べたら世界が変わる気がする。バシッ！ダーン!!この音を聞くだけで胸が高鳴り、体の奥から力が湧いてくる。全国大会を夢見る少年たちの熱い物語。



369	田沢五月 作	海よ光れ! 3・11被災者を励ました学校新聞	国土社	160ページ 1,540円
-----	--------	---------------------------	-----	------------------



東日本大震災の直後から、大沢小学校に避難した大沢の人たちは、この困難を乗り越えるために力を合わせます。その姿を見て、今の自分たちに何ができるのかを考え、行動した、大沢小学校の子どもたちの物語です。

933	アンドリュー・ノリス 著	起業家フェリックスは12歳	あすなろ書房	264ページ 1,650円
-----	-----------------	---------------	--------	------------------

フェリックスは、親友のモーが描いたカードが好評だったことから、それを売り出すことにします。口コミから始まった販売は、カードに書かれたその URL から作られた web サイトで爆発的に売れるようになっていきます。



中学生向き

分類	著者名	書名	発行所	ページ 価格 (税込)
933	ヤスミン・ラーマン 著	ディス・イズ・マイ・トゥルース わたしの真実	静山社	384ページ 2,090円

アマニとフーダは何不自由なく高校生活を送っているように見えますが、二人とも周りの人には言えない秘密や悩みがあります。ある日、学校で匿名の暴露系ブログができ、次々と秘密が書き込まれていくようになり、二人は自分の秘密を守るために行動し始めます。



913	作 まはら三桃	つる子さんからの奨学金	偕成社	206ページ 1,430円
-----	---------	-------------	-----	------------------



中学3年生のわかばと樹に、曾祖母から今の実力より1つ上の高校に合格したら学費を出すという提案を受けました。二人はそれぞれもう一度自分の進路について真剣に考え始めます。本当に自分がやりたいことは何なのか。「自分だったら？」と考えやすい本です。

471	ピエルドメニコ・バッカラリオ フェデリーコ・タッディア 著	もしも草木が話したら？ 植物をめぐる15の疑問	太郎次郎社エディタス	144ページ 1,980円
-----	-------------------------------------	----------------------------	------------	------------------

人間が誕生する遥か前から地球に存在する植物。植物について知っているようで知らないことがたくさんあります。植物がもし話ができたら、私たち人間は何を問い、植物は何と答えてくれるのか。意外な視点から植物の謎にせまる本です。



みなさんにすすめたい本

岡山県学校図書館協議会

もうすぐ楽しい冬休みがやってきます。学校図書館協議会では、みなさんにおすすめしたい本を選びました。これらの本の中から一冊でも多く読んで、楽しい時間を過ごしてください。

〈おうちのかたがたへ〉

保護者が子どもに本を読むことは、読書に親しむ基礎づくりになります。また、読書をすすめることにより、心が通じ合い、対話がよりいっそうふえることになります。

しょうがっこうていがかねんむ

小学校 低学年向き

分類	著者名	書名	発行所	ページ 価格(税込)
E	文/曹文軒	たねせんもんでん	小学館	40ページ 1,760円

なかよしきょうだいダイズとアズキのいえは、「たねせんもんでん」。ある日、二人で店番中にたねのふくろのシールであそびはじめたアズキ。兄ちゃんに見つかったらたいへんと、てきとうにシールをはりなおしてしまった。そうとは知らないダイズは、ふくろのシールを見ながらお客さんに売ってしまい…。



913	桂雀喜/原作 あおきひろえ/文・絵	ききみみトーマス	あかね書房	63ページ 1,320円
-----	----------------------	----------	-------	-----------------



はらぺこのキツネにおいなりバーガーをわけてあげたトーマス。それを見ていた神さまが、ふしぎなはねをくれました。そのはねをあたまにさすと、どうぶつたちのはなしがわかるようになったようですよ。

E	川村康文/文	うかぶかな？しずむかな？	岩崎書店	32ページ 1,540円
---	--------	--------------	------	-----------------

水そうをお水でいっぱいにしたら、いろんなものを入れてみよう！ボールにミニカー、ねんどに野菜。うかぶかな？しずむかな？どっちかよそうしてみよう。きつとふしぎな発見があるよ。科学っておもしろい！とわくわくさせてくれる絵本です。



小学校中学年向き

分類	著者名	書名	発行所	ページ 価格 (税込)
913	茂市 久美子/作	ゆうすげ村の紙すき屋さん	講談社	192ページ 1,595円

昔ゆうすげ村で作られていた、やまが和紙。すっかりとだえてだれも作らなくなってしまったことを残念に思ったかえでさんは、ここで紙すき屋さんを始めます。そこに訪ねてくるお客さんとかえでさんのほっこり優しいつながりに、心があたたかくなるお話です。



E	アーノルド・ローベル/作	アーノルド・ローベルの へんてこなとりたち	好学社	40ページ 1,980円
---	--------------	--------------------------	-----	-----------------



この本には、とってもへんてこでめずらしい鳥たちがたくさん出てきます。世界中のどこの動物園にもいませんし、どの図かんにもものっていません。くすつと笑えるゆかいな名前の鳥たち。この本を読んだら、身の回りの鳥たちにも、思わず名前をつけたくてしまうでしょう。

480	小菅 正夫/監修	野生動物と暮らしてみたら	KADOKAWA	128ページ 1,540円
-----	----------	--------------	----------	------------------

野生動物と人間がいっしょにくらしてみたらどうなると思いますか？実際の大きさや動物のとくちょうを人間サイズにしてみると新しい発見がいっぱいです。あなたは野生動物といっしょにくらしたい？それともくらしたくない？楽しみながら学べるそんな一冊です。



小学校高学年向き

分類	著者名	書名	発行所	ページ 価格(税込)
913	著/吉田 桃子	アンナは犬のおばあちゃん	講談社	208ページ 1,540円

ちひろの夢は、チワワを飼うこと。小学校6年生になり、1年生からの願いがやっと叶うと思ったら、うちにやってきたのはオオカミみたいなおばあちゃん犬。がっかりしながらも、だんだんと犬との絆が深まっていきます。



289	著/増田 ユリヤ	カタリン・カリコ	ポプラ社	142ページ 1,650円
-----	----------	----------	------	------------------



2020年から世界的に大流行した新型コロナウイルスの感染拡大を食い止めるため、mRNAワクチンを開発したカタリン・カリコ氏。困難にぶつかりながらも研究を続けてきたカタリン氏の幼少時代から現在までを振り返ります。

933	アイシャ・ブシュビー/作	星をつかんでポケットへ	ほるぷ出版	384ページ 1,760円
-----	--------------	-------------	-------	------------------

13歳のサフィヤは、両親の離婚により母と別居しています。週に一度の面会で母とけんか別れをした日、そのまま母は脳卒中で昏睡状態に…。母の目を覚ますため、サフィヤは異世界で母の思い出のアイテムを探します。



中学生向き

分類	著者名	書名	発行所	ページ 価格 (税込)
319	著/ニキー・ウォーカー	「争い」入門	亜紀書房	152ページ 1,760円

私たちはいつも平和を望んでいますが、戦争や紛争が世界からなくなることはありません。それは、一体なぜなのか。そのことを様々な視点や例から分かりやすく解説している本です。本の最後にある「君はどう思う？」という問いにあなたはどうか答えますか？



913	著/ひこ・田中	あした、弁当を作る。	講談社	272ページ 1,540円
-----	---------	------------	-----	------------------



中学1年の日下部龍樹は、両親から自立するために、自分で自分のことをやり始めます。父や母に反対されながらも、お弁当作りや洗濯に挑戦します。今まで気にならなかった家庭の様々なことを1つ1つ理解しようとする龍樹の姿に共感することも多いはずです。

933	キース・カラブレーゼ/作	希望のひとしずく	理論社	312ページ 1,980円
-----	--------------	----------	-----	------------------

森の奥にある古い井戸が願いをかなえてくれることを知った3人。秘密を知っている3人は、誰のどんな願いをかなえるべきか迷いながら、様々な壁を協力して乗り越えて多くの人を助けることとなります。秘密を抱えた3人の行動にハラハラドキドキする物語です。



指定図書選定委員会

令和6年2月29日(木)、岡山県立図書館において、指定図書選定委員会を開き、令和6年度第70回青少年読書感想文岡山県コンクールの「県指定」図書を選定した。来年度4月に発表される全国コンクールの課題図書と照合し同作品が課題図書となった場合は、候補作の中の優先順位の高い作品から選定する予定である。

指定図書選定委員

県SLA会長	藤井 省吾	岡山県立倉敷天城高等学校
副会長	藤原 陽子	岡山市立高島小学校
〃	川原 悦子	岡山市立光南台中学校
小教研事務局長	高角 彩歌	岡山市立高島小学校
〃	副島佳成子	岡山市立竜之口小学校
中教研事務局長	門田 琴音	岡山市立竜操中学校
中教研事務局補佐	田中 杏佳	岡山市立高島中学校
県SLA事務局長	坂井 昌子	岡山県立倉敷天城高等学校
アドバイザー	田中 雅輝	岡山県教育庁義務教育課
選定委員	木下由布子	岡山市立陵南小学校
〃	黒石 浩史	岡山市立興除小学校
〃	川原 あみ	岡山市立竜之口小学校
〃	宮野 敬子	岡山市立竜之口小学校
〃	森岡 香耶	岡山県立図書館
〃	藤本 久美	倉敷市立南中学校
〃	森 由美子	岡山市立石井中学校

岡山県指定図書について

1 内容

読書感想文コンクールの自由読書と課題図書の他、岡山県独自の応募区分「県指定」を設ける。

2 目的

- (1) 岡山県の状況に応じた読書普及を推進する。
- (2) 何をどう読ませるか、図書の選択や読書指導の手がかりにする。
- (3) よりよい図書をより多くの子どもたちに読ませ、読書生活を豊かにさせる。
- (4) 岡山県優良図書選定委員会の選定した図書の有効活用を図る。

3 方法

- (1) 岡山県指定図書は、指定図書選定委員会を設けて協議し、決定する。
- (2) 岡山県学校図書館協議会優良図書研究部会の選定した図書などから選定する。
- (3) 冊数は、小学校低学年3点、小学校中学年3点、小学校高学年3点、中学校3点とする。

4 その他

- (1) 字数、用紙、応募作品、出品数、締め切り、送付先、審査、その他の注意事項については、他の区分の応募要項に準ずる。
- (2) 全国コンクールの応募については、自由読書と一緒にして再度審査し、規定どおり出品する。
- (3) 岡山県指定図書は、昭和55年度(第26回)から設けている。

令和5年度岡山県指定図書(県指定)

学年向	書名(シリーズ) 著者名	発行所
小(低)	「はやく」と「ゆっくり」 張 輝誠	光村教育図書
	たんじょうびはジェット コースター こすぎさなえ	PHP 研究所
	なかよくなれるかな 今井 福子	文研出版
小(中)	ハッピークローバー 高田由紀子	あかね 書房
	本おじさんのまちかど図書 館 ウマ・クリシュナズワミー	ものがたりの庭 フレーベル館
	そだててみたら・・・ スギヤマカナヨ	赤ちゃん とママ社
小(高)	星空の約束 三輪 裕子	あかね 書房
	明日の国 パム・ムニョス・ライアン	静山社
	だれよりも速く走る義足の 研究 遠藤 謙	偕成社
中学校	笹森くんのスカート 神戸 遥真	講談社
	長い長い夜 ルリ 作 カン・バンファ 訳	小学館
	コレラを防いだ男 関寛斎 柳原 三佳	講談社

岡山県学校図書館協議会司書部会 活動報告

1. 令和5年度岡山県学校司書研修会（玉野大会）

令和5年7月28日オンライン開催

岡山県下の学校司書が、オンライン上ではあるが地域校種を超えて一堂に会し、研修することができた。笠岡市と井原市の両実践発表は、ICTを活用して図書館資料の利用を促進させる取り組みが大いに参考になった。全体講座は、児童生徒の将来を見通して、今の学校図書館が担う役割を指南していただき、ICT社会の中でも、学校図書館の持つ可能性を再認識できた。参加者からは、紹介されたたくさんの事例を校内・地域で共有し、子どもたちの学びのためにできることを進めていきたいとの声が多く寄せられた。

総会では、今後の研修会はオンラインで開催すること、研究協議会・研修会とも冊子を作製せず参加費不要とすることを決定した。今後も多くの司書、司書教諭などが参加できる研修となるよう準備計画していきたい。

2. 令和5年度学校司書実態調査

目的：学校司書の配置並びに雇用状況と、各地区での活動状況について情報を収集し、まとめた状況を公開する。

※状況部分のみをHPで公開。作成のため収集した情報は、理事会保管とする。

日程：3月初旬 理事選出支部へEメールを送付して依頼。
 4月中旬 支部事務局長・支援学校へEメールを送付して依頼。
 5～6月 各支部事務局内の各学校に調査依頼・回収・集計。
 6月2日 調査結果回収締め切り。
 6～7月 まとめ作業、不明な点を確認。

実態：

- 岡山市では、会計年度任用職員の勤務時間が週 35 時間に短縮。また、正規職員 3 名退職後、会計年度職員で補充したため小・中学校及び義務教育学校の正規職員は 3 名減の 19 名に（その他市教委に 1 名、再任用の正規職員は 8 名）。
- 笠岡市では小学校 1 校が閉校となって学校数が減り、それに伴い司書数も 1 名減、9 名で 22 校の配置となっている。
- 新見市は小学校 2 校が閉校となって学校数は減ったが、司書数は昨年度と同数を保持し、5 名で 20 校の配置となっている。
- 苫田郡鏡野町は 2 校が閉校となって学校数が減ったが、司書数は 2 名を保持し、2 名で 6 校の配置となっている。
- 久米郡美咲町では、小学校 1 校と中学校 1 校が義務教育学校として再編され、2 名の司書が公立図書館からの派遣で配置されている。公立図書館の派遣が 1 名増え、全校配置となった。
- 美作市は 1 校が閉校となって学校数が減った。司書数は昨年度と同数を保持し、6 名で 13 校の配置となっている。
- 高校備前支部では公立 1 校で司書数が 1 名減っているが、私立 1 校で事務兼任の司書 1 名が増えた。
- 高校備中支部では公立の分校が統合されて 1 校減ったが、美作支部から私立 1 校が移転してきたため学校数は変わっていない。公立 1 校で司書が 1 名退職して調査時点で

は後任を募集している。私立 2 校で兼任の司書 2 名が新たに配置された。中高一貫校 1 校で昨年度まで 2 名配置だった司書が 1 名になった。全体としての司書数は変わっていない。

- ・ 高校美作支部では私立 1 校が移転したため学校数が 1 校減り、それに伴い司書数も 1 名減となっている。

3. 司書部会ホームページ

URL : <http://okayamasisho. qee. jp/>

目的 : 学校司書の配置状況ならびに雇用の状況, 地区での活動状況, 司書部会沿革, 司書部会活動状況等を広報するために運営

内容 : 上記の他, 学校図書館関連ニュース (新聞記事や議会議事録), 図書館イベント情報 (講演会や研修会), 学校司書採用試験情報, 司書教諭と学校司書の連携協力による実践事例, 学校図書館の活用方法や児童生徒の読書活動に関する情報収集・共有など

課題 : 広く情報収集をしていくことと, その情報を閲覧してもらうこと

情報がありましたら, 朝日塾中等教育学校・司書または, 司書部会 HP 【お問い合わせ】よりお願いいたします。

4. 司書部会理事会

◇第 1 回理事会 令和 5 年 5 月 1 6 日 Web 会議システムにて開催

- ・ 学校司書実態調査について
- ・ 令和 5 年度岡山県学校司書研修会 (玉野大会) について
- ・ 総会準備について

◇第 2 回理事会 令和 5 年 1 0 月 1 6 日 Web 会議システムにて開催

- ・ 令和 5 年度活動方針に係る具体的な役割分担について
- ・ 学校図書館の充実に関する提案書について
- ・ 令和 5 年度岡山県学校司書研修会 (玉野大会) 総括

◇第 3 回理事会 令和 6 年 2 月 1 3 日 県立総社高校にて開催予定

- ・ 第 4 5 回岡山県学校司書研究協議会 (倉敷大会) について
- ・ HP の更新について

5. その他

◇「学校図書館の充実に関する提案書」の提出について

提出日 : 令和 5 年 1 1 月 1 7 日 (金)

提出先 : 岡山県教育委員会

内容 : 実態調査の結果を踏まえ, ①県下すべての学校で一校一人体制の学校司書の配置促進 ②学校司書の資質向上のため, 継続的な研修とそれに伴う予算措置について, 各自治体へ働きかけを行うよう提案した。

◇第 4 5 回岡山県学校司書研究協議会 (倉敷大会) について

日時 : 令和 6 年 7 月 2 5 日 (木)

会場 : ライフパーク倉敷

内容 : 司書部会総会 (実態調査報告等) ・全体会 ・実践発表

※参加費は不要です。

令和5年度事業報告

	実施事項	期日	会場	内容
5月	新旧代表役員会及び研修会	5/11(木)	ライフパーク倉敷	・役員の確認 ・総会提出議案の協議
6月	第74回総会及び研修会	6/8(木)	ライフパーク倉敷	・令和4年度事業・決算報告 ・令和5年度事業計画・予算案
	第1回司書部会理事会及び研修会	5/16(火)	オンライン	・学校司書実態調査について ・学校司書研修会について ・各地区情勢報告
	第1回支部事務局長会議及び研修会	6/15(木)	ライフパーク倉敷	・総会議決事項報告 ・事務連絡 他
7月	令和5年度岡山県学校司書研修会	7/26(水)	玉野市(オンライン開催)	・全体会、分科会、交流会 その他
10月	読書感想文コンクール審査準備会及び研修会	10/3(火)	竜操中学校	・審査会準備
	読書感想文コンクール第1回合同審査会	10/5(木)	ライフパーク倉敷	・審査日程・審査基準について
	読書感想文コンクール第2回審査会	10/24(火)	高島小学校	・小中高別の審査
		10/24(火)	竜操中学校	
		10/24(火)	倉敷南高等学校	
第2回司書部会理事会及び研修会	10/16(月)	オンライン	・研修会報告について ・令和6年度研究協議会について ・学校司書実態調査について 他	
12月	読書感想文コンクール最終校正会議	12/7(木)	ライフパーク倉敷	・「読書感想文集2023」最終校正
	読書感想文コンクール表彰式及び研修会	12/26(火)	岡山県立図書館	・表彰式
1月	第2回支部事務局長会議及び研修会	1/11(木)	ライフパーク倉敷	・令和5年度事業中間報告 ・事務連絡 他
	読書感想画コンクール審査会	1/5(金)	幡多小学校	・小中高別の審査
		1/9(火)	南中学校	
		1/9(火)	倉敷南高等学校	
2月	代表理事会及び研修会	2/27(火)	ライフパーク倉敷	・令和6年度総会提出議案の協議
	第3回司書部会理事会及び研修会	2/13(火)	総社高等学校	・令和6年度研究協議会について ・学校司書実態調査について ・各地区情勢報告 他
	指定図書選定委員会	2/29(木)	岡山県立図書館	・令和6年度青少年読書感想文岡山県コンクールの県指定図書の選定

令和5年度 岡山県学校図書館協議会支部協議会事業報告書

支部名	実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加人数	
岡山	第1回 正・副会長研修会	5月30日(月)	岡山市立城東台小学校	・令和4年度事業報告、決算報告 令和5年度事業計画・予算案等	11名	
	総会並びに第1回区別研修会	中止	紙面総会	【総会】 ・令和4年度事業報告、決算報告 令和5年度事業計画・予算案 【区別研修会】 ・第1回区別研修会(情報交換・読書感想文コンクール審査会日程調整)		
	第1回 理事研修会	6月20日(月)	岡山市立城東台小学校	・第69回読書感想文コンクールに向けて	17名	
	全体研修会並びに第2回区別研修会	中止		・第69回読書感想文コンクール 岡山市一次審査に向けて		
	第69回岡山市読書感想文コンクール 第一次審査(区)	9月5日(火)	北1 岡山市立鹿田小学校	・岡山市二次審査に出品する作品の選考、入賞者作品名簿の作成 ・各区の応募総数の確認、二次審査の審査員の推薦	30名	
		9月5日(火)	北2 岡山市立吉備小学校		27名	
		9月5日(火)	中 岡山市立幡多小学校		24名	
		9月5日(火)	東 岡山市立旭東中学校		23名	
		9月1日(金)	南 岡山市立芳泉小学校		35名	
	第69回岡山市読書感想文コンクール 第二次審査(市)	9月18日(水)	岡山市立城東台小学校	・特選(県出品)、金賞、銀賞作品の選考	32名	
	第2回理事会研修会	1月18日(木)	岡山市立城東台小学校	・読書感想文、賞状の仕分け	16名	
	第3回区別研修会	2月8日(木)	北1 岡山市立鹿田小学校	・読書感想文集、賞状等の受け渡し		
		2月6日(火)	北2 岡山市立吉備小学校			
		2月8日(木)	中 岡山市立幡多小学校			
		2月6日(火)	東 岡山市立旭東中学校			
		2月5日(月)	南 岡山市立芳泉小学校			
	第3回 理事会研修会	2月21日(水)	岡山市立城東台小学校	・今年度の反省、次年度への引継ぎ		
	第2回 正・副会長	2月29日(木)	岡山市立城東台小学校	・令和5年度事業報告、令和6年度事業計画案		
	反省と課題 ・今年度も昨年度に引き続き、感染症拡大防止の観点から全体研修等の研修会を開催することができなかった。 ・研究に関しては、研究部会は開催できなかったが、県大会で発表する中学校区の小中学校が、研究授業や研究協議を行い、発表を行った。 ・読書感想文の賞状に記入ミスをする学校が多くあり、追加配布することが多かった。全体へ周知徹底する方法を検討する必要がある。					
	赤磐	主任者会(小学校)	5月1日(月)	赤磐市立軽部小学校	R4年度事業報告・R5年度事業計画等 主任のみ参加(部員には紙面配付)	12名
主任者会(中学校)		5月2日(火)	赤磐市立高陽中学校	R4年度事業報告・R5年度事業計画等	6名	
読書感想文審査会および研修会		9月7日(木)	赤磐市立笹岡小学校	読書感想文審査・読書感想文についての研修	18名	
反省と課題 研修会の回数は少ないですが、中身の濃い研修会ができました。						
和気	和気郡読書感想文コンクール審査会	9月7日(木)	本荘小学校	岡山県と和気郡の読書感想文コンクールの審査、諸連絡	8名	
	反省と課題 ○参加数が少ない。特に中学校の作品が少なく審査員も集まらない。内容も学年に応じたものが少ないが、学校での指導内容と異なるコンクールへの学校としての指導のよびかけは難しい。 ○各校1冊購入の感想文集の代金をどこから捻出するかで毎年各校揉める。なぜ強制的なのかの声が毎年出る。個人分も支部内の集金が大変難しい。振り込みすると手数料や出金手続きなどで困る。					

支部名	実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加人数	
備前	第1回 備前市学校図書館部会研修会	4月20～27日	吉永小学校など	○授業公開 ○意見交換・諸連絡	15名	
	第2回 備前市学校図書館部会研修会 並びに司書部会研修会	5月2日(月)	備前中学校	○令和4年度の事業報告、令和5年度の組織作り・事業計画作成 ○各校の情報交換	15名	
	第3回 司書部会研修会	6月30日(金)	備前中学校	○全体研修 ○連絡・情報交換 ○部会に分かれての活動	15名	
	第4回 司書部会研修会	8月2～3日	吉永中学校など	○全体研修(蔵書点検について) ○連絡・情報交換	15名	
	国語部会研修会並びに読書感想文審査	小学校の部	9月5日(火)	吉永小学校	○各校の読書指導情報交換、読書感想文の審査と反省	10名
		中学校の部	9月4日(月)	吉永中学校	○各校の読書指導情報交換、読書感想文の審査と反省	5名
	第5回 司書部会研修会	9月14日(木)	日生東小学校	○全体研修 ○連絡・情報交換 ○部会に分かれての活動	15名	
	第6回 司書部会研修会	10月17～23日	三石小学校	○授業公開 ○意見交換 ○情報交換	15名	
	第7回 司書部会研修会	12月25日(月)	伊部小学校	○全体研修 ○連絡・情報交換 ○部会に分かれての活動	14名	
	第8回 司書部会研修会	2月20日(火)	日生中学校	○全体研修 ○連絡・情報交換 ○部会に分かれての活動		
※会場で「など」と書いてある場合は、ブロック開催。3日間、3カ所に分かれて開催しました。						
反省と課題 (読書感想文審査会より) 小学校 ・中学年の指定図書が、難易度が高いと思われた。 中学校 ・「あの花が咲く丘で君とまた出会えたら」の感想文が多かった。 (司書部会より) 新採2年目の人が多く、授業や蔵書点検の方法がわからない人多かったため、15名の司書を3ブロックに分け、授業を公開したり、共同で蔵書点検を行った。ICTの活用について、個人差があるため、次年度は研修を行ってきたい。						
瀬戸内	瀬戸内支部読書感想文審査会	令和5年9月14日(水)	瀬戸内市立牛窓北小学校	読書感想文支部審査並びに研修	17名	
	反省と課題 審査前に、担当学年の課題図書、指定図書を読んでおいてもらい、審査基準を共有した上で審査にあたった。審査経験のある教員と初めての教員を組み合わせで担当を決めたことで、教員にとっても勉強になった。					
玉野	・玉野市学校図書館協議会総会及び研修会	6月29日(木)	玉野市立後閑小学校	・令和4年度支部事業・決算等報告 ・令和5年度支部事業・予算等計画 ・読書感想文コンクール実施計画	23名	
	・司書研修会	7月26日(水)	オンライン	・実践発表 ・全体講座	23名	
		8月21日(月)	玉中学校	・ICT活用研修(実践編)	23名	
				・ICTを活用した図書館活動についての報告	23名	
	・青少年読書感想文コンクール 支部審査会及び研修会	(小学校)	9月12日(火)	玉野市立後閑小学校	・小学校低・中・高学年で各級ごとに審査	17名
		(中学校)	9月12日(火)	玉野市立玉中学校	・中学校各級ごとに審査	12名
反省と課題 ・読書感想文コンクールの審査や、そのために必要な研修は効果的に実施できている。また、学校司書研修会については、司書の資質能力の向上に寄与している。今年度も、学校DXの流れを受けて研修をオンライン実施で行うことが多く、効率的に行うことができた。						
加賀郡	・第1回研修所	9月12日(火)	大和小学校	・読書感想文の書き方指導等についての研修 ・読書感想文加賀支部出品作品の審査	11名	
	反省と課題 ・研修会では、感想文の書き方の研修や読書感想文の審査会など、充実した活動ができた。					

支部名	実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加人数
倉敷	学校図書館協議会第1回理事会	6月16日(金)	倉敷市立中島小学校	協議	28名
	学校図書館協議会総会	6月29日(木)	書面開催	協議	105名
	学校図書館協議会第2回理事会	7月21日(金)	倉敷市立中島小学校	協議	31名
	岡山県学校図書館研究大会(高梁・新見大会)	8月18日(金)	高梁総合文化会館	研修	
	読書感想文コンクール児島地区審査(小)	8月31日(木)	倉敷市立琴浦西小学校	読書感想文審査	13名
	読書感想文コンクール倉敷地区審査(小)	9月1日(金)	倉敷市立中庄小・西阿知小学校	読書感想文審査	27名
	読書感想文コンクール玉島地区審査(小)	9月1日(金)	倉敷市立玉島小学校	読書感想文審査	13名
	読書感想文コンクール真備・船穂地区審査(小)	9月4日(月)	倉敷市立川辺小学校	読書感想文審査	10名
	読書感想文コンクール水島地区審査(小)	9月7日(木)	倉敷市立連島神亀小学校	読書感想文審査	13名
	読書感想文コンクール倉敷支部中央審査(中)	9月12日(火)	ライフパーク倉敷	読書感想文審査	29名
	読書感想文コンクール倉敷支部中央審査(小)	9月14日(木)	倉敷市立琴浦西小学校	読書感想文審査	30名
	学校図書館協議会第3回理事会	2月6日(火)	倉敷市立中島小学校	協議	28名
	反省と課題	<p>総会は、昨年度と同様に書面開催としたが、特段大きな問題はなかった。研修会については、金銭的な問題もあって、県の研修の参加に代えて行うことにしたが、司書教諭と図書館教育担当の教諭と一緒に研修する場を設けてほしいという声もあった。来年度からも、行事の精選を行い、必要なことを必要な範囲で開催できるように、引き続き協議を進めていきたい。読書感想文コンクールと読書感想文集については、業務がとても多いので、小中で業務を分担する方向で協議を進めている。読書感想文コンクールの作品を返却しないことや読書感想文集1冊ずつに領収書がつくことなど、業務が軽減されるように改善されていてよかった。</p>			
浅口	図書館教育研究部夏期研修会	8月18日(金)	高梁総合文化会館 高梁市文化交流館	午前：講演会 講師 一般社団法人ビブリオバトル協会 ビブリオバトル普及委員会理事 兼 関西・中国地区代表 益井博史氏。講演演題は、「ビブリオバトルが拓く読書とコミュニケーションの可能性」 午後：分科会	7名
		9月8日(金)	里庄町立里庄東小学校	浅口支部読書感想文審査会	24名
反省と課題	<p>夏の研究会では、一般社団法人ビブリオバトル協会 ビブリオバトル普及委員会理事 兼 関西・中国地区代表 益井博史先生の講演を聞いた。講演演題は、「ビブリオバトルが拓く読書とコミュニケーションの可能性」だった。ビブリオバトルとは、本を紹介するコミュニケーションゲームである。「人を通して本を知る。本を通して人を知る」をキャッチコピーに全国に広がっている。参加者が面白いと思った本を持って集まり、1人5分間で本を紹介する。それぞれの紹介の後にはディスカッションを行い、全ての発表が終了した後に1番読みたかった本を投票するものである。実際に体験してみると、初めての経験で5分間も説明するのは長く感じたが、他の人の発表を聞いていると様々なジャンルの本を知ることができ、読みたい本が見つかり楽しかった。初めは短い時間で行ってみたい、教員や司書が見本を見せたりすることで、学校でも実践してみたいと思った。その日の午後は分科会に分かれて各校の実践を聞いた。「心をつなぐ絵本」では、中学校での実践や高梁市と新見市の図書館での取り組みを聞いた。絵本は幼い子や小学生が読むものと思われがちだが、中学校では絵本を通してSDGsについて考える取り組みを行っていて、SDGsの各目標に沿った絵本を紹介していただいた。各図書館の紹介では、季節に応じた様々なイベントや環境作りを紹介していただいた。学校現場でも活かそうな取り組みがたくさんあったので、参考にしたいと思った。夏休み明けには、読書感想文コンクールを行った。審査後の目録作成などに関連して、支部審査に向けての各校での準備の方法などが話題にあがった。</p>				
笠岡	読書感想文コンクール支部審査会	9月13日(水)	笠岡市立陶山小学校	○岡山県読書感想文コンクールの支部審査	18名
	反省と課題	<p>・笠岡市教育研修所図書館教育部員は、研修の一環として8月18日に高梁で行われた「岡山県学校図書館研究大会」へ参加した。 ・読書感想文コンクールの支部審査については、9月13日(水)に実施した。</p>			
小田	小田郡学校図書館協議会(小学校)	5月2日(火)	矢掛町立矢掛小学校	・役員選出 ・今年度の年間計画について	9名
	小田郡学校図書館協議会総会並びに感想文審査会	9月11日(月)	矢掛町立山田小学校	・令和4年度事業報告 ・令和5年度事業計画 ・予算決算報告 ・読書感想文の支部審査会	11名
反省と課題	<p>○例年同様の活動を行い、各校の読書推進に関わる取組が共有できた。 ○読書感想文集配布まで個人注文票の管理を各校で徹底する。</p>				
井原	読書感想文支部審査	9月11日(月)	井原市立荏原小学校	・令和5年度の活動計画についての協議 ・井原市学校図書館協議会の役員紹介 ・支部審査会 小学校低学年の部 小学校中学年の部 小学校高学年の部 中学校の部	20名
		9月下旬 ～10月上旬	各校	・支部審査会での特選・入選の児童の表彰	
		9月22日(金)		・読書感想文集の注文とりまとめ → 県事務局に申し込み	
		1月15日(月)		・読書感想文集・県出品の賞状等を各校に配付	
		1月下旬	各校	・県審査会での優秀賞・入選・佳作児童の表彰	
反省と課題	<p>・岡山県の応募票を使うことや、応募票の添付の仕方、類別の間違ひ等、出品に際して不十分な学校があった。より確実に周知できるようにする必要がある。 ・審査会で担当する学年を事前に伝えていたので、課題図書・指定図書を読むなどの準備をしていただくことができた。</p>				

支部名	実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加人数
総社	図書館教育班会				
	第1回図書館教育班会	5月12日(金)	維新小学校	年間活動計画の作成	13名
	第2回図書館教育班会	6月23日(金)	総社市図書館	市図書館との連携・情報交換	12名
	第3回図書館教育班会	8月2日(水)	阿曾小学校	新刊を含む児童書等の選書会	12名
	第4回図書館教育班会	9月12日(火)	維新小学校	岡山県青少年読書感想文コンクール総社支部審査会	20名
	学校司書部会				
	臨時司書部会①	7月20日(木)	維新小学校	義務教育学校開校に向けての資料整理、情報交換	12名
	第1回学校司書部会	7月26日(水)	昭和小学校	“義務教育学校開校に向けての資料整理、司書部会総会オンライン参加司書の実務についての協議、情報交換”	12名
	臨時司書部会②	7月27日(木)	昭和中学校	義務教育学校開校に向けての資料整理、情報交換	12名
	第2回学校司書部会	8月2日(水)	阿曾小学校	司書業務マニュアル改訂についての検討、寄贈図書について、情報交換	12名
	第3回学校司書部会	12月7日(木)	維新小学校	司書業務マニュアル改訂についての検討、図書バーコードについての協議	12名
第4回学校司書部会	1月25日(木)	維新小学校	今年度の反省、来年度の計画	12名	
<p>反省と課題</p> <p>図書館教育班会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総社市図書館と情報交換を行い、連携を図ることができた。 ・読書感想文コンクールには多くの児童・生徒の応募があり、厳正なる審査によって入賞作品を選出することができた。 <p>司書部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務マニュアル改訂を年間通して検討し、学校図書館システムを有効に活用できるよう研修を継続している。 ・オンラインにより司書研究協議会・学校図書館協議会司書部会総会に全員参加し、取り組みについて視聴することができた。 ・児童生徒の読書活動推進のため、情報交換や研修に努めた。 ・来年度も年4回は司書部会を行い、各校の連携を深め、有意義な研修を行っていきたい。 					
高梁	図書館教育部会研修会	6月29日(木)	高梁市文化交流館	○年間計画の作成・読書感想文コンクールについての説明	20名
	第55回岡山県学校図書館研究大会 高梁・新見大会	8月18日(金)	高梁総合文化会館 高梁市文化交流館	○高梁市で開催される研究大会に参加し、各自の見聞を広め、自校で活用する。	19名
	読書感想文コンクール審査会及び研修会	9月13日(水)	高梁市図書館	○読書感想文コンクール審査 ○協議 ・部会ごとの情報交換等(図書館教育について) ・今年度の取り組みの反省について	23名
<p>反省と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回研修会は県協議会からの読書感想文コンクール等に関する指示伝達を中心に行った。コンクールへの積極的参加を呼びかけるとともに、校内審査のあり方や提出される出品目録の記入について、県協議会からの指示をもとに各校へ依頼をした。本年度は6月中旬に第1回目の研修会を開催することができたので、夏期休業中の課題として早めに通知することができ、よかった。次年度も6月中旬には開催できるようにしたい。 ・第2回研修会は第55回岡山県学校図書館研究大会「高梁・新見大会」に参加した。2年に1度の開催であり、県下様々な校種からの図書館教育に関する研究報告を聞くことができた。高梁市だけでなく、いろいろな学校で行われてきた研究のあり方を聞くことができ、これからの自校の取り組みに参考になることも多かった。 ・第3回研修会は読書感想文コンクールの審査会も兼ねた。 ・第1回研修会において読書感想文コンクールについての様々な事項を丁寧に確認することで校内審査のあり方や書類の提出が適切になされるようになった。 ・第1回研修会時に審査の担当学年を決めておいた。そのため、夏休み中に課題図書や指定図書を読んで審査に望むことができた。また各校での事前審査の基準を明確にしたことで、審査に耐えうる作品が出され、小中学校どちらの審査時間が大幅に短縮された。来年度もそうに取り組みたい。 ・部会ごとの小グループでの情報交換の時間を取ったことで、各校の実践を和気あいあい話し合うことができた。 					
新見	第1回新見市学校図書館教育担当者研修会	6月29日(木)	阿新教育会館	本年度の活動計画、読書感想文コンクールの概要説明、予算案の説明、第55回岡山県学校図書館研究大会(高梁・新見大会)の概要説明	18名
	新見市読書感想文支部審査	9月12日(火)	阿新教育会館	読書感想文コンクール支部審査会	22名
	新見市読書感想文集の原稿作成	12月	各校	新見市読書感想文支部審査会で特選、準特選に入った生徒の作品をパソコンでデータ打ちをする	
	新見市読書感想文集の原稿校正	1月	事務局	新見市読書感想文集の編集及び発行	
	新見市読書感想文集の配布	2月20日(火)	事務局	新見市読書感想文集(第43集)を各小中学校・入賞者・図書館等に配付	
	第2回新見市学校図書館教育担当者研修会	2月20日(火)	阿新教育会館	本年度の活動の反省、読書感想文集について、決算報告	
	新見市学校図書館協議会会計監査会	3月	阿新教育会館	新見市学校図書館協議会会計の監査	

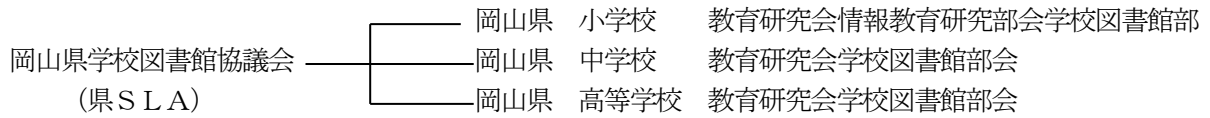
支部名	実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加人数
津山	津山市学校図書館協議会第1回総会・研修会	7月6日(木)	リモート開催 (院庄小学校：役員のみ)	R4年度活動報告・決算報告、R5年度組織体制・活動計画・予算計画についての協議	30名
	津山市読書感想文コンクール審査会	9月5日(火)	津山市役所東庁舎	津山市内の児童・生徒の読書感想文の審査	39名
	津山市学校図書館協議会第2回総会・研修会	1月30日(火)	津山市役所東庁舎	活動の総括 来年度の研究活動の方向性や組織体制についての協議	38名
	反省と課題 ・事務局長と事務局次長の仕事の分担などを行い、昨年度同様、事務と会計を分担して行った。 ・仕事内容の精選を行うため、データで要項を送り、各校での印刷に変更した。 ・読書感想文に関する応募規定についての徹底を図るため、2回目の総会は集合研修を行った。次年度以降も引継ぎを徹底していく。				
苫田	総会・研修会	6月15日(木)	鏡野町中央公民館	事業・決算報告、事業・予算計画、読書感想文コンクールについての説明、各校の図書館利用について交流	8名
	読書感想文審査会	9月12日(火)	鏡野町中央公民館	小・中読書感想文の審査	10名
	研修会	2月27日(火)	鏡野町中央公民館	今年度の事業反省、読書感想文審査についての反省、各校の読書活動推進の取組を情報交流	8名
	反省と課題 例年通り読書感想文の審査と各校の取り組みの交流が行えた。(2月28日に今年度の事業反省をする予定。) 読書感想文の県審査の締め切りが年々早くなり、支部審査が日程的にきびしい。				
勝田	勝田郡学校図書館協議会総会、研修会	7月3日(月)	奈義小学校	令和4年度事業報告並びに決算報告 令和5年度事業計画並びに予算案 県学校図書館協議会報告 読書感想文審査会について	6名
	勝田郡読書感想文審査会(小学校)	9月5日(火)	奈義小学校	読書感想文審査	4名
	勝田郡読書感想文審査会(中学校)	9月12日(火)	奈義中学校	読書感想文審査	6名
	反省と課題 感想文審査会を目標に、各校で感想文に取り組むことが出来た。 課題図書、指定図書の出品が少なかった。型にはまり、広がりを持たせられない作品が目立った。 感想画は、教育課程の位置づけなども明確になっていない学校が多く、十分取り組むことが出来ていない。				
久米	第1回岡山県事務局長会及び研修会	6月15日(木)	ライフパーク倉敷	事務連絡	1名
	久米郡学校図書館協議会総会・研修会	7月11日(火)	美咲町立榎原中学校	令和4年度事業報告・決算報告、令和5年度事業計画・予算案審議、読書感想文の応募についての確認	11名
	久米郡読書感想文審査会	9月14日(火)	美咲町役場	読書感想文支部審査(小学校、中学校)	11名
	第2回岡山県事務局長会及び研修会	1月11日(水)	ライフパーク倉敷	事務連絡	1名
真庭	総会及び研修会	7月3日(月)	久世公民館	前年度事業報告、今年度役員選出、事業計画、予算案協議	28名
	読書感想文支部審査会	9月5日(火)	久世公民館	読書感想文の審査、県出品作品の決定、文集注文についての説明	27名
	反省と課題 真庭支部では、事務局の仕事ブロックごとの持ち回りとしている。今年度は、担当ブロックが変わった年だったため、仕事内容の把握が難しい部分はあったが、ブロック内で担当校(審査会・会計)を分担し、効率的に作業を進めることができた。 各校の担当者や読書感想文の出品者名簿はサーバー内のファイルに直接入力してもらうようにし、効率的に事務局業務を行えた。 賞状は、データを活用して各学校で印刷してもらっているため、事務局の負担・各校での記名の負担が減っている。				
美作・西栗倉	支部総会・研修会	7月7日(金)	書面開催		
	支部読書感想文審査会・研修会	9月14日(木)	美作市立美作中学校	読書感想文審査(中学校の部)	6名
	支部読書感想文審査会・研修会	9月19日(火)	美作市作東総合支所	読書感想文審査(小学校の部)	8名
	反省と課題 ・支部総会は、コロナ禍のため引き続き書面開催としたが、問題なく年間事業を実施することができた。 ・読書感想文の応募が減少傾向にある。				

支部名	実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加人数
備前	第1回 役員会・総会	6月20日(火)	就実高等学校	(1) 令和4年度事業報告・決算報告について (2) 令和5年度役員案・活動方針・事業計画案・予算案について (3) 役員校、事務局校・読書感想文審査校・研究協議会発表校のローテーションについて	(役員会) 20名 (総会) 29名
	図書委員会交流会	8月2日(水)	岡山県立図書館	でーれーBOOKS10周年記念を記念して、過去のでーれーBOOKSの大賞本を読んで意見を交わす。読書ボードの作成。	
	第1回 研究会	8月7日(月)	就実高等学校	(1) 研究発表：「後楽館高校のメディアセンター」～LC委員会と国語科～ (発表者：岡山市立後楽館高等学校 教諭 由良智子 先生)	22名
	第1回 司書部会研修会(合同研修会)	4月27日(木)	岡山県立図書館	(2) 講演：上田秋成「吉備津の釜」を読む (講師：岡山理科大学教育学部 中等教育学科 教授 荻原桂子 先生)	
	第2回 司書部会研修会(合同研修会)	7月4日(火)	岡山県立図書館	(1) 協議・連絡 (2) 学校図書館基本情報アンケートとりまとめ	27名
	第3回 司書部会研修会(合同研修会)	12月5日(火)	大安寺中等教育学校	(1) 協議・連絡	24名
	第3回 司書部会研修会	2月22日(木)	和気閑谷高校	(1) 協議・連絡 (2) 協議・連絡 (3) プチ紹介 (4) 研修「和気閑谷高校図書館の見直し」	25名
<p>反省と課題</p> <p>総会では令和8年～13年の備前支部事務局校の決定という重要な協議事項ありましたが、先生方のご理解とご協力を得て無事担当校が決定致しましたことに感謝の意を申し上げます。また、夏休みには図書委員会交流会が開催され、生徒が本を通して活発に意見を交わし交流を深める機会を持つことができました。今後も生徒にとって有意義な場を多く提供していただけるような図書館活動を継続していきたいと願います。</p>					
備中	第1回(兼第1回合同)司書部会研修会	4月27日(木)	岡山県立図書館	(1) 協議、連絡、報告	28名
	第1回役員会	6月20日(火)	水島工業高校	(2) サポート校交流 (1) 令和4年度事業報告及び会計報告 (2) 令和5年度事業計画(案)及び予算(案)	4名
	総会・研究協議会	6月20日(火)	水島工業高校	(3) 支部総会・研究協議会について (1) 報告事項 ・令和4年度事業報告及び会計報告 ・令和4・5年度役員紹介 (2) 協議事項 ・令和5年度事業計画(案)及び予算(案) (3) 実践報告「図書館利用を促すために～貸出冊数増大作戦～」 高松農業高校 教諭 藤森紀子 氏	32名
	第2回(兼第2回合同)司書部会研修会	7月4日(火)	岡山県立図書館	(4) 研究協議及び情報交換 (1) 協議、連絡、報告 (2) 合同研修「学校図書館でのICT活用について」 講師：企画部総務企画班 指導主事 坂本智幸 氏	22名
	第3回司書部会研修会	11月22日(水)	倉敷高校	(3) 合同連絡 (4) サポート校交流 (1) 協議、連絡、報告 (2) 研修「除籍の実践」倉敷高校図書館の現状と課題 研修「レイアウト研修」仮図書館のレイアウトを考えてみる！	23名
	第4回(兼第3回合同)司書部会研修会	12月5日(火)	大安寺中等教育学校	(3) サポート校交流 (1) 協議、連絡、報告 (2) 研修(備中のみ)「水工ビブリオバトルの紹介 - オンラインを活用して -」 (3) 合同研修「ICT活用研修 Google ワークスペースを使った展示テーマ決定と紹介スライド作成」	22名
	第2回役員会	3月	書面開催	(4) サポート校交流 (1) 令和5年度事業報告及び会計報告 (2) 令和6年度支部総会・研究協議会について	
図書委員会交流会	実施せず				
<p>反省と課題</p> <p>○6月の役員会、総会、実践報告及び年間4回の司書部会研修会を何とか無事に実施することができました。 来年度の事務局校にもれなく事務引継ぎを行いたいと考えています。</p>					

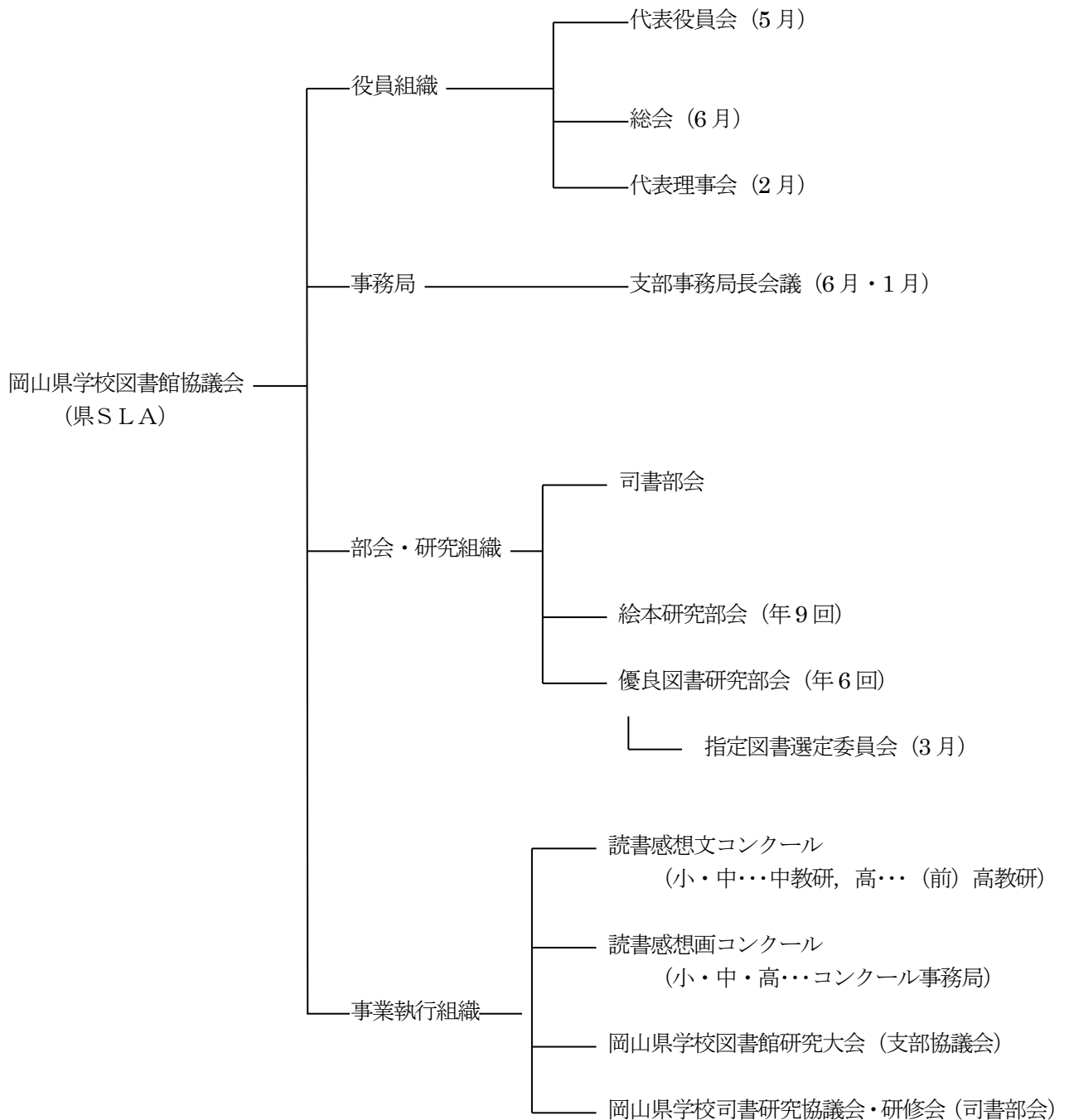
支部名	実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加人数
美作	第1回司書部会研修会（美作支部）	4月27日（木）	岡山県立図書館	令和5年度活動計画、令和5年度美作地区図書委員会交流会について、協議連絡	9名
	第1回美作支部役員会・総会	5月15日（月）	津山高校	令和4年度事業報告、令和4年度会計決算報告、令和5年度事業計画案、令和5年度予算案、令和5年度美作地区図書委員会交流会案について	役員会 7名 総会 11名
	第2回司書部会研修会	7月4日（火）	岡山県立図書館	図書委員会交流会について、協議連絡	9名
	第2回美作支部役員会（美作支部）	7月13日（木）	津山高校	第2回研究協議会の研修内容について、第13回美作地区高校生読後感想文コンクールについて	7名
	図書委員会交流会	8月4日（金）	津山工業高校	(1)各校委員会活動の紹介 (2)グループワーク：アイズブレイク・ブックトーク・図書館クイズ・フリートーク	生徒 27名 教員 18名
	第3回司書部会研修会（美作支部）	12月5日（火）	岡山大安寺中等教育学校	図書委員会交流会の総括、津山市図書館展示について、第4回研修について	8名
	第13回美作地区高校生読後感想文コンクール表彰式	12月12日（火）	津山高校	担当校講評、美作地区高校生読後感想文コンクール表彰、最優秀賞生徒による受賞の言葉	生徒8名 教員 11名
	第2回美作支部総会・研究協議会	12月12日（火）	津山高校	令和6年度事業計画案、第14回美作地区高校生読後感想文コンクールについて、令和6年度図書委員会交流会について、協議連絡 研修：講演「県立図書館による学校図書館の探究活動支援」 「学校支援用図書（学校セット）巡回展示」 講師 久戸瀬瑞季先生（岡山県立図書館 図書館振興課 図書館協力班職員）	11名
	第4回司書部会研修会（美作支部）	2月16日（金）	津山高校	令和5年度活動総括、令和6年度活動計画、令和6年度図書委員会交流会について	9名
<p>反省と課題</p> <p>①図書委員会交流会：今年度は美作地区内の8校・27名の生徒が参加し、津山工業高校で各校の図書館・図書委員会活動の紹介と、グループワークにて、脳内グラフを使っての自己紹介ゲーム、各自持参したおすすめ本とPOPを使ったブックトーク、図書館クイズ、フリートークを行った。参加者からは、事前にPOPを作成しておいたことにより本の紹介にしっかり時間を使ったことや、最初に自己紹介ゲームを取り入れたことで生徒たちが周りと打ち解けやすくなった等の良かった点が挙げられた。また、全体休憩が10分ほどあった方が良かったことや、グループを途中で入れ替えた方がもっと多くの人と交流できたのではないかと意見もあり、これらを来年度に向けた改善点として検討していきたい。委員会交流会で作成した各校の学校紹介と本のPOPは、後日各校図書館で展示を行う際に活用したほか、津山市立図書館での展示に活用した。</p> <p>②支部会研修会：今年度の研修会は久戸瀬 瑞季 先生（岡山県立図書館 図書館振興課 図書館協力班職員）を講師としてお招きし、「県立図書館による学校図書館の探究活動支援」「学校支援用図書（学校セット）巡回展示」というテーマで講演会を実施した。講演では久戸瀬先生が高等学校司書としてご勤務されていた頃の「考える力は読む力から」をキャッチフレーズにした取組を紹介していただき、ネット上の情報とは異なり信頼性の高さという特長をもつ書籍の情報活用能力を探究活動において育成する場面で、岡山県立図書館から様々な支援をしていただける環境が整っていること等を「学校支援用図書（学校セット）」とともにご紹介いただいた。高校図書館が県立図書館から具体的にどのようなサポートをしていただくことが可能なかを詳しく知ることができたとともに、各校の教育課程における教科・科目や進路に関わらず、生徒の学びの基礎には本を読む姿勢の涵養が必要であることを参加者が改めて認識する貴重な機会となった。</p>					

岡山県学校図書館協議会組織図

1. 構成組織



2. 組織図



岡山県学校図書館協議会規約

第1条 本会は、岡山県学校図書館協議会という。

第2条 本会は、事務局を会長在任の学校内におく。

第3条 本会は、県下小・中・高等学校の学校図書館相互の連絡とその充実、発展をはかり、本県教育の推進に寄与することを目的とする。

第4条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 県下学校図書館相互の連絡提携、情報交換
- (2) 学校図書館運営に関する研究会、講習会、展示会等の開催。
- (3) 学校図書館教育の研究
- (4) 読書指導の研究
- (5) 学校司書の研修と身分待遇の改善
- (6) 絵本・優良図書の研究
- (7) その他

2. 第1項(2)の事業の推進、及び(3)(4)の事業の援助を行うため、研究部会を設ける。

研究部会は、特に必要のない場合、適宜活動を休止することができる。

3. 第1項(5)の事業を行うため、司書部会を設ける。司書部会関することは、別に規定を定める。

4. 第1項(6)の事業を行うため、絵本研究部会、優良図書研究部会、ニューメディア研究部会、読書ノート研究部会を設ける。それぞれの部会で必要な規定は、別に定める。

第5条 本会は、岡山県小学校教育研究会情報教育部会学校図書館部（以下「小教研」と略す）・岡山県中学校教育研究会学校図書館部会（以下「中教研」と略す）・岡山県高等学校教育研究会学校図書館部会（以下「高教研」と略す）によって構成する。

第6条 本会加入の小・中学校においては郡市ごとに、高等学校においては地区（備前・備中・美作）ごとに、支部協議会を設ける。

2. 支部協議会に会長を置く。また、必要に応じて副会長を置くことができる。

3. 支部協議会に支部事務局を設け、支部事務局長を置く。

4. 本会は、年に数回、支部事務局長会議を開催し、必要な書類の配布、事務連絡事項の伝達を行う。

5. その他、支部協議会に関する規定は、各支部協議会で適宜決める。

第7条 本会は、社団法人全国学校図書館協議会の賛助会員となる。

2. 本会の会長及び事務局長は、社団法人全国学校図書館協議会の正会員となる。

第8条 本会に次の役員を置き、任期は2カ年とする。ただし再任を妨げない。また、補欠役員の任期は、前任者の残留期間とする。

- (1) 会長
- (2) 副会長
- (3) 代表理事
- (4) 理事
- (5) 監事

2. 役員の選出は次のとおりとする。

(1) 会長は、小教研情報教育部会副部会長（学校図書館部担当）、中教研・高教研の各部会長のなかから選出される。

(2) 副会長は、会長にならなかった小教研情報教育部会副部会長（学校図書館部担当）、中教研・高教研の各部会長をもって充てる。

(3) 代表理事は、小教研情報教育部会副部会長（学校図書館部担当）・常任理事（学校図書館部担当）・事務局員（学校図書館部担当1名）、中教研・高教研の各部会長・副部会長・事務局長、及び司書部会長をもって充てる。

(4) 理事は、代表理事及び各支部協議会の会長・副会長をもって充てる。

(5) 監事は、原則として事務局校の所在する支部内で、小教研・中教研から1名、高教研から1名選出する。

3. 本会の最小限の役員組織として、代表役員会を設ける。代表役員は、小教研情報教育部会副部会長（学校図書館部担当）・事務局員（学校図書館部担当1名）、中教研・高教研の各部会長・事務局長、及び司書部会長をもって充てる。

4. 以上の役員については、年度当初の新旧代表役員会で選出され、総会において承認を得るものとする。但し、代表理事については、総会において決定・承認されるものとする。

第9条 役員の任務は次のとおりとする。

- (1) 会長は、会を代表し会務を総括する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき

は会務を代理する。

- (3) 代表理事は、会務の重要事項を協議し決定する。また、代表役員会で仮決定した事項について協議し、決定する。
- (4) 理事は、会務全般について協議し、代表理事会での決定を承認する。また、年度当初に新旧代表役員会で仮決定した事項を決定する。
- (5) 監事は、会計を監査する。
- (6) 代表役員は、本会の最小限の役員組織として、緊急を要する事項について協議し、仮決定する。年度当初に開催する新旧代表役員会では、役員の選出等重要事項を仮決定する。

第10条 本会の、総会・代表理事会・代表役員会は毎年1回以上開催する。総会は、理事会をもってこれに代えることができる。

第11条 事務局には、事務局長、事務局次長、参事、事務職員等をおき、会務を処理する。

第12条 本会は、役員会の推薦により顧問・参与・賛助員を置くことができる。

第13条 本会の経費は、構成団体の拠出金・寄付金をもってあてる。

第14条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(規約施行は昭和25年から[推定])

… (中略) …

平成 8年 6月 4日 一部改正

平成11年 6月 3日 一部改正

平成14年 5月30日 一部改正

平成17年 6月 2日 一部改正

岡山県学校図書館協議会司書部会会則

第1条 この部会は、岡山県学校図書館協議会規約第4条に基づいて設けられ、岡山県学校図書館協議会司書部会と称する。

第2条 この部会の事務局は、岡山県学校図書館協議会会長の在任の学校内におく。

第3条 この部会は、岡山県下の学校司書の資質向上と専門性の追求をめざし、学校図書館の充実と発展に資することを目的とする。

第4条 この部会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 「研究協議会」と「研修会」の計画立案・開催と参加
- (2) 各地域で行われる学校図書館研修会に対する情報提供や意見交流
- (3) 優れた実践の掘り起こしと、研究実践を広めるための活動
- (4) 学校司書の配置増と安定した雇用の確立のための活動

第5条 この部会は、岡山県下の小・中・高等学校図書館に勤務する学校司書及びこれに準ずる者を会員として構成する。

第6条 この部会は、次の役員をおく。

- (1) 部会長 1名
部会を代表し、部会の運営にあたる。また、会計事務も担当する。
- (2) 副部会長 若干名
部会長を補佐し、部会長に事故のあるときにはこれに代わる。
- (3) 理事 若干名
理事会を構成し、会務の重要事項を審議する。また、地区を代表して、部会との連絡と地区の運営にあたる。
- (4) 監事 2名
会計事務を監査し、総会に報告する。

第7条 役員は、次の方法によって定める。

- (1) 役員は、総会において選出する。任期途中において退任のときは部会長が理事にはからって補充し、総会の承認を得る。
- (2) 部会長は、会員全体の中から選出する。
- (3) 副部会長は、校種別、地区別に選出する。
- (4) 理事は、校種別、地区別に選出する。
- (5) 監事は、原則として理事経験者の中から選出する。

第8条 役員の任期は2年とし、再任は妨げない。欠員によって補充された役員の任期は、前役員の残任期間とする。

第9条 この部会は、年1回総会を開催する。開催が困難な場合には、会員の出席に替わる方法として臨時理事会兼総会を開催することができる。なお、理事会が必要と認めた場合、又は会員の3分の1以上から請求のあった時は、臨時総会を開催しなければならない。

2. 総会は、会員の過半数の出席（オンラインによる出席・出席者に議決を委任した会員を含む）をもって成立する。議事は出席者の過半数で決するものとする。
3. 総会に附議しなければならない事項は次のとおりとする。
 - ① 会則の改正
 - ② 役員を選出
 - ③ 事業計画並びに事業報告
 - ④ 予算案並びに決算の承認
 - ⑤ その他重要な事項

第10条 この部会は年3回理事会を開催する。なお、

理事の3分の1以上から請求のあった時は、臨時理事会を開催しなければならない。

2. 理事会は、役員過半数の出席をもって成立する。
3. 理事会では、各地区の情勢報告・研修報告などの情報交換を行うほか、総会の運営に関する事項、総会に附議する議題、研究協議会・研修会に関する事項等、司書部会に関する重要な事項を審議する。
4. 理事会は、次の事項について決議することができる。緊急を要する場合で会議開催が不可能な場合は、文書持ち回りにより決議を行う。ただし、これらの決定については、次の総会において承認を得なければならない。
 - ① 役員補充
 - ② その他司書部会として緊急に決定が必要な事項

第11条 本会の経費は、会費・助成金及びその他の収入をもって充てる。ただし、当分の間会費は徴収しない。なお、研修に要する実費は、そのつど徴収することができる。

2. 会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

本会則は、昭和50年4月1日から施行する。

平成15年7月24日 一部改正

平成18年7月26日 一部改正

令和4年7月28日 一部改正

岡山県学校図書館協議会 73年の歩み（略年表）

西暦	年号	研究録	全国大会	中国大会	県大会	県大会講師	主要行事など	会 長	副 会 長
1950	昭和25		(1) 東京				県SLA発足	尾野作次郎 (備山)	大土井淑夫 (清輝) 下山 練 (津山中) 神崎
1951	26		(2) 京都					尾野作次郎 (備山)	大土井淑夫 (清輝) 下山 練 (津山中) 神崎
1952	27		(3) 小田原			総会 久米井 東	「岡山学校図書館」 創刊9月20日付	尾野作次郎 (備山)	大土井淑夫 (清輝) 下山 練 (津山中) 神崎
1953	28		(4) 大分			総会 坂本 一郎	司書講習 (岡山大学)	尾野作次郎 (備山)	大土井淑夫 (清輝) 下山 練 (津山中) 神崎
1954	29		(5) 仙台			総会 尾野作次郎	司書教諭講習 (大阪学芸大学) 9名参加	尾野作次郎 (備山)	大土井淑夫 (清輝) 神崎 水島 進 (三井中)
1955	30		(6) 徳島		(1) 西大寺, 倉敷, 津山	松尾弥太郎	学校図書館去施行	尾野作次郎 (備山)	
1956	31		(7) 宇都宮		(2) 岡山, 倉敷, 津山	佐野 友彦		内藤 一人 (備山)	
1957	32		(8) 札幌		(3) 岡山	松尾 佐野 鈴木 芦谷		内藤 一人 (備山)	
1958	33		(9) 岡山		(4) 岡山	深川 恒喜		内藤 一人 (備山)	
1959	34		(10) 東京	(1) 萩	(5) 和気, 吉備, 英田	臼井 吉見 佐野 友彦	司書教諭講習 (岡山大学) 10周年	内藤 一人 (備山)	
1960	35		(11) 大阪		(6) 児島, 笠岡, 苫田	鈴木 英二		内藤 一人 (備山)	高祖 忠直 室山 三義 三谷 堅 (津一)
1961	36		(12) 新潟	(2) 広島	(7) 赤磐, 上房, 久米	松尾弥太郎		内藤 一人 (備山)	高祖 忠直 (深 柁) 室山 三義 (倉 東) 宮野辰右衛門
1962	37		(13) 松山		(8) 岡山	裏田 武夫		内藤 一人 (備山)	
1963	38			(3) 松江	(9) 玉野, 井原, 真庭	鈴木 英二 松尾弥太郎		内藤 一人 (備山)	柴部 武士 宮野辰右衛門 (岡北) 井上弥太郎
1964	39		(14) 成田		(10) 御津, 浅口, 勝山 (奈義)	佐野 友彦		内藤 一人 (備山)	三島 一夫 (深 柁) 神原 利一 (桑 田) 川部 濟
1965	40	2号		(4) 倉吉	(11) 児島, 新見, 阿哲, 英田	松尾弥太郎		内藤 一人 (備山)	
1966	41	3号	(15) 鹿児島		(12) 津山	松尾弥太郎		川端 清 (大安寺)	三島 一夫 (深 柁) 神原 利一 (桑 田)
1967	42	4号		(5) 津山	(13) 津山	木村 毅		川端 清 (大安寺)	三島 一夫 (深 柁) 神原 利一 (桑 田)
1968	43	5号	(16) 名古屋		(14) 矢掛	野地 潤家		川端 清 (大安寺)	三島 一夫 (深 柁) 梶原良太郎 (岡北)
1969	44	6号		(6) 防府	(15) 岡山	相島 敏夫	20周年	板谷 二郎 (大安寺)	林 幸彦 (出 石) 広江 利夫 (操 南)
1970	45	7号	(17) 山形		(16) 成羽			板谷 二郎 (大安寺)	林 幸彦 (出 石) 広江 利夫 (操 南)
1971	46	8号		(7) 大竹	(17) 津山	岩田 斉		桐野 事雄 (大安寺)	小林 元 (財 田) 広江 利夫 (操 南)
1972	47	9号	(18) 兵庫		(18) 玉野	芦谷 清		桐野 事雄 (大安寺)	小林 元 (旭 東) 広江 利夫 (丸之内)
1973	48	10号		(8) 出雲	(19) 邑久	石森 延男		桐野 事雄 (大安寺)	小林 元 (旭 東) 坪井 隆二 (石井中)
1974	49	11号	(19) 東京		(20) 北房	谷川 徹三		金谷 達夫 (大安寺)	小林 元 (旭 東) 坪井 隆二 (石井中)
1975	50	12号		(9) 鳥取	(21) 苫田	滑川 道夫		金谷 達夫 (大安寺)	赤木 庚 (妹尾小) 坪井 隆二 (石井中)
1976	51	13号	(20) 岐阜		(22) 倉敷	戸川 幸夫		金谷 達夫 (大安寺)	赤木 庚 (妹尾小) 松本 猛 (京山中)
1977	52	14号		(10) 倉敷	(23) 倉敷	外山滋比古		金谷 達夫 (大安寺)	赤木 庚 (妹尾小) 松本 猛 (京山中)

県教委担当者	事務局長	事務局次長	小 教 研	中 教 研	高 教 研	県司書大会	県司書部会長
岩本 俊一 近藤 節正 江口 浩三	大原 利貞						
	大原 利貞						
岩本 俊一 近藤 節正 江口 浩三	大原 利貞	影山 剛					
岩本 俊一 江口 浩三	大原 利貞	影山 剛 内田 暁郎					
竹内亥三美	大原 利貞	影山 剛 内田 暁郎					
	大原 利貞						
	大原 利貞						
	大原 利貞						
	大原 利貞					(1) 岡山県学校 司書会総会	
	大原 利貞					(2) 岡山県学校 司書会総会	
竹内亥三美 富山大三郎	大原 利貞					(3) 岡山県学校 司書会総会	
竹内亥三美 富山大三郎	大原 利貞					(4) 岡山県学校 司書会総会	
竹内亥三美 富山大三郎	大原 利貞					(5) 岡山県学校 司書会総会	
竹内亥三美 富山大三郎	大原 利貞	藤森 賢一				(6) 岡山県学校 司書会総会	
	大原 利貞	鳥越 義親	三島 一夫	神原 利一	川端 清 佐藤 稔		
	大熊 圭祐	鳥越 義親	三島 一夫	神原 利一	川端 清 佐藤 稔		
蒲田 欣二 竹内 虎男	清野 有司	幾田 尚	三島 一夫	神原 利一	川端 清 佐藤 稔		
蒲田 欣二 平坂 俱通	清野 有司	幾田 尚	三島 一夫 渡辺 武士	神原 利一 川合 四良	川端 清 佐藤 稔		
蒲田 欣二 平坂 俱通	清野 有司	幾田 尚	三島 一夫 渡辺 武士	梶原良太郎 末平 雅夫	川端 清 佐藤 稔		
蒲田 欣二 平坂 俱通	清野 有司	幾田 尚	林 幸彦 渡辺 武士	広江 利夫 相谷 道夫	板谷 二郎 横田 恭治		
蒲田 欣二 新海 章吾	幾田 尚	木村 祐造	林 幸彦 渡辺 武士	広江 利夫 吉富 進	板谷 二郎 横田 恭治	(1) 岡 山	安原 みどり
蒲田 欣二 新海 章吾	幾田 尚	木村 祐造	小林 元 渡辺 武士	広江 利夫 高尾 弘志	桐野 事雄 高田 哲夫	(2) 玉 野	安原 みどり
蒲田 欣二 新海 章吾	幾田 尚	木村 祐造	小林 元 渡辺 武士	広江 利夫 高尾 弘志	桐野 事雄 田口 重俊	(3) 倉 敷	安原 みどり
山崎 蕃 新海 章吾	木村 祐造	堤 護	小林 元 渡辺 武士	坪井 隆二 黒住 郁雄	桐野 事雄 田口 重俊	(4) 津 山	安原 みどり
山崎 蕃 新海 章吾	木村 祐造	松本 功	小林 元 渡辺 武士	坪井 隆二 黒住 郁雄	金谷 達夫 田口 重俊	(5) 岡 山	安原 みどり
山崎 蕃 新海 章吾	木村 祐造	松本 功	赤木 庚 渡辺 武士	坪井 隆二 黒住 郁雄	金谷 達夫 河村 金二	(6) 玉 野	安原 みどり
須和田秀一 山崎 蕃	木村 祐造	松本 功	赤木 庚 山名 徳則	松本 猛 相谷 道男	金谷 達夫 徳永 優	(7) 倉 敷	片山 峰子
須和田秀一 瀬原 康宏	木村 祐造	松本 功	赤木 庚 山名 徳則	松本 猛 末平 雅夫	金谷 達夫 徳永 優	(8) 津 山	片山 峰子

西曆	年号	研究録	全国大会	中国大会	県大会	県大会講師	主要行事など	会 長	副 会 長
1978	昭和53	15号	(21)佐賀		(24)瀬戸	三木 卓	表彰式(感想文)	村井 董直(芳泉)	赤木 庚(妹尾小) 松本 猛(京山中)
1979	54	16号		(11)下関	(25)岡山	金田 春彦	30周年	村井 董直(芳泉)	新井 正志(牧石小) 森安 萌(旭中)
1980	55	17号	(22)盛岡		(26)新見	松島 栄一		宮脇 律(芳泉)	石井 汎(芳泉小) 森安 萌(旭中)
1981	56	18号		(12)広島	(27)久米	斉藤 実		宮脇 律(芳泉)	石井 汎(芳泉小) 森安 萌(旭中)
1982	57	19号	(23)伊勢		(28)和気	灰谷健次郎		宮脇 律(芳泉)	野上 賢二(竜之口小) 森安 萌(旭中)
1983	58	20号		(13)浜田	(29)総社	松谷みよ子		宮脇 律(芳泉)	野上 賢二(竜之口小) 森安 萌(福南中)
1984	59	21号	(24)山口		(30)高梁	高木 敏子		宮脇 律(芳泉)	渡辺 武士(庄内小) 森安 萌(福南中)
1985	60	22号		(14)高梁	(31)高梁(兼中国)	松山 善三		榎野 昭輝(芳泉)	渡辺 武士(庄内小) 黒住 郁雄(足守中)
1986	61	23号	(25)那覇		(32)真庭	倉本 聰		西田 譲(一宮)	森川 鐵也(馬屋上小) 村田 重臣(石井中)
1987	62	24号		(15)米子	(33)笠岡	宮城まり子		西田 譲(一宮)	古川 正治(加茂小) 岡島 将(興隆中)
1988	63	25号	(26)札幌		(34)備前	矢口 高雄		杉山 定雄(一宮)	田代 尚夫(平島小) 岡島 将(興隆中)
1989	平成元	26号		(16)宇部	(35)岡山	河合 雅雄	40周年	幾田 尚(西大寺)	長安早智子(芳泉小) 岡島 将(福南中)
1990	2	27号	(27)松江		(36)新見	柴田 一		幾田 尚(西大寺)	森谷 浩平(野谷小) 岡島 将(福南中)
1991	3	28号		(17)広島	(37)勝田	岩崎 京子	第11回学校司書全国研究集会(於岡山)	坪井 克己(西大寺)	森谷 浩平(野谷小) 岡島 将(福南中)
1992	4	29号	(28)福岡		(38)倉敷	福田襄之介		皆木 徹典(和気閑谷)	森谷 浩平(野谷小) 大月 要(丸之内中)
1993	5	30号		(18)益田	(39)御津	宮地 暢夫		皆木 徹典(和気閑谷)	長崎 幡子(加茂小) 平田嬉世子(中山中)
1994	6	31号	(29)秋田		(40)川上	富永 一朗		中野 宏(倉敷古城池)	瀬戸川 宏(宇野小) 白神 幸世(京山中)
1995	7	32号		(19)鳥取				中野 宏(倉敷古城池)	瀬戸川 宏(宇野小) 赤木 久児(藤田中)
1996	8	33号	(30)埼玉		(41)英田	あさのあつこ		中野 宏(倉敷古城池)	亀高 嘉彦(深砥小) 赤木 久児(藤田中)
1997	9	34号		(20)岡山	(42)総社, 真備(兼中国)	阿刀田 高		大山 晋右(倉敷古城池)	亀高 嘉彦(深砥小) 赤木 久児(藤田中)
1998	10	35号	(31)金沢					鴨頭 脩(倉敷青陵)	菱川 成雄(高島小) 香川 璋子(高松中)
1999	11	36号		(21)岩国	(43)岡山	塩見 昇	50周年	鴨頭 脩(倉敷青陵)	菱川 成雄(高島小) 香川 璋子(高松中)
2000	12	37号	(32)奈良		(44)新見・阿哲	灰谷健次郎		川井章三郎(倉敷南)	菱川 成雄(城東台小) 香川 璋子(高松中)
2001	13	38号		(22)広島				山根 健(倉敷南)	菱川 成雄(城東台小) 綿谷 佳男(灘崎中)
2002	14	39号	(33)横浜		(45)津山	後藤 竜二		大嶋 俊宣(倉敷天城)	料治 育子(伊島小) 綿谷 佳男(灘崎中)
2003	15	40号		(23)出雲				大嶋 俊宣(倉敷天城)	料治 育子(伊島小) 綿谷 佳男(福南中)
2004	16	41号	(34)徳島		(46)井原, 後月	佐々木正美		高槻 健(倉敷古城池)	坪井由紀子(政田小) 綿谷 佳男(福南中)
2005	17	42号		(24)倉吉				高槻 健(倉敷古城池)	坪井由紀子(政田小) 綿谷 佳男(福南中)

県教委担当者	事務局長	事務局次長	小 教 研	中 教 研	高 教 研	県 司 書 大 会	県 司 書 部 会 長
国塩 輝昭	山吹 堯敏	萩原 一之	赤木 庚 山名 徳則	森安 萌 相谷 道男	村井 董 岡 直博	(9) 岡 山	片山 峰子
国塩 輝昭	山吹 堯敏	柴岡 元	新井 正志 三宅 敏文	森安 萌 相谷 道男	村井 董 岡 直博	(10) 玉 野	片山 峰子
国塩 輝昭	山吹 堯敏	柴岡 元	石井 汎 福岡トキコ	森安 萌 相谷 道男	宮脇 律 岡 博	(11) 倉 敷	片山 峰子
国塩 輝昭	山吹 堯敏	萩原 一之	石井 汎 福岡トキコ	森安 萌 相谷 道男	宮脇 律 大熊 圭祐	(12) 津 山	片山 峰子
国塩 輝昭	萩原 一之	白井 省三	野上 賢二 横山 定子	森安 萌 瀬戸川 宏	宮脇 律 大熊 圭祐	(13) 岡 山	守屋千冬子
国塩 輝昭	萩原 一之	白井 省三	野上 賢二 横山 定子	森安 萌 瀬戸川 宏	宮脇 律 大熊 圭祐	(14) 玉 野	守屋千冬子
国塩 輝昭	萩原 一之	白井 省三	渡辺 武士 福岡トキコ	森安 萌 瀬戸川 宏	宮脇 律 山吹 堯敏	(15) 倉 敷	守屋千冬子
国塩 輝昭	萩原 一之	山吹 堯敏	渡辺 武士 福岡トキコ	黒住 有雄 瀬戸川 宏	横野 昭輝 山吹 堯敏	(16) 津 山	守屋千冬子
岸田 崇	萩原 一之	佐伯 誠一	森川 鏡也 福岡トキコ	村田 重臣 白河左江子	西田 讓 服部 亮介	(17) 岡 山	安達 正恵
岸田 崇	松本 正志	藤本 善三	古川 正治 岡本 敏枝	岡島 将 白河左江子	西田 讓 服部 亮介	(18) 玉 野	安達 正恵
岸田 崇	松本 正志	竹井 千庫	田代 尚夫 岡本 敏枝	岡島 将 白河左江子	杉山 定雄 服部 亮介	(19) 倉 敷	青江 暉子
広本 勝裕	門野 茂蔵	田中 修二	長安早智子 藤田 真実	岡島 将 白河左江子	幾田 尚 川原 昇	(20) 津 山	青江 暉子
広本 勝裕	波多野研爾	田中 修二	森谷 浩平 藤田 真実	岡島 将 白河左江子	幾田 尚 川原 昇	(21) 岡 山	青江 暉子
広本 勝裕	田中 修二	石井 寛子	森谷 浩平 松浦 順子	岡島 将 坪井 敬也	坪井 克己 八木 和一	(22) 玉 野	青江 暉子
広本 勝裕	小山 輝基	阪田 俊介	森谷 浩平 岡崎 明宏	大月 要 坪井 敬也	皆木 徹典 若狭 真司	(23) 倉 敷	青江 暉子
広本 勝裕	小山 輝基	後藤 信介	長崎 幡子 島田 保弘	平田嬉世子 岡田 敏雄	皆木 徹典 若狭 真司	(24) 津 山	青江 暉子
広本 勝裕	国富 浩二	畝岡 睦美	瀬戸川 宏 石川真佐代	白神 幸昌 岡田 敏雄 門田 正充	中野 宏 佐守 謙一	(25) 岡 山	守屋千冬子
広本 勝裕	田辺 宏海	国富 浩二	瀬戸川 宏 石川真佐代	赤木 久見 門田 正充	中野 宏 佐守 謙一	(26) 玉 野	守屋千冬子
藤井 洋一	田辺 宏海	福尾浩一郎	亀高 嘉彦 石川真佐代	赤木 久見 門田 正充 利侍 雅行	中野 宏 佐守 謙一	(27) 倉 敷	佐藤 菊江
藤井 洋一	田辺 宏海	福尾浩一郎	亀高 嘉彦 石川真佐代	赤木 久見 門田 正充 利侍 雅行	大山 晋右 佐守 謙一	(28) 津 山	佐藤 菊江
桑木 一郎	小山 秀樹	三棹 章弘	菱川 成雄 宮田あけみ	香川 璋子 原 清行	鴨頭 脩 森本 脩篤	(29) 岡 山	小野 暁子
桑木 一郎	小山 秀樹	三棹 章弘	菱川 成雄 宮田あけみ	香川 璋子 原 清行	鴨頭 脩 森本 脩篤	(30) 玉 野	小野 暁子
桑木 一郎	石井 美鶴	樋口 貴子	菱川 成雄 宮田あけみ	香川 璋子 利侍 原 清行	川井 章三郎 尾崎 寛子	(31) 倉 敷	小野 暁子 鹿野 恵子
大滝 一登	石井 美鶴	樋口 貴子	菱川 成雄 宮田あけみ	綿谷 佳男 利侍 原 清行	山根 健 細川 直子	(32) 津 山	鹿野 恵子
大滝 一登	有松 幹雄	行藤 潔	料治 育子 原野おより	綿谷 佳男 利侍 海野 行晴	大嶋 俊宣 三宅 博己	(33) 岡 山	鹿野 恵子 岡本言二郎
大滝 一登	三宅 博己	深見 啓行	料治 育子 高橋おより	綿谷 佳男 海野 利侍 行晴	大嶋 俊宣 深見 啓行	(34) 玉 野	岡本言二郎
大滝 一登	山内 邦世	(な し)	坪井由紀子 大亀 光子	綿谷 佳男 利侍 有友 雅人	高槻 健 有本登貴子	(35) 倉 敷	岡本言二郎 宇原 郁世
大滝 一登	山内 邦世	(な し)	坪井由紀子 大亀 光子	綿谷 佳男 利侍 有友 雅人	高槻 健 有本登貴子	研修会(倉敷)	宇原 郁世

西暦	年号	研究録	全国大会	中国大会	県大会	県大会講師	主要行事など	会 長	副 会 長
2006	18	43号	(35)郡山					山下 滋 (倉敷青陵)	岡本 利和 (御南中) 竹内 裕子 (可児小)
2007	19	44号		(25)岡山	(47)岡山	高畑 勲		永井 裕 (倉敷青陵)	河本 雅明 (建部中) 竹内 裕子 (可児小)
2008	20	45号	(36)熊本					高木二三男 (倉敷南)	木多 敏江 (御津中) 東馬 英子 (中山小)
2009	21	46号		(26)下関	(48)鏡野	今江 祥智		赤木 圭介 (倉敷南)	木多 敏江 (御津中) 東馬 英子 (中山小)
2010	22	47号	(37)静岡					坂江 誠 (倉敷天城)	山本 健五 (御津中) 岸 律子 (御南小)
2011	23	48号		(27)広島	(49)矢掛	赤木かみ子		岡野 貴司 (倉敷天城)	山本 健五 (御津中) 岸 律子 (御南小)
2012	24	49号	(38)米子					中桐 哲則 (玉島)	山本 健五 (御津中) 服部由利子 (古都小)
2013	25	50号		(28)浜田	(50)吉備中央	田澤 雄作		國府島貞司 (玉島)	大川 泰栄 (上道中) 服部由利子 (東壽小)
2014	26	51号	(39)甲府					藤井 健平 (総社)	大塚 仁 (甲浦小) 藤井 隆 (上道中)
2015	27	52号		(29)倉敷	(51)倉敷	小嶋 光言		藤井 健平 (総社)	大塚 仁 (甲浦小) 藤井 隆 (上道中)
2016	28	53号	(40)神戸					福田 邦男 (倉敷古城地)	高田 恵子 (馬屋下小) 門田 正充 (岡輝中)
2017	29	54号		(30)米子	(52)津山	平田オリザ		福田 邦男 (倉敷古城地)	高田 恵子 (馬屋下小) 門田 正充 (岡輝中)
2018	30	55号	(41)富山高岡					土家 槇夫 (倉敷青陵)	山本 義人 (千種小) 藤井 隆 (高松中)
2019	1	56号		(31)山口	(53)岡山	村中 李衣		高槻 信博 (倉敷青陵)	山本 義人 (千種小) 水畑 法生 (岡北中)
2020	2	57号	(42)高松 誌上開催					鳥越 信行 (倉敷南)	森 淳 (岡南小) 青木 伸晃 (操南中)
2021	3	58号		(32)広島	(54)真庭 誌面開催	湯澤 美紀		鳥越 信行 (倉敷南)	森 淳 (岡南小) 青木 伸晃 (操南中)
2022	4	59号	(43)オンライ ン開催					藤井 省吾 (倉敷天城)	松原 弘 (高島小) 中田 隆宏 (妹尾中)
2023	5	60号		(33)益田	(55)高梁新見	益井 博史		藤井 省吾 (倉敷天城)	藤原 陽子 (高島小) 川原 悦子 (光南台中)

県教委担当者	事務局長	事務局次長	小 教 研	中 教 研	高 教 研	県司書大会	県司書部会長
大滝 一登 高尾 敏也	石本 正樹	(なし)	竹内 裕子 有松 裕子	岡本 利和 利守 雅行 有友 雅人	山下 滋 井上 裕子	(36) 岡 山	景山 美香 坂口 桂藏
高尾 敏也	石本 正樹	(なし)	竹内 裕子 有松 裕子	河本 雅明 利守 雅行 有友 雅人	永井 裕 井上 裕子	研修会 (津山)	坂口 桂藏
高尾 敏也 武田 祥江	志部 雄介	(なし)	東馬 英子 丸橋 弘子	木多 敏江 有友 雅人 利守 雅行	高木 二三男 藤田 京子	(37) 倉 敷	坂口 桂藏 池田 桂子
武田 祥江 田中 善美	永山 整	(なし)	東馬 英子 丸橋 弘子	木多 敏江 有友 雅人 利守 雅行	赤木 圭介 藤田 京子	研修会 (玉野)	池田 桂子
武田 祥江 田中 善美	佐藤 敦子	(なし)	岸 律子 安藤 弘子	山本 健五 宗實恵利子 利守 雅行	坂江 誠 小野 恭子	(38) 岡 山	池田 桂子 二宮野陽子
乙倉 寛 藤本真砂子	佐藤 敦子	(なし)	岸 律子 安藤 弘子	山本 健五 宗實恵利子 利守 雅行	岡野 貴司 小野 恭子	研修会 (岡山)	二宮野陽子
乙倉 寛 石本康一郎	佐藤 俊英	(なし)	服部由利子 二宮 典子	山本 健五 宗實恵利子 利守 雅行	中桐 哲則 尾崎 寛子	(39) 倉 敷	二宮野陽子 米倉 弥生
乙倉 寛 藤本真砂子	佐藤 俊英	(なし)	服部由利子 二宮 典子	大川 泰榮 宗實恵利子 利守 雅行	國府島 貞司 尾崎 寛子	研修会 (津山)	米倉 弥生
辻田 詔子 須藤由美江	大野 里江子	(なし)	大塚 仁 中村さつき 小川 薫	藤井 隆 岡田恵利子 利守 雅行	藤井 健平 柳井 典子	(40) 岡 山	米倉 弥生 原 弘江
森川 悟 新田 治彦	大野 里江子	(なし)	大塚 仁 中村さつき 小川 薫	藤井 隆 永守 志帆 金田 益美	藤井 健平 柳井 典子	研修会 (玉野)	原 弘江
岡本 里香 三宅 健夫	末吉 美加子	(なし)	高田 恵子 山根 和佳子 勝浦 由子	門田 正充 永守 志帆 金田 益美	福田 邦男 児島 真理子	(41) 倉 敷	原 弘江 西村 百代
岡本 里香 江尻 寛正	末吉 美加子	(なし)	高田 恵子 山根 和佳子 勝浦 由子	門田 正充 仁科 恵子 佐伯 詩帆	福田 邦男 太田 淳	研修会 (倉敷)	西村 百代
岡本 里香 江尻 寛正	王尾 宏造	(なし)	山本 義人 太田 淑子 酒本 薫	藤井 隆 仁科 恵子 佐伯 詩帆	土家 横夫 大口 千恵子	(42) 岡 山	西村 百代 成本 由貴
丹原 知哉 江尻 寛正	王尾 宏造	(なし)	山本 義人 太田 淑子 酒本 薫	水畑 法生 笹野 恭代 海野 行晴	高槻 信博 大口 千恵子	研修会 (岡山)	成本 由貴
丹原 知哉 江尻 寛正	平松 玲子	(なし)	森 淳 早川 夕加里 武田 綾子	青木 伸晃 笹野 恭代 海野 行晴	鳥越 信行 高橋 綾美	(43) 倉 敷	成本 由貴 大橋 昭子
大塚 崇史 後藤 直之	平松 玲子	(なし)	森 淳 早川 夕加里 武田 綾子	青木 伸晃 池田 麻子 湯浅 憲一	鳥越 信行 高橋 綾美	研修会 (津山)	大橋 昭子
大塚 崇史 大賀 俊彦	坂井 昌子	(なし)	松原 弘 古田 彩歌 本間 早紀 副島 佳成子	中田 隆宏 池田 麻子 湯浅 憲一	藤井 省吾 小野 貴子	(44) 岡 山	大橋 昭子 大西 結美
大塚 崇史 田中 雅輝	坂井 昌子	(なし)	藤原 陽子 高角 彩歌 副島 佳成子	川原 悦子 門田 琴音 田中 杏佳	藤井 省吾 小野 貴子	研修会 (玉野)	大西 結美

岡山県学校図書館研究集録（第 60 号）

発行日 2024 年 3 月 31 日

発行所 岡山県学校図書館協議会事務局
〒710-0132
岡山県倉敷市藤戸町天城 269
岡山県立倉敷天城高等学校内
TEL (086)428-1251

発行責任者 岡山県学校図書館協議会会長
藤井 省吾